

コガネグモ科 Araneidae

典型的な円網を張る造網性のクモである。ただし、トリノフンダマシ属のように二次的に変化した独特の円網を張るものや、イセキグモ属のように円網が変化し、投げ縄式の捕虫を行なうもの、オニグモモドキ属のように糸にぶら下がって直接つかみ取りで捕虫を行うものなどもある。

8眼が2列に並んでおり(図415)、眼の内部にはカヌー型タペータム(図415-ct)がある。側眼は中眼から離れている(図415)。額は中眼域の長さよりも狭い。上顎の前後牙堤には歯がある。雄触肢には根部(radix)、側杯葉(paracymbium, 図419-pc)がある。歩脚は3爪で上爪には歯がある(図418-uc)。第4脚跗節末端には鋸状の刺毛(図418-ac)と支持毛(sustentaculum, 図418-ss)がある。書肺は1対で、書肺蓋板の表面には数本から10本程度のしわがある(図416)。間疣がある(図417-cl)。左右の後疣には多数の葡萄状腺のほか、2本の管状腺およ

び1本の鞭状腺とそれに寄り添うように配置している1対の集合腺(図417-ag)がある(観察するにはかなり拡大する必要がある)。

コガネグモ科の姉妹群はジョロウグモ科、アシナガグモ科、サラグモ科、ヨリメグモ科、ユアギグモ科、コツブグモ科、カラカラグモ科ならびにヒメグモ科などからなる単系統群と推定されており、それらとコガネグモ科を合わせた単系統群はコガネグモ上科として位置づけられている。コガネグモ上科の中でのコガネグモ科の共有派生形質は、雄触肢の杯葉が内側に位置していること(図419-cy)、雄触肢に根部(radix)があること、後中眼に幅の狭いタペータムがあること(図415-ct)である。

世界中に分布し、およそ170属2,900種が記載されている。日本からは130種以上が記録されているが、それらの中には正体不明のものや誤同定の疑いがあるものも含まれている。本書では、執筆時点で日本産の標本を確認することのできた31属122種を扱っている。

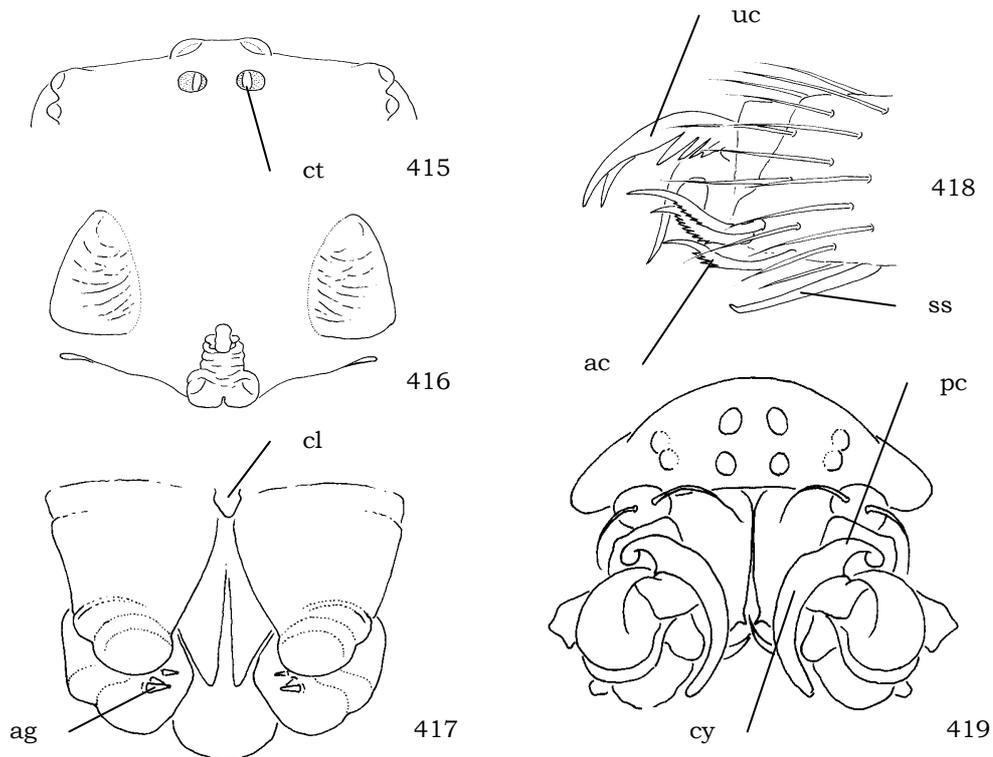


図 415-419. ニワオニグモ *Araneus diadematus*. 415, 眼域 eye region ; 416, 書肺および外雌器 lung book and epigynum ; 417, 出糸突起 spinnerets ; 418, 第4脚跗節末端 apical part of tarsus IV ; 419, 雄頭胸部正面 male, frontal view. ac, 鋸状の棘毛 accessory claw setae ; ag, 集合腺 aggregate gland spigots ; cl, 間疣 colulus ; ct, カヌー型タペータム canoe tapetum ; cy, 杯葉 cymbium ; pc, 側杯葉 paracymbium ; ss, 指示毛 sustentaculum ; uc, 上爪 upper claw.

カナエグモ属

Chorizopes

頭部が肥大し、側眼は中眼域から大きく離れている(図 420)。

本属は他のコガネグモ科すべてからなる単系統群の姉妹群と推定されている。本属のクモ類は網を張らない。

世界では約 20 種が旧北区、東洋区、マダガスカルから記録されている。日本には次の 1 種のみが生息する。

ヤマトカナエグモ

Chorizopes nipponicus Yaginuma 1963

(図 1, 420-422)

体長: 雌 3.5~4.5mm, 雄 2.5~3.0mm. 背甲は暗褐色, 腹部は暗褐色で明褐色の斑紋がある。腹部後端には 4 つの突起がある。上顎の前牙堤に刺毛状の細長い歯が多数ある。外見上はヨツデゴミグモに似るが、頭部がヘルメット状に肥大していることで容易に見分けられる。また、本種は網を張らない。分布: 日本(本州, 四国, 九州), 韓国, 中国。

オヒキグモ属

Arachnura

腹部前方は二股に分かれ、後方は尾状に伸びている。雌雄の体長の差が大きく、雄の体長は雌の 1/5 から 1/20 程度しかない。

本属のクモ類は、コガネグモ属やスズミグモ属からなる単系統群と姉妹群関係にあると推定されている。共有派生形質は雄触肢の膝節に剛毛がないことである。

世界では 13 種が旧北区、東洋区、オーストラリア区、エチオピア区から記録されている。日本に確実に生息するのは次の 2 種である。

キジロオヒキグモ

Arachnura logio Yaginuma 1956

(図 2-3, 423-424)

体長: 雌 25.0~28.0mm, 雄 1.5~2.0mm. 雌: 背甲は明褐色。腹部上面は黄白色。本種の雌の形態はキオヒキグモに似るが、次の点で区別できる。キオヒキグモの体色は黄色、褐色、あるいは黒褐色とかなり変異が多いが、本種のような黄白色の個体はいない。成体になったときの体長が大きく違っていて、本種では 20mm を超え 30mm 近くに達するのに対してキオヒキグモでは 15mm 未満である。また、現在までのところキオヒキグモは八重山諸島からのみ発見されており、キジロオヒキグモは八重山諸島

からは未発見である。雄: 背甲は黒褐色。腹部は楕円形、上面は褐色で暗褐色のこうら状の部分がある。キジロオヒキグモの雄の腹部が丸みを帯びた形態をしているのに対して、キオヒキグモの雄の腹部は後端が後方にとがった形態をしている点で、両者は簡単に見分けられる。本種の雄は卵のう内で成体となって出のうする。分布: 日本(本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島), 台湾, 中国

キオヒキグモ

Arachnura melanura Simon 1867

(図 4-5, 425-427)

体長: 雌 11.0~12.5mm, 雄 1.5~2.0mm. 雌: 背甲は明褐色で褐色の正中線があり、胸部には褐色の縁どりがある。腹部上面の色彩には変異があり、黄色の場合、明褐色の場合、暗褐色の場合がある。腹部後端には上部に 3 つ、下部に 0~2 つの突起がある。雄: 背甲は暗褐色で幅の広い黄色の正中条があり、正中条内には暗褐色の斑点がある。腹部上面は淡褐色で、前方には四角形の暗褐色の斑紋がある。腹部にはたくさんのしわがよって後端上部に 3 つ、下部に 2 つの小さな突起がある。本種とキジロオヒキグモの区別点はキジロオヒキグモの項目に述べたとおり。分布: 日本(八重山諸島), マレーシア, インドネシア, インド, 台湾, 中国。

スズミグモ属

Cyrtophora

目の細かいドーム型(図 15)あるいは皿型(図 10, 18)の網を張る。本属のクモ類の張る網には粘糸がない。雌雄の体長は著しく異なり、雄の体長は雌の 1/3 以下である。

本属はコガネグモ属と姉妹群関係にある。共有派生形質は雄触肢の移精針が先端から見て逆時計回りの方向を向いていること、網の横糸に粘性がないこと、完成した網に足場糸が残っていることである。

世界ではおよそ 35 種が旧北区、東洋区、エチオピア区、新熱帯区から記録されている。日本に確実に生息するのは次の 3 種である。

キヌアミグモ

Cyrtophora exanthematica (Doleschall 1859)

(図 6-10, 428-430)

体長: 雌 9.0~12.0mm, 雄 3.0~4.0mm. 雌: 背甲および腹部上面は赤褐色、褐色、黒褐色の場合がある。腹部上面両側には波打つ白線が縦に走っている。腹部は後方に少し伸び、横に二分して終わる。雄: 背甲、腹部上面ともに黒褐色。腹部後端は横に二分する。本種は雌でも雄でも腹部末端が横に二分

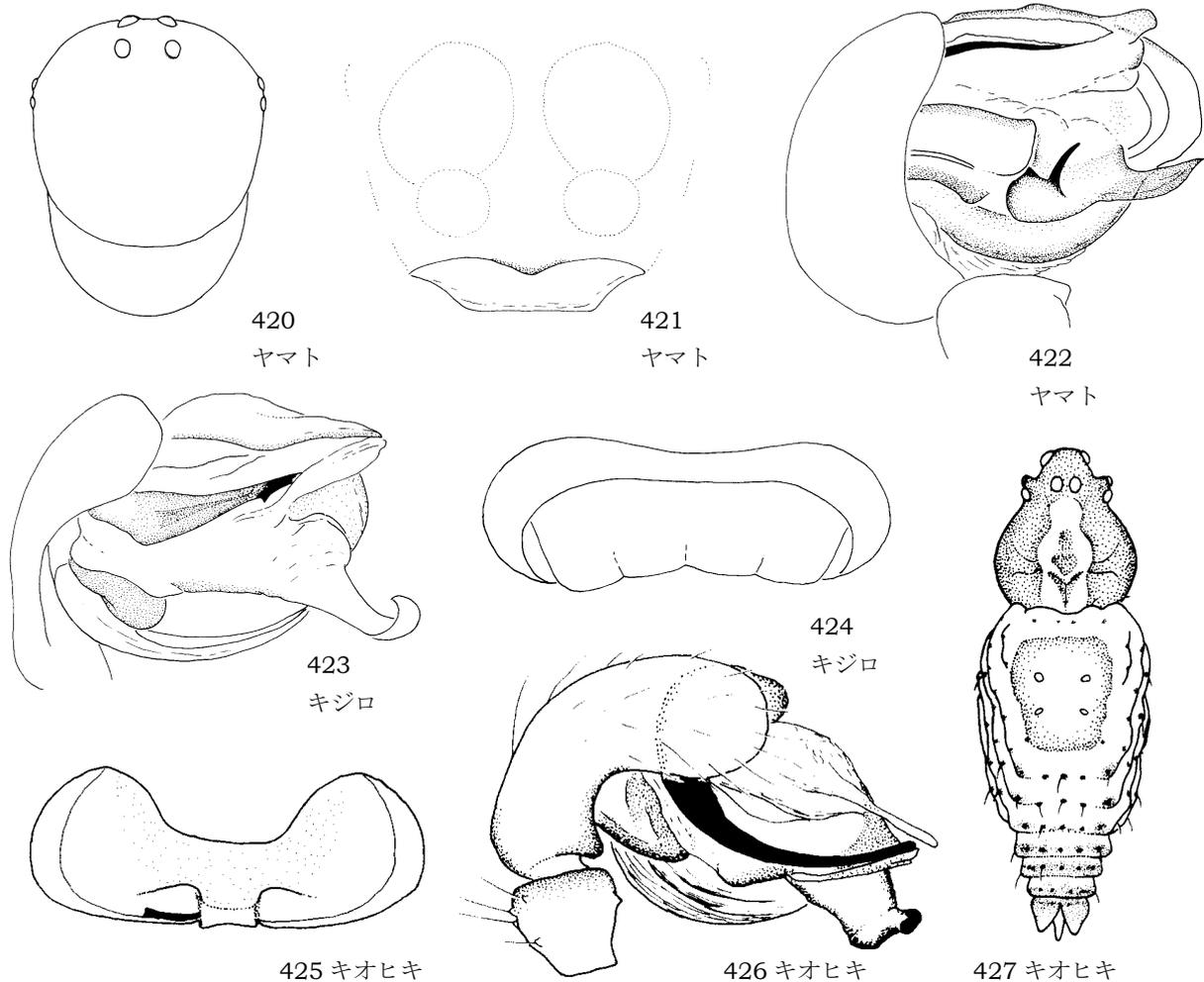


図 420-427. 420-422, ヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus*; 423-424, キジロオヒキグモ *Arachnura logio*; 425-427, キオヒキグモ *Arachnura melanura*. 420, 頭胸部 cephalothorax; 421, 424, 425, 外雌器 epigynum; 422, 423, 426, 雄左触肢 male left palp; 427, 雄 male. (425-427, Tanikawa 1991a より)

する点で同属の他種から容易に見分けられる。本種は上向の皿型の網を張り、クモは網の下面、あるいは網内に置いた木の葉などの下にいる。分布：日本（本州、四国、九州、薩南諸島、奄美諸島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島）、ビルマからフィリピン、ニューギニア、台湾、中国。

スズミグモ

Cyrtophora moluccensis (Doleschall 1857)

(図 11-15, 431-433)

体長：雌 14.0~23.0mm, 雄 3.0~5.0mm. 雌：背甲は褐色から暗褐色。腹部上面は赤褐色や緑褐色で白色の複雑な斑紋がある場合やほぼ一様な赤褐色の場合など色彩変異が多い。腹部上面前方には1対の肩突起がある。雄：雄は雌の体長の1/3より小さいが、色彩斑紋は雌とよく似る。本種は大きなドーム型の網を張る。腹部上面の色彩斑紋にはかなりの変異が見られるが、いずれの場合にも他種とは類

似していないので、同定は容易である。分布：日本（本州、四国、九州、薩南諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、大東諸島、宮古諸島、八重山諸島、小笠原諸島）、インドから台湾、オーストラリア、中国。

ハラビロスズミグモ

Cyrtophora unicolor (Doleschall 1857)

(図 16-18, 434-436)

体長：雌 17~20mm, 雄 3.5~4.5mm. 雌：背甲は赤褐色で頭部は黒褐色となる。腹部上面は暗褐色で前縁は黒褐色、前方には逆ハの字型の明色の線がある。雄：背甲は黒褐色。腹部上面は黒褐色で中央部には明色の縦斑がある。腹部後端にはこぶがある。本種は上向き大きな皿型の網を張る。網の中央には穴があいていて、その上方には枯葉が吊るしてあり、クモは昼間はこぶの中に隠れているが、夜間には網まで下りてきている。本種は網の形態、

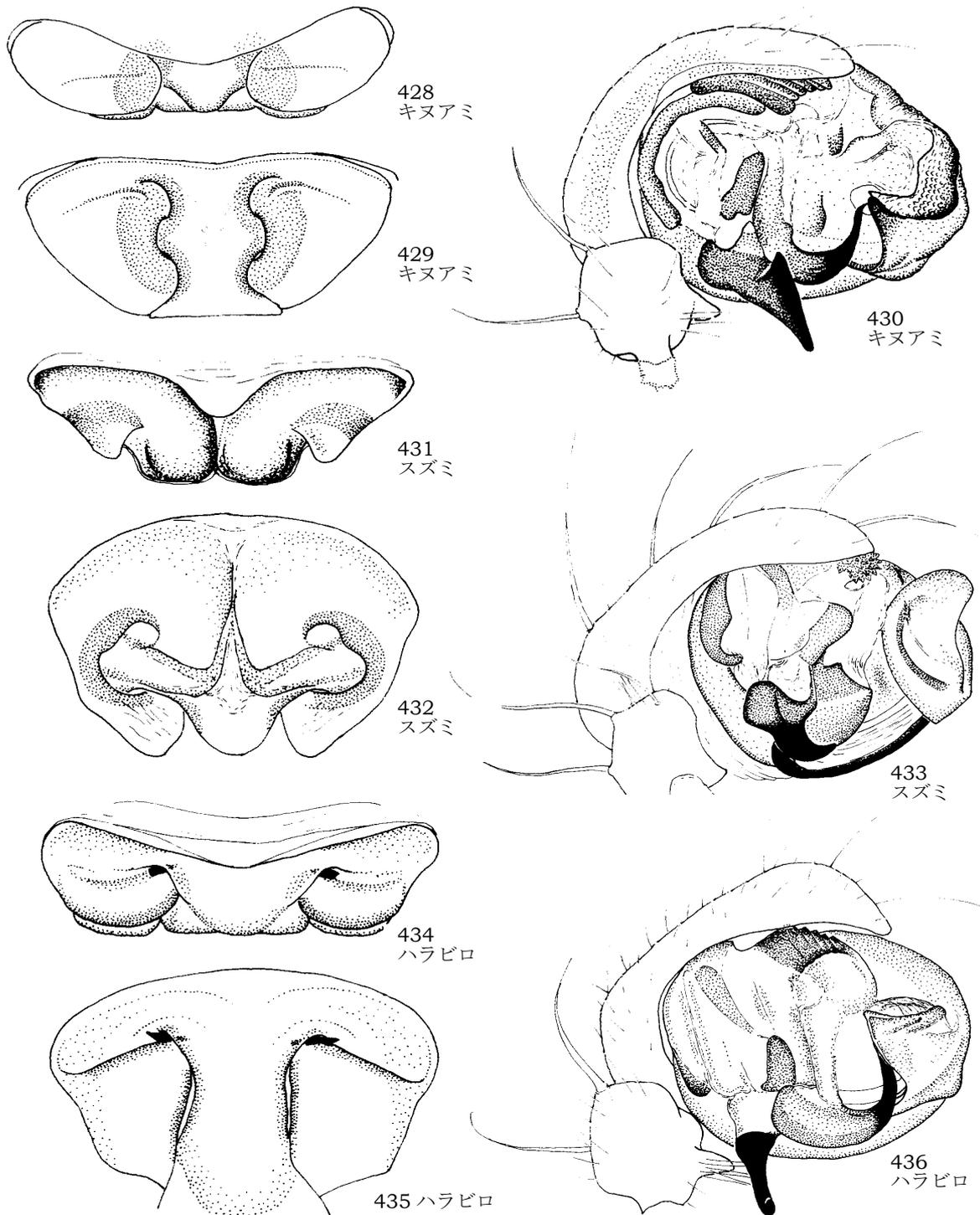


図 428-436. 428-430, キヌアミグモ *Cyrtophora exanthematica*; 431-433, スズミグモ *Cyrtophora moluccensis*; 434-436, ハラビロスズミグモ *Cyrtophora unicolor*. 428, 431, 434, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 429, 432, 435, 同後面 same, posterior; 430, 433, 436, 雄左触肢 male left palp.

体の色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる。
 分布：日本（奄美諸島，沖縄諸島，大東諸島，宮古諸島，八重山諸島），スリランカからフィリピン，オーストラリア，台湾，中国。

コガネグモ属
Argiope

頭胸部の頭部と胸部との区別が他のコガネグモ科のクモ類に比べてはっきりしている。頭部の側縁は平行に近く，胸部の側縁は丸い。背甲はあまり盛り上がり平らである。腹部はやや扁平で五角形に近

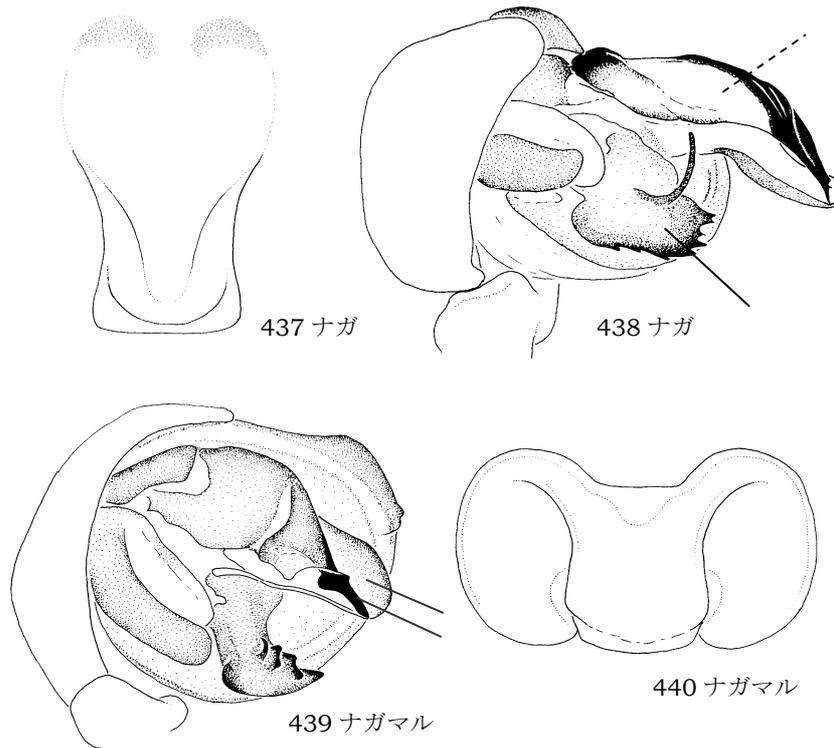


図 437-440. 437-438, ナガコガネグモ *Argiope bruennichi*; 439-440, ナガマルコガネグモ *Argiope aemula*. 437, 440, 外雌器 epigynum; 438-439, 雄左触肢 male left palp.

い場合が多い。後眼列は上から見て前曲している。雄触肢に端部突片がない。雌雄の体長は大きく異なり、雄の体長は雌の 1/2 以下である。

本属はスズミグモ属と姉妹群関係にある。共有派生形質は雄触肢の中部突片の根元に 1 本の糸状の突起物があること、後側眼のカヌー型タペータムが萎縮していること、後眼列が上から見て前曲している (図 442) ことである。

世界中に分布し、およそ 80 種が記載されている。日本には次の 7 種が生息する。

ナガコガネグモ

Argiope bruennichi (Scopoli 1772)

(図 19-23, 437-438)

体長：雌 20.0~25.0mm, 雄 6.0~12.0mm. 雌：背甲は淡褐色で銀色の毛が多数生えている。腹部上面は黄白色または黄色で、黒色の細い横縞模様が多数ある。雄：背甲は明褐色で胸部には暗褐色の縁どりがある。腹部上面は黄白色で褐色の縦向きの斑紋がある。本種は腹部が細長い形をしていることと雌腹部の横縞模様が細かいこと、雄腹部に褐色の V 字状の斑紋があることによって雌雄ともに同属の他種から容易に見分けられる。本種の雄とオオスミコガネグモの雄との区別点は、オオスミコガネグモの項目を参照。分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島), 旧北

区に広く分布。

ナガマルコガネグモ

Argiope aemula (Walckenaer 1841)

(図 24-25, 439-440)

体長：雌 20.0~25.0mm, 雄 4.0~6.0mm. 雌：背甲は淡褐色で銀色の毛が多数生えている。腹部上面は黄白色あるいは黄色で黒色の細い横縞模様が多数ある。本種の雌は、腹部に細かな縞模様があり、丸みを帯びた形態をしていることで、同属の他種の雌から容易に見分けられる。雄：背甲は暗褐色で前方は黒褐色となる。腹部上面は黒褐色で前縁は明褐色となる。コガネグモ属の雄は、ナガコガネグモを除いてみなよく類似しており、外見で同定することは困難である。雄を同定するには触肢器官の形態を照合する必要がある。本種の雄触肢の移精針や指示器は短くて (図 439 棒線部)、他種のように腹側に飛び出しておらず、また、盾 (tegulum) がまるくて大きめなので全体として丸みを帯びた形となっている。分布：日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), インドからフィリピン, 台湾, 中国。

ムシバミコガネグモ

Argiope aetheroides Yin et al. 1989

(図 26, 441-443)

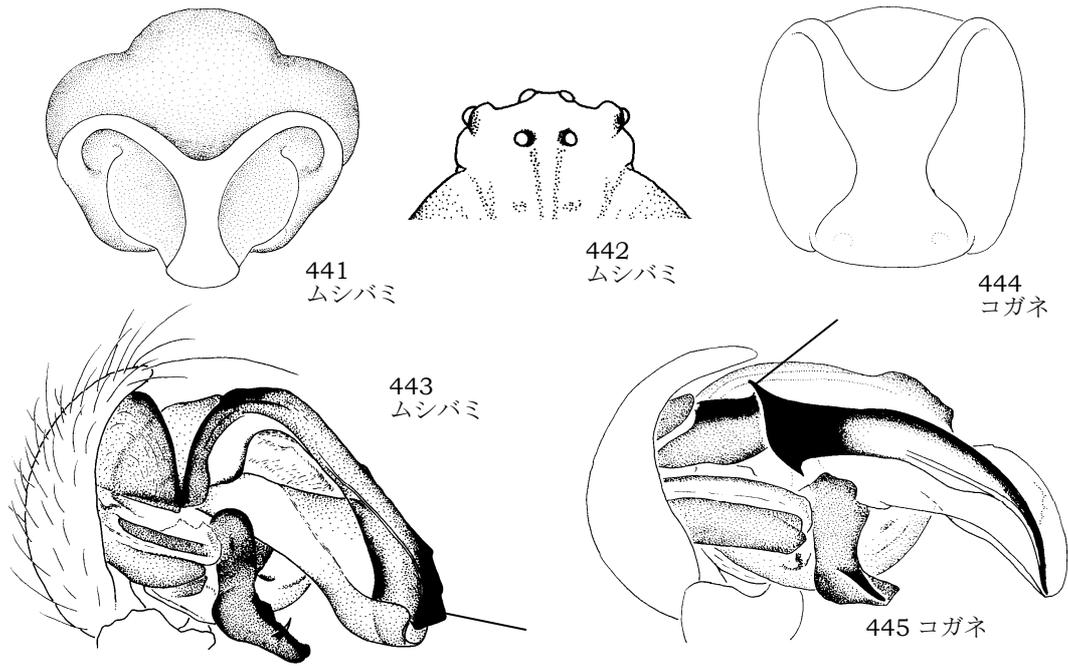


図 441-445. 441-443, ムシバミコガネグモ *Argiope aetheroides*; 444-445, コガネグモ *Argiope amoena*. 441, 444, 外雌器 epigynum; 442, 眼域 eye region; 443, 445, 雄左触肢 male left palp. (441-443, Tanikawa 1994a より)

体長：雌 9.0~18.0mm, 雄 3.5~6.0mm. 雌：背甲は黄色で暗褐色の細かな斑点が多数あり, 銀色の毛が密生している. 腹部上面は白色の地に横向き
の黒色の線, 黒色の帯, 濃橙色の帯があり, 濃色の帯には白斑がある. 腹部後部の側面には多少のこぼこがある. 雌腹部の色彩や斑紋はコガタコガネグモに似る. 本州, 九州では本種の成体サイズはコガタコガネグモよりもずっと大きいので, 体の大きさによってもほぼ正しく同定できる. しかし, 南西諸島のコガタコガネグモはかなり大きくなるので同定には注意が必要である. 正確に同定するには外雌器の形態を確認する必要がある. コガタコガネグモの外雌器の前方には平らな部分があるが(図 448 棒線部), 本種の外雌器にはこのような部分はない. 雄：背甲は淡褐色で暗灰色の斑紋がある. 腹部上面は黄白色で暗灰色の斑点や横向きの斑紋がある. 本種の雄は触肢の移精針の先端がとがらない(図 443 棒線部)ことで同属の他種から見分けられる. 分布：日本(本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 中国.

の雌は腹部上面の斑紋と体が大きいことによって同属の他種から見分けられる. ただし, ムシバミコガネグモや南西諸島産のコガタコガネグモもコガネグモと同じくらいの大きさになるものがある. また, ムシバミコガネグモやコガタコガネグモでは腹部上面前方の濃色の帯を欠いているが, 南西諸島産のコガタコガネグモではこの帯を持つものがあるので, 正確な同定には外雌器の形態を図と照合する必要がある. 雄：背甲は褐色, 腹部上面は褐色で暗褐色の斑紋がある. 本種とチュウガタコガネグモの雄触肢の指示器および移精針は長くてまっすぐに側方に突出している. 本種では移精針の途中にあるひだに移精針の中央よりも基部近くに位置している(図 445 棒線部)のに対して, チュウガタコガネグモの移精針のひだは移精針のほぼ中央に位置している(図 447 棒線部). 分布：日本(本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島), 台湾, 韓国, 中国.

コガネグモ

Argiope amoena L. Koch 1878

(図 27-29, 444-445)

体長：雌 20.0~30.0mm, 雄 5.0~7.0mm. 雌：背甲は暗褐色で銀色の毛が多数生えている. 腹部上面には黄色と褐色の幅の広い横縞模様がある. 本種

チュウガタコガネグモ

Argiope boesenbergi Levi 1983

(図 30-31, 446-447)

体長：雌 15.0~18.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 雌：背甲は暗褐色で銀色の毛が多数生えている. 腹部上面には黒色と黄色の横縞模様があるが, 黄色の横縞は黒色部によって中央と両側の三つの部分に分けら

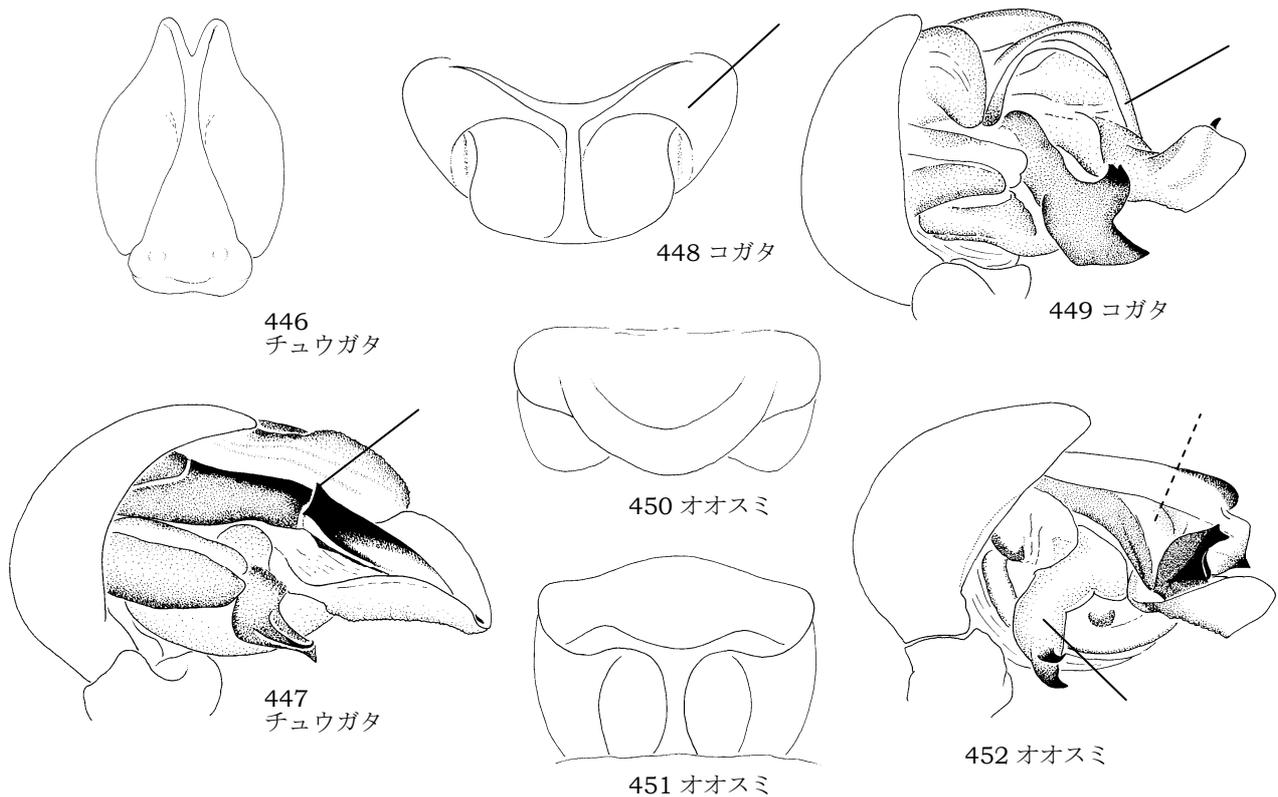


図 446-452. 446-447, チュウガタコガネグモ *Argiope boesenbergi*; 448-449, コガタコガネグモ *Argiope minuta* ; 450-452, オオスミコガネグモ *Argiope ocula*. 446, 448, 450, 外雌器腹面 epigynum, ventral ; 451, 同後面 same, posterior ; 447, 449, 452, 雄左触肢 male left palp.

れている。雌は腹部上面の黄色の横縞が分断されていることで同属の他種から容易に見分けられる。雄：背甲は黒褐色で胸部はやや明色。腹部上面は黒褐色で前方はやや明色となる。本種の雄触肢の指示器と移精針はコガネグモと同様まっすぐに長く突出する。コガネグモとの区別点はコガネグモの項目を参照。分布：日本（本州，四国，九州），台湾，韓国，中国。

コガタコガネグモ

Argiope minuta Karsch 1879

(図 32-35, 448-449)

体長：雌 6.0~12.0mm, 雄 4.0~5.0mm. 雌：背甲は褐色で銀色の毛が多数生える。腹部上面は黄色で黒色の横線，黒褐色および濃橙色の横帯があり，濃色の帯には白斑がある。本種とムシバミコガネグモとの雌における区別点はムシバミコガネグモの項目を参照。雄：背甲は暗褐色。腹部上面は黒褐色で前方には明色の斑紋がある。本種の雄は触肢の移精針がらせん状になる（図 449 棒線部）ことで，同属の他種から見分けられる。分布：日本（本州，四国，九州，薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，八重山諸島），バングラデッシュから台湾，韓国，中国。

オオスミコガネグモ

Argiope ocula Fox 1938

(図 36-37, 450-452)

体長：雌 20mm 前後，雄 7mm 前後。雌：背甲は褐色で白毛がはえている。腹部は細長く，上面は黄褐色で，前方に黄色の横線，側方には黄色と黒色の三日月形の斑紋がある。本種の雌は腹部が縦に細長いことと独特の斑紋によって同属の他種から容易に区別できる。雄：背甲は褐色で明色の縦斑が 2 本ある。腹部は縦長，上面は明褐色で後方に 3 つの黒点がある。本種の雄は腹部が縦長である点でナガコガネグモ以外の同属の他種からは容易に区別できる。ナガコガネグモの雄とは中部突片や移精針の形態で区別できる。ナガコガネグモの雄触肢の中部突片（図 438 棒線部）には同属の他種と同様に細い針状の付属物があるが，本種の中部突片（図 452 棒線部）の付属物は細長くない。また，ナガコガネグモの移精針（図 438 破線部）は若干湾曲する程度であるが本種の移精針（図 452 破線部）は途中で強く屈曲している。分布：日本（九州南部，薩南諸島），台湾，中国。

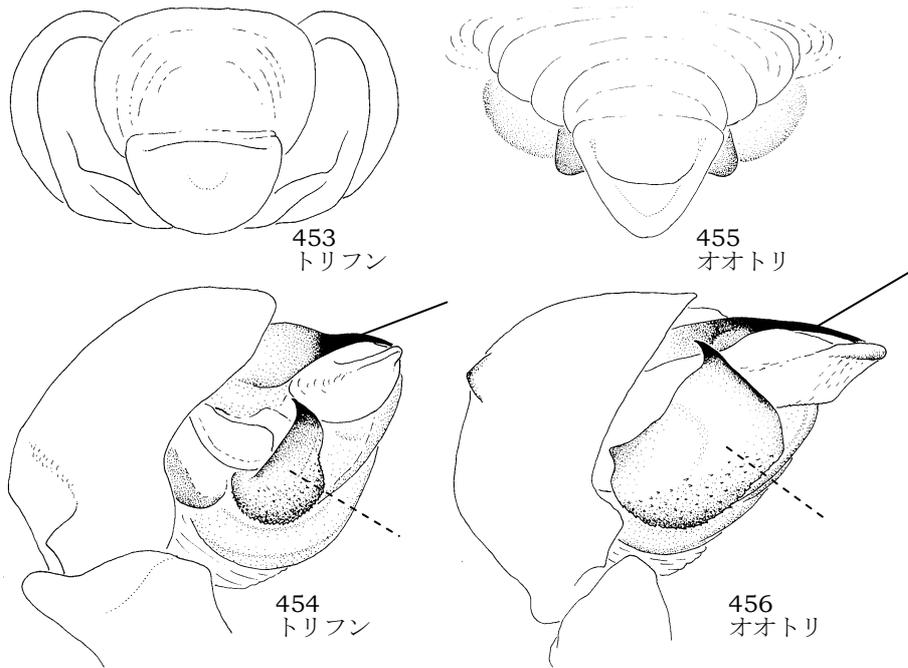


図 453-456. 453-454, トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo*; 455-456, オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis*. 453, 455, 外雌器 epigynum; 454, 456, 雄左触肢 male left palp.

トリノフンダマシ属
Cyrtarachne

腹部は幅広で 10 個前後の筋点が目立つ。歩脚にはほとんど刺毛がない。雌と雄の体長は極端に異なり、雄の体長は雌の 1/3 以下である。同心円状の（正確には同心円ではない）目の荒い円網を張る。

イセキグモ属と姉妹群関係にある。共有派生形質は、第 4 脚附節末端腹面に支持毛 (sustentaculum, 図 418-ss) が不在なこと、円網の横糸に獲物がかかると縦糸との接点のうち一方が簡単に切断する構造 (low-shear joint) があることである。

世界ではおよそ 50 種が、旧北区、東洋区、オーストラリア区、エチオピア区、新北区から知られる。日本に確実に生息するのは次の 4 種である。

トリノフンダマシ

Cyrtarachne bufo (Bösenberg & Strand 1906)

(図 38-39, 453-454)

体長：雌 8.0~10.0mm, 雄 1.0~2.5mm. 雌：背甲は明褐色で頭部は暗色となる。腹部上面は白色で、前方は暗褐色、前方左右両側に 1 対の褐色の丸い斑紋がある。トリノフンダマシとオオトリノフンダマシの雌は、腹部上面の地肌が白色 (トリノフンダマシ) か黄色 (オオトリノフンダマシ) かによって見分けられる。しかし液浸標本などで色彩が退色していたりすると見誤ることがあるので、外雌器の形態によって確認する必要がある。外雌器の垂体は

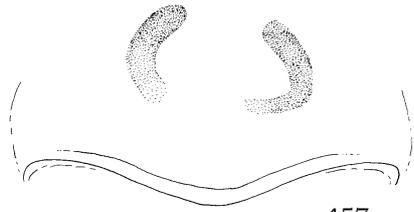
トリノフンダマシでは少し丸みを帯びた舌状だが、オオトリノフンダマシでは根元が幅広く逆三角形。雄：背甲は褐色。腹部上面は褐色で後方は明色となる。トリノフンダマシ属の雄の形態はたがいによく似るので、正しく同定するためには触肢の形態を比較しなければならない。ポイントは移精針の形態と中部突片の形態である。トリノフンダマシとオオトリノフンダマシの移精針 (図 454, 456 棒線部) は刺状なのに対してシロオビトリノフンダマシとアカイトリノフンダマシでは細長い糸状 (図 458, 460 棒線部)。トリノフンダマシの中部突片は逆さ向きのワシの嘴状 (図 454 破線部)、オオトリノフンダマシの中部突片は大きくて鋸の歯状 (図 456 破線部)、シロオビトリノフンダマシでは平たいカギズメ状 (図 458 破線部)、アカイトリノフンダマシでは太い釣り針状 (図 460 破線部)。分布：日本 (本州、四国、九州)、台湾、韓国、中国。

オオトリノフンダマシ

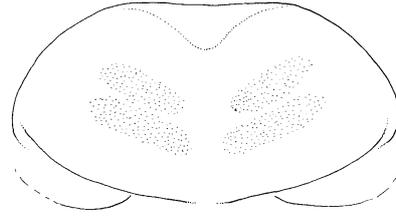
Cyrtarachne inaequalis Thorell 1895

(図 40-41, 455-456)

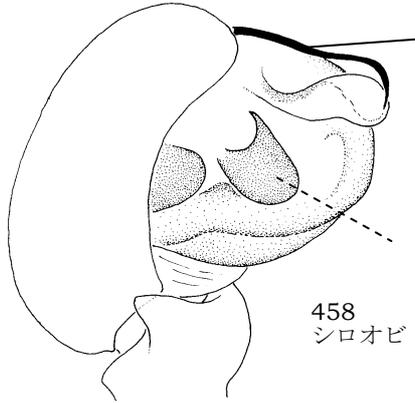
体長：雌 10.0~13.0mm, 雄 2.0~2.5mm. 雌：背甲は褐色。腹部上面は黄色で前方両側には褐色の丸い斑紋が 1 対ある。トリノフンダマシの雌との区別点はトリノフンダマシの項目に述べたとおり。雄：背甲は暗褐色。腹部上面は暗褐色で後方は明色となる。同属他種の雄との区別点はトリノフンダマシの項目に述べたとおり。分布：日本 (本州、四国、



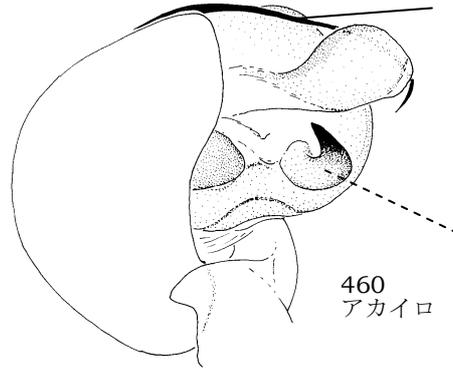
457
シロオビ



459
アカイロ



458
シロオビ



460
アカイロ

図 457-460. 457-458, シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis*; 459-460, アカイロトリノフンダマシ *Cyrtarachne yunoharuensis*. 457, 459, 外雌器 epigynum; 458, 460, 雄左触肢 male left palp.

九州, 奄美諸島, 沖縄諸島), インドから台湾, 韓国, 中国.

シロオビトリノフンダマシ

Cyrtarachne nagasakiensis Strand 1918

(図 42-47, 457-458)

体長: 雌 5.0~8.0mm, 雄 1.0~2.0mm. 雌: 背甲は褐色. 腹部上面には次のようないくつかの色彩変異がある. 褐色で前方に横向きの白色の帯があり, その前方はやや濃色で腹部後端はやや明色の場合 (シロオビ型). 腹部前方の白色の帯が中央で途切れており, 一対の白斑となっている場合. 全面が無地の赤褐色の場合. 全面が無地の黒色の場合 (クロ型) などである. シロオビトリノフンダマシの雌は腹部上面の色彩, 斑紋で同属他種から区別できるが, 色彩によってはアカイロトリノフンダマシのソメワケ型と似る場合がある, そのような場合には外雌器の形態を確認する必要がある. 雄: 背甲は褐色で細かい凹点が多数ある. 第1脚, 第2脚の前側面には刺毛列がある. 腹部上面は褐色で, 後方はやや明色, 多数の凹点がある. 同属他種の雄との区別点はトリノフンダマシの項目を参照. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島), 韓国, 中国.

アカイロトリノフンダマシ

Cyrtarachne yunoharuensis Strand 1918

(図 48-51, 459-460)

体長: 雌 4.5~7.0mm, 雄 1.5~2.0mm. 雌: 背甲は褐色. 腹部上面の色彩には次のような変異がある. 地色が赤褐色で多数の白斑と1対の黒斑がある場合 (アカイロ型), 地色が黒褐色で多数の白斑と1対の黒斑がある場合, 地色は黒色で腹部後方が赤みを帯びる場合 (ソメワケ型), 赤褐色で斑紋がない場合. 本種の雌は腹部上面の色彩斑紋によって同属の他種から用意に区別できるが, ソメワケ型のものではシロオビトリノフンダマシのクロ型と紛らわしい場合もある. その場合には外雌器の形態を図と照合して同定する必要がある. 雄: 背甲は暗褐色. 腹部上面は赤褐色. 同属他種との見分け方についてはトリノフンダマシの項目に述べたとおり. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 中国.

サカグチトリノフンダマシ属

Paraplectana

上方から見た腹部の形は丸みを帯び中央付近で最も幅が広い. また, 腹部上面の周辺部に筋点が並んでいる.

本属のクモ類はトリノフンダマシ属のクモ類とき

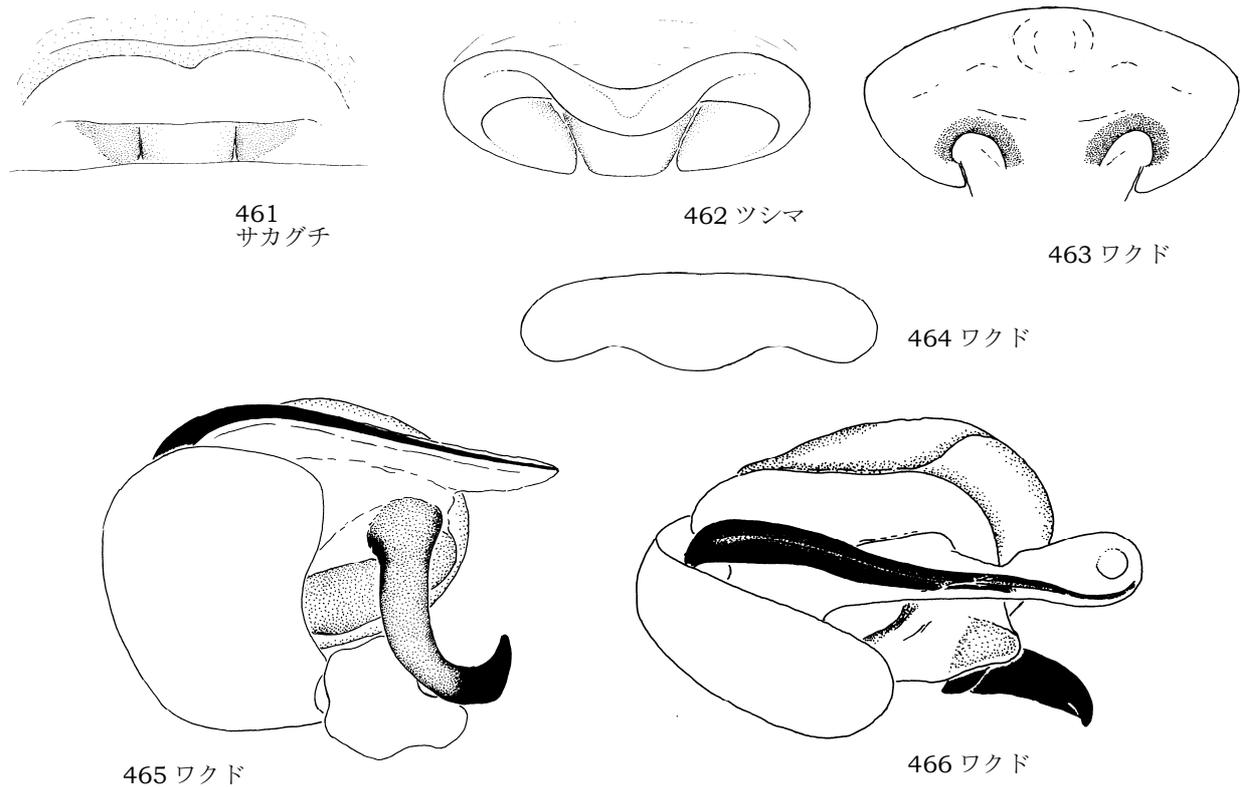


図 461–466. 461, サカグチトリノフンダマシ *Paraplectana sakaguchii*. 462, ツシマトリノフンダマシ *Paraplectana tsushimensis*. 463–466, ワクドツキジグモ *Pasilobus hupingensis*. 461–463, 外雌器後面 epigynum, posterior ; 464, 同腹面 same, ventral ; 465, 雄左触肢腹面 male left palp, ventral ; 466, 同背面 same, dorsal). (Tanikawa 2006b より)

わめて類似しており，別属とすることには検討の余地がある．しかし，本属のクモ類ではいまだに雄が未発見であり，そのことが研究の進展を妨げている．

世界では 12 種が，旧北区，東洋区，エチオピア区から知られる．日本に確実に生息するのは次の 2 種である．

サカグチトリノフンダマシ
Paraplectana sakaguchii Uyemura 1938
(図 52–53, 461)

体長：雌 7.0～9.0mm，雄不明．雌：背甲は褐色．腹部上面は橙色で多数の白斑がある．本種の雌の色彩，斑紋はアカイロトリノフンダマシのアカイロ型に似るが，本種の腹部の外形は長さと同幅がほぼ同じ丸い形をしているのに対して，アカイロトリノフンダマシでは長さよりも幅のほうが広い横長の形をしている点や，アカイロトリノフンダマシの腹部背面前方両側にある 1 対の黒斑が本種では見られないことなどで見分けられる．採集記録の少ない稀産種である．分布：日本（本州，四国，九州），中国．

ツシマトリノフンダマシ

Paraplectana tsushimensis Yamaguchi 1960
(図 54–55, 462)

体長：雌 7.0～10.0mm，雄不明．雌：背甲は暗赤褐色．腹部上面は橙色で多数の黒色の斑紋がある．本種の雌は腹部上面の色彩，斑紋によって同属他種から容易に見分けられる．採集記録の少ない稀産種である．分布：日本（本州，四国，九州，奄美諸島，沖縄諸島），台湾，中国．

ツキジグモ属
Pasilobus

トリノフンダマシ属と姉妹群関係にあると推定されている．本属のクモ類は水平三角網を張る．

世界では約 10 種が旧北区，東洋区，エチオピア区から知られる．

日本には次の 1 種のみが生息するが，発見例はきわめて少ない．

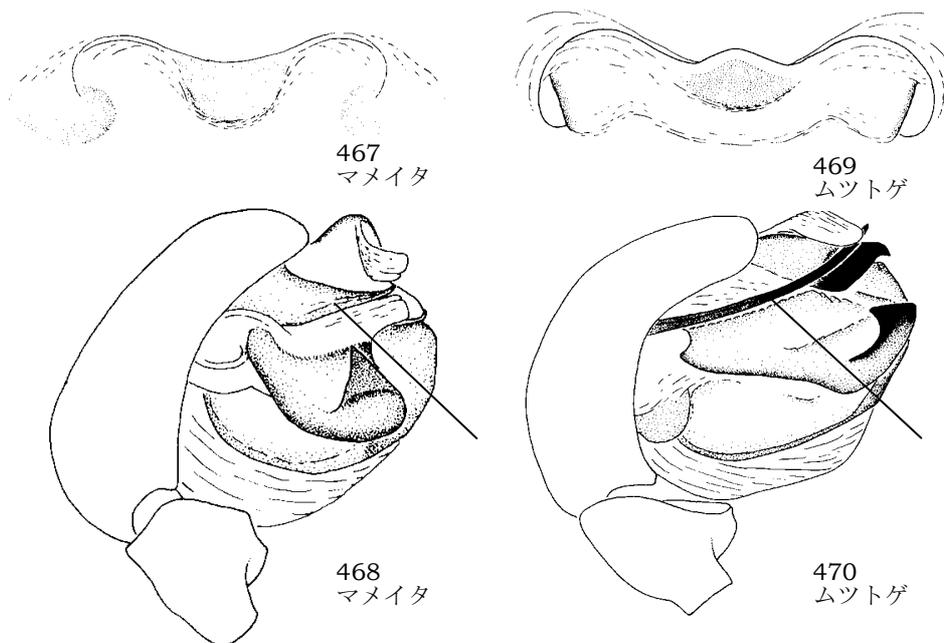


図 467-470. 467-468, マメイタイセキグモ *Ordgarius hobsoni*; 469-470, ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus*. 467, 469, 外雌器 epigynum; 468, 470, 雄左触肢 male left palp. (Tanikawa 1997b より)

ワクドツキジグモ

Pasilobus hupingensis Yin, Bao & Kim 2001
(図 56-58, 463-466)

体長: 雌 8~10mm, 雄: 2.5mm 前後. 雌: 背甲, 腹部上面とも褐色. 腹部には多数の粒状突起と刻印があり, 横に広くて幅は長さの 2 倍以上になる. 雄は全身ほぼ濃褐色, 腹部の幅は長さの 1.3 倍ほどで, 多数の刻印がある. 採集記録の大変少ない稀産種である. 分布: 日本 (本州, 九州, 沖縄諸島, 八重山諸島), 中国.

イセキグモ属
Ordgarius

網は張らず, 粘球のついた 1 本の糸を振り回して獲物を捕える投げ縄式の捕獲法によってガを捕食している. 本属のクモ類は投げ縄を第 2 脚で持つが, アメリカ大陸に生息するナゲナワグモ属 *Mastophora* のクモ類は第 1 脚を用いる. 雌雄の体長に極端な違いがあり, 雄の体長は雌の 1/3 未満である. 雌成体では, 第 1 脚, 第 2 脚の前側面に弱い刺毛の列があるほかは歩脚に刺毛がない. 雄触肢の膝節には剛毛がない. 雄の第 1 脚, 第 2 脚の前側面には刺毛列がある. 雌雄の背甲に特徴的な突起がある.

世界では 10 種が, 旧北区, 東洋区, オーストラリア区から知られる. 日本には次の 2 種が生息する.

マメイタイセキグモ

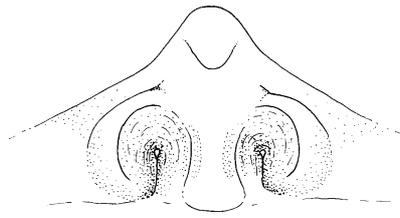
Ordgarius hobsoni (O. P.-Cambridge 1877)
(図 59, 467-468)

体長: 雌 5.5~6.5mm. 雄 2.0mm 前後. 雌: 背甲は暗褐色で多数の突起があり, 腹部上面は暗褐色で赤褐色の丸いこぶが多数ある. 本種の雌は暗褐色の体色と腹部に多数のこぶをもつという独特の形態によって他種から容易に見分けられる. 雄: 背甲は暗褐色で後部に 4 つの小さな突起があり, 腹部上面は暗褐色で黒や淡褐色の斑紋がある. 本種の雄は次種ムツトゲイセキグモの雄と似るが, 次の各点で見分けられる. 本種の雄は背甲の後部に小さな 4 つの突起があるのみであるが, ムツトゲイセキグモの雄では背甲背面中央部に大小 2 つの突起, 後部によくめだつ 4 つの突起がある. また, 本種の雄触肢の移精針はクチバシ状 (図 468 棒線部) であるが, ムツトゲイセキグモの移精針は細長い針状 (図 470 棒線部). 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 沖縄諸島), インド, スリランカ, 中国.

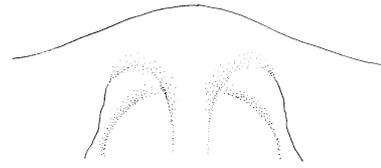
ムツトゲイセキグモ

Ordgarius sexspinosus (Thorell 1894)
(図 60, 469-470)

体長: 雌 7.0~10.5mm, 雄 2.0mm 前後. 雌: 背甲の頭部は暗褐色で明褐色の横向きの線があり, 胸部は明褐色. 背甲中央付近に 2 本の突起, 背甲後部に 4 本の突起がそれぞれある. 腹部上面は明褐色で



471 トゲ



473 チブサ



472 トゲ



474 チブサ

図 471-474. 471-472, トゲグモ *Gasteracantha kuhlii*; 473-474, チブサトゲグモ *Thelacantha brevispina*. 471, 473, 外雌器後面 epigynum, posterior; 472, 474, 雄左触肢 male left palp.

暗褐色の斑紋がある。腹部背面前方には 1 対の丸い肩突起が、腹部後端には 2 対の小さな突起がそれぞれある。本種の雌は背甲に特徴的な突起があることと腹部上面の色彩や形態で他種から容易に見分けられる。雄：背甲は褐色で黒色の斑紋があり、雌と同様の突起がある。腹部上面は暗褐色で黒色や明褐色の斑紋がある。本種の雄はマメイタイセキグモの雄と似る。区別点はマメイタイセキグモの項目を参照。分布：日本（本州，四国，九州），ビルマ，インドネシア，インド，韓国，中国。

トゲグモ属
Gasteracantha

円網を張る。円網の周囲の糸には、小さな糸の塊が点々としてつけられていることが多い。頭部と胸部の幅はほぼ等しい。腹部は強くキチン化し、1 対から数対のトゲがある。糸疣の周囲はキチンの環で囲まれている。

本属のクモ類は *Aetrocantha* 属（日本には生息していない）と姉妹群関係にあると推定されている。共有派生形質は外雌器に垂体があることと糸疣がひと続きのキチン環で囲まれていることである。

世界中から約 70 種が知られる。日本には次の 1 種が生息する。

トゲグモ

Gasteracantha kuhlii C. Koch 1837
(図 61-63, 471-472)

体長：雌 6.0~8.0mm, 雄 3.0~4.0mm.

雌：背甲は黒色。腹部には 3 対のトゲがあり、上面は白色で黒色の斑紋がある。本種と次種チブサトゲグモとは腹部のトゲの形態で容易に区別できる。トゲグモのトゲは基部と先端の区別がなく鋭い円錐状をしているが、チブサトゲグモのトゲは基部と先端の二段構造をしている。雄：腹部は馬蹄形で白地に黒色の斑紋がある。分布：日本（本州，四国，九州），インドからフィリピン，台湾，韓国，中国。

チブサトゲグモ属
Thelacantha

本属は長らくトゲグモ属の新参シノニムとされていたが、分離独立させる論文が最近になって再認識された。

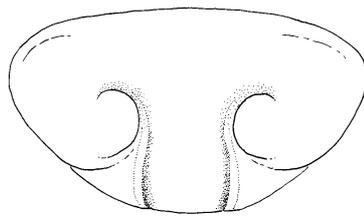
世界的にもチブサトゲグモ 1 種だけが知られる。

チブサトゲグモ

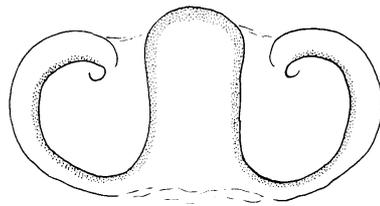
Thelacantha brevispina (Doleschall,
1857)

(図 64-70, 473-474)

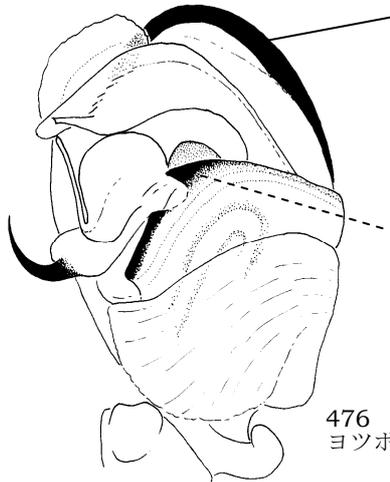
体長：雌 8~12mm, 雄 3~5mm. 雌：背甲は黒



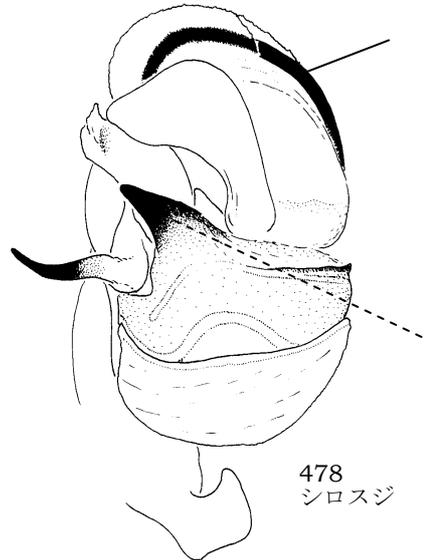
475 ヨツボシ



477 シロスジ



476
ヨツボシ



478
シロスジ

図 475-478. 475-476, ヨツボシショウジョウグモ *Hypsosinga pygmaea*; 477-478, シロスジショウジョウグモ *Hypsosinga sanguinea*. 475, 477, 外雌器 epigynum; 476, 478, 雄左触肢 male left palp.

色. 腹部には 3 対のとげがある. 腹部上面の色彩斑紋にはきわめて多くの変異がある. トゲグモとの区別点はトゲグモの項目を参照. 雄: 腹部は馬蹄形で白地に黒色の斑紋がある. 分布: 日本 (トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), マダガスカル, インドから台湾, 中国, オーストラリア.

ショウジョウグモ属

Hypsosinga

後中眼が最大. 中眼域は後辺の方が広い. 外雌器には垂体を欠く. 雄触肢の移精針の基部には大きくて半透明なうろこ状の付属物があり, 交尾のときに外れて外雌器に残される.

本属のクモ類は, ナガテオニグモ属やキレアミグモ属からなるグループと姉妹群と推定されているが, 共有派生形質として適するものは未発見である.

世界では約 15 種が, 旧北区, 東洋区, エチオピア区, 新北区から知られる. 日本には次の 2 種が生息する.

ヨツボシショウジョウグモ

Hypsosinga pygmaea (Sundevall 1831)

(図 71-72, 475-476)

体長: 雌 2.5~4.0mm, 雄 2.5~3.0mm. 背甲は褐色. 腹部上面は褐色で幅の広い白色を帯びた正中条があり, 腹部の両側も白色を帯びる. 腹部上面前方と後方にそれぞれ 1 対ずつの黒点がある. 本種は一見シロスジショウジョウグモやナガテオニグモと似るが, 次の各点で見分けられる. ヨツボシショウジョウグモとシロスジショウジョウグモの外雌器には垂体がないが, ナガテオニグモの外雌器には垂体がある. ヨツボシショウジョウグモの外雌器は全体として上底の長い台形だが, シロスジショウジョウグモの外雌器は横に広い W 字形. ただし, ヨツボシショウジョウグモとシロスジショウジョウグモでは, 交尾後は雄の触肢の一部が交尾栓として外雌器の交尾口に残されるため, 外雌器の形態が違って見えるので注意が必要である. ヨツボシショウジョウグモとシロスジショウジョウグモの雄では移精針が長い針状 (図 476, 478 棒線部) で, ループを描くのに対して, ナガテオニグモの移精針は比較的短くナイフ状 (図 480 棒線部). ヨツボシショウジョウグモの雄触肢を腹面から見たときに見える盾の突起は小さな爪状 (図 476 破線部) であるが, シロスジショウジョウグモではこの突起がはるかに大きい (図 478 破線部). 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 八重山諸島), 全北区に広く分布.

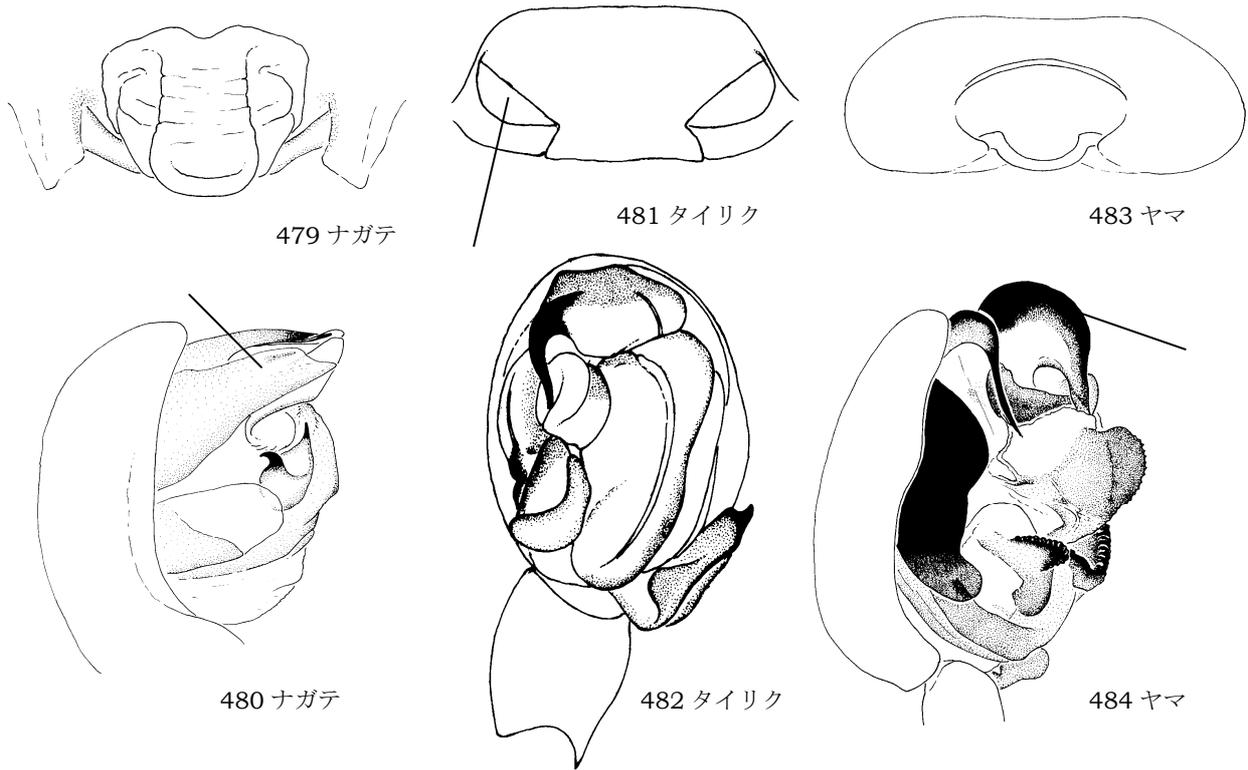


図 479-484. 479-480, ナガテオニグモ *Singa hamata*. 481-482, タイリクキレアミグモ *Zygiella x-notata*. 483-484, ヤマキレアミグモ *Parazygiella disper*. 479, 481, 483, 外雌器 epigynum ; 480, 482, 484, 雄左触肢 male left palp. (481-482, Tanikawa 2004b より ; 483-484, Tanikawa 2002 より)

シロスジシヨウジョウグモ

Hypsosinga sanguinea (C. Koch 1844)

(図 73-79, 477-478)

体長：雌 3.0~5.0mm, 雄 2.5~3.0mm. 色彩斑紋には変異が多く次のようなものが見られる. 背甲は黒褐色で, 腹部上面は褐色, 正中部には白色の帯があり, 両側は暗褐色となるもの (シロスジ型). 背甲は赤褐色, 腹部上面も赤褐色で後端両側に 1 対の黒斑があるもの (黒点型). 背甲も腹部上面も赤褐色でめだった斑紋のないもの (赤色型). 背甲も腹部上面も黒褐色でめだった斑紋のないもの (黒色型) などである. 本種は一見するとナガテオニグモやヨツボシシヨウジョウグモに似る. 区別点はヨツボシシヨウジョウグモの項目を参照. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島).

ナガテオニグモ属

Singa

眼は前中眼が最大. 中眼域は前辺のほうが後辺よりも広い. 背甲にはほとんど毛がなく中窩もない. 外雌器には垂体がある. 雄触肢の端部突片は大きい.

ナガテオニグモ属はキレアミグモ属や *Kaira* 属, *Metepeira* 属 (後 2 者は日本には生息していない) からなるグループと姉妹群であると推定されている. 共有派生形質は外雌器の垂体の先端にポケットがあること, 雄の触肢に垂端部突片があることである.

世界ではおよそ 30 種が旧北区, 東洋区, オーストラリア区, エチオピア区, 新北区から知られる. 日本には次の 1 種のみが生息する.

ナガテオニグモ

Singa hamata (Clerck 1758)

(図 80, 479-480)

体長：雌 5.0~7.0mm, 雄 4.0~5.0mm. 背甲は黒褐色. 腹部上面は黒褐色で白色の正中条があり, 両側も白色となる. 本種はヨツボシシヨウジョウグモやシロスジシヨウジョウグモに似る. 近似種との区別点はヨツボシシヨウジョウグモの項目を参照. 分布: 日本 (北海道, 本州), 旧北区に広く分布.

キレアミグモ属

Zygiella

隠れ家 (retreat) となる方向の 3 本の縦糸の間の

2 区画に横糸のない切れ網を張る。腹部背面には特徴的な葉状斑がある。前中眼が最大。雄触肢の側杯葉が発達しており、盾の長軸は触肢の軸と平行。触肢の膝節には 1 本の剛毛がある。

キレアミグモ属（広義：ヤマキレアミグモ属を含む）の姉妹群は日本には生息していない *Kaira* 属と *Metepeira* 属とからなるグループと推定されている。共有派生形質は雄触肢の移精針が先端から見て反時計回りの方向に回転していることである。

世界ではおよそ 20 種が、旧北区、東洋区、新北區、新熱帯区から知られる。日本に確実に生息するのは次の 1 種のみである。

タイリクキレアミグモ
Zygiella x-notata (Clerck 1757)

(図 81-82, 481-482)

体長：雌 6.5~7.5mm, 雄 5mm 前後

背甲は淡褐色で、頭部は黒褐色。腹部上面は褐色で黒褐色の弱い葉状斑があり、正中部と葉状斑の外側は白色を帯びる。本種の張る円網は隠れ家となる方向の 2 区画に横糸のない切れ網である。タイリクキレアミグモはヤマキレアミグモやズグロオニグモに似る。この三者の見分け方は、ヤマキレアミグモの項目を参照。分布：日本（横浜港）、全北区に広く分布。

ヤマキレアミグモ属（新称）
Parazygiella

網の特徴などはキレアミグモ属と同じである。系統的な研究についてはまだ十分になされていないが、狭義のキレアミグモ属の姉妹群であることは間違いないであろう。

世界では、新北區、旧北区から 3 種が知られる。日本に確実に生息するのは次の 1 種のみである。

ヤマキレアミグモ
Parazygiella disper (Kulczyński 1885)
(図 83-85, 483-484)

体長：雌 4.0~6.5mm, 雄 4.5~5.5mm。背甲は淡褐色で、頭部は黒褐色。腹部上面は褐色で黒褐色の弱い葉状斑があり、正中部と葉状斑の外側は白色を帯びる。本種の張る円網は隠れ家となる方向の 2 区画に横糸のない切れ網である。色彩斑紋の様子はタイリクキレアミグモときわめてよく似るが、雌の外雌器や雄の触肢によって簡単に見分けられる。とくにタイリクキレアミグモの外雌器を後方から見ると開口が左右に大きく離れているのが特徴的である（図 481 棒線部）。雄の触肢では、ヤマキレアミグモの強くキチン化した突片（図 484 棒線部）が特徴

的である。この突片に相当するものはタイリクキレアミグモにはない。一方で、キレアミグモ類の外見はズグロオニグモに似るが、体が小さく、また外雌器に垂体がないことで区別できる（図 481, 483, 760）。しかし、ズグロオニグモも交尾後は垂体が折れている（図 761）ので、折れた跡を見逃さないように注意する必要がある。キレアミグモ類の雄触肢の脛節は他のコガネグモ科のクモ類と同じく短いが、ズグロオニグモの雄触肢の脛節はアシナガグモ類のように比較的長い（図 762 棒線部）。分布：日本（北海道、本州）。

ジャノメグモ属
Anepsion

腹部が円盤状で、他属からは容易に区別できる。

本属のクモ類は、オニグモ属、ヒメオニグモ属、コガネグモダマシ属、ゴミグモ属などからなる大きな単系統群と姉妹群の関係にあると推定されている。共有派生形質は外雌器の垂体にしわがないことである。

世界ではおよそ 20 種が、旧北区、東洋区、オーストラリア区から知られる。日本では次の 1 種のみが知られる。

ヤマトジャノメグモ
Anepsion japonicum Yaginuma 1962
(図 485)

体長：雄 2.3mm, 雌不明。雄：背甲は黄褐色で頭部は胸部よりもかなり高まる。腹部は白色で周囲は暗色、丸くて薄い円盤状。外部形態が非常に特徴的であり、他のクモからは容易に区別できるが、原記載以来日本からは採集記録がない。分布：日本（鹿児島県から雄 1 頭が採集されているだけである）、中国。

ナカムラオニグモ属
Larinioides

雄触肢の中部突片が二股に分かれており、側方に突出している（図 489, 491 棒線部）。

本属の系統的な位置についてはこれからの研究課題である

世界ではおよそ 10 種が、旧北区、エチオピア区、新北區から知られる。日本には次の 2 種が生息する。

ナカムラオニグモ
Larinioides cornutus (Clerck 1758)
(図 86-88, 486-489)

体長：雌 9.0~12.0mm, 雄 7.0~9.0mm。背甲

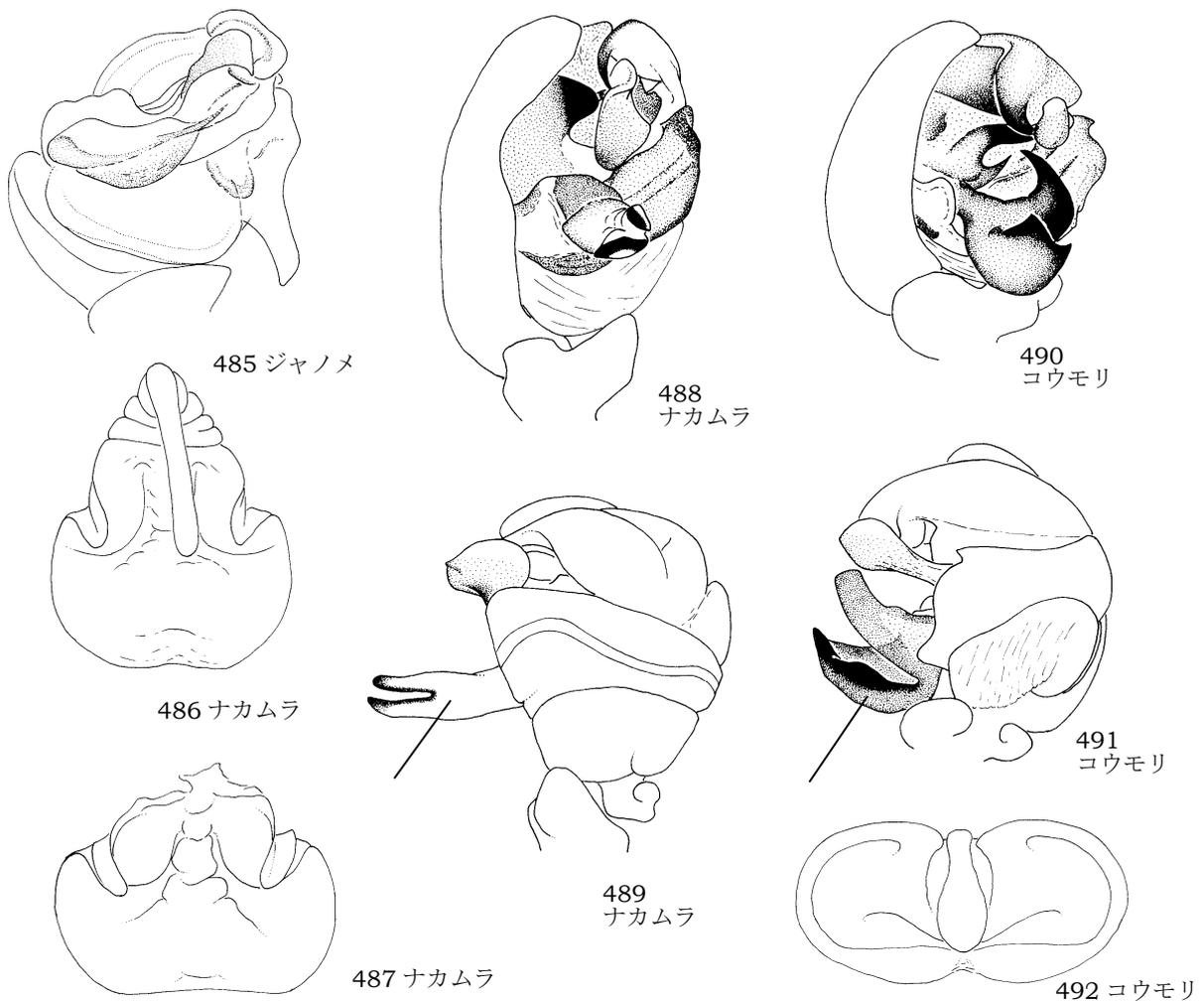


図 485-492. 485, ヤマトジャノメグモ *Anepsion japonicum*; 486-489, ナカムラオニグモ *Larinioides cornutus*; 490-492, コウモリオニグモ *Larinioides patagiatus*. 485, 雄左触肢 male left palp; 486, 492, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 487, 同 (垂体の取れたもの) epigynum, scape torn off; 488, 490, 雄左触肢側面 male left palp, lateral; 489, 491, 同腹面 same, ventral.

は褐色で頭部は濃色となる。腹部上面は灰白色で暗褐色のコウモリ様の斑紋がある。本種は腹部上面の色彩斑紋によって他のオニグモ類から容易に区別できる。分布：日本（北海道，本州，四国），全北区に広く分布。

コウモリオニグモ

Larinioides patagiatus (Clerck 1758)

(図 89, 490-492)

体長：雌 7.0~10.0mm, 雄 5.0~9.0mm. 背甲は褐色，腹部上面も褐色で葉状斑があり，葉状斑の外側は明色となる。本種は腹部上面の色彩斑紋によって他のオニグモ類から容易に区別できる。分布：日本（北海道），全北区に広く分布。

ゴミグモ属

Cyclosa

頭部は U 字型の頸溝によって胸部からはっきりと分けられている。中眼域は前辺のほうが後辺よりも広く後中眼はほとんど接している。雄触肢の膝節には 1 本の刺毛がある。

本属はムツボシオニグモ属やカタハリオニグモ属などとの姉妹群であると推定されている。共有派生形質は第 4 脚の蹠節に 3 本以上の聴毛があることである。

世界中に分布し，およそ 120 種が知られる。日本には次の 22 種が生息する。

ゴミグモ

Cyclosa octotuberculata Karsch 1879

(図 90-91, 493-494)

体長：雌 10.0~15.0mm, 雄 8.0~10.0mm. 円

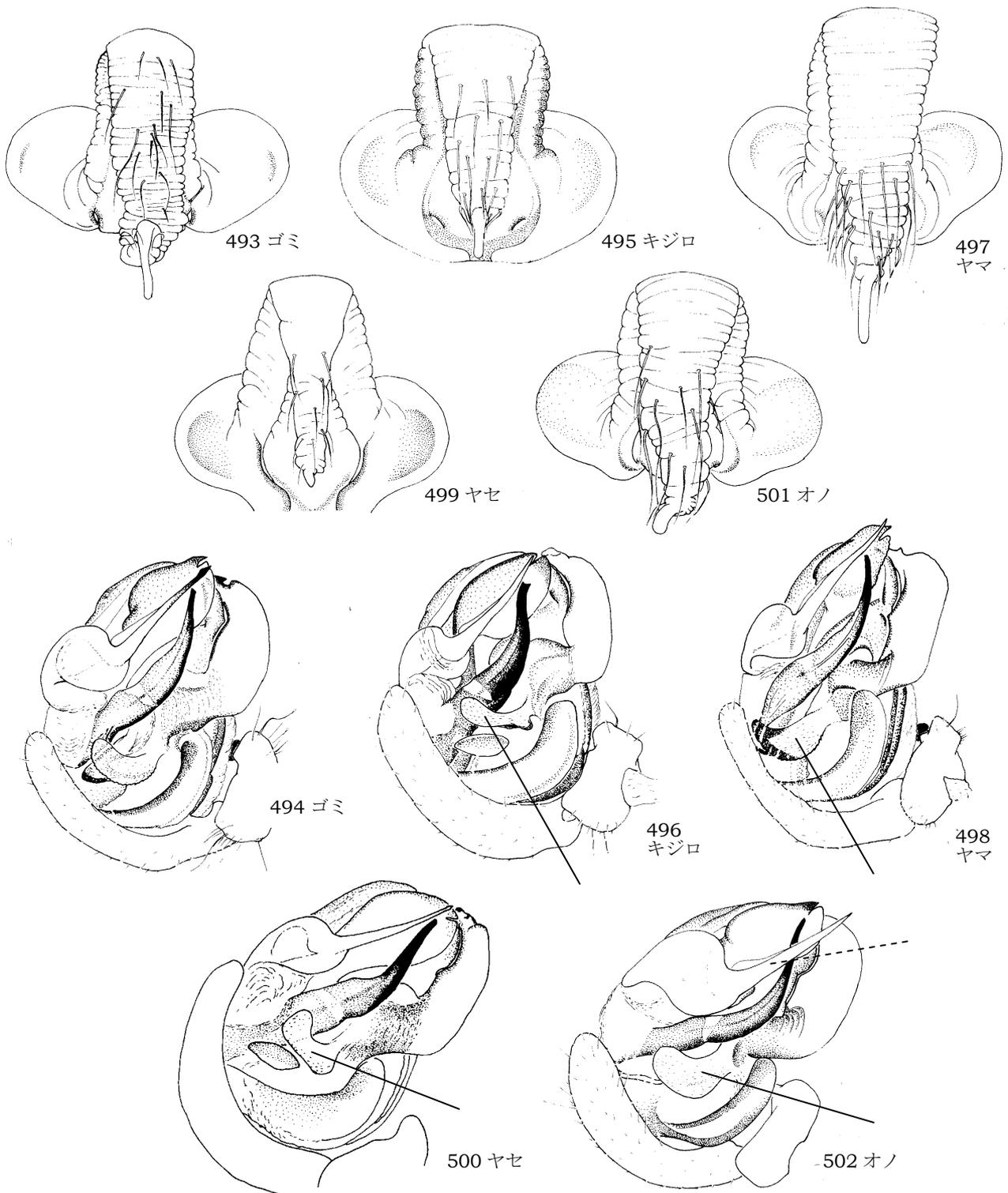


図 493-502. 493-494, ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata*. 495-496, キジロゴミグモ *Cyclosa laticauda*. 497-498, ヤマゴミグモ *Cyclosa monticola*. 499-500, ヤセゴミグモ *Cyclosa angusta*. 501-502, オノゴミグモ *Cyclosa onoi*. 493, 495, 497, 499, 501, 外雌器 epigynum ; 494, 496, 498, 500, 502, 雄左触肢 male left palp. (493-499, 501, Tanikawa 1992a より ; 501, Tanikawa 1997a より ; 502, Tanikawa 1992c より)

網の中心にたてにゴミリボンを作り、そのほぼ中央にひそんでいて、指で触れてもじっとして動かない。卵のうもゴミリボンのなかに作る。腹部背面の前方に1対、後方に6個の突起がある。本属のクモ類で

腹部に8個の突起があるのは本種だけなので腹部の形態によって他種から容易に見分けられる。分布：日本（本州，四国，九州），韓国，中国。

キジロゴミグモ

Cyclosa laticauda Bösenberg & Strand 1906

(図 92, 495-496)

体長：雌 6.0~10.0mm, 雄 4.0~5.0mm. 腹部背面前方に 1 対, 腹部後方に 4 個の突起がある. 腹部上面は黄褐色でやや濃色の 3 字状の斑紋がある.

キジロゴミグモ, ヤマゴミグモ, ヤセゴミグモ, オノゴミグモはたがいに似るが, 次の点で区別できる. キジロゴミグモ, ヤセゴミグモ, オノゴミグモの 3 種では腹部末端が上下に二分しているのに対してヤマゴミグモでは二分しない. キジロゴミグモでは腹部末端が上下にほぼ対称に 2 分するのに対して, ヤセゴミグモとオノゴミグモでは非対称的である. 腹部を横から見たときに, キジロゴミグモの雌では糸疣よりも前の部分が太く, 糸疣のあたりから急に細くなっているが, ヤセゴミグモでは全体的に細めで糸疣より後方でなめらかに細くなる. また, オノゴミグモはキジロゴミグモ, ヤセゴミグモよりも体が小さく, 腹部も短めで, 後方があまり細くならない. 雄触肢を内側から見たときに, キジロゴミグモ (図 496 棒線部) とヤセゴミグモ (図 500 棒線部) では中部突片基部の突起が小さくて指示器基部の突起が隠されていないのに対して, ヤマゴミグモ (図 498 棒線部) とオノゴミグモ (図 502 棒線部) では中部突片基部の突起が大きく指示器基部の突起が隠されている. また, 現在のところヤセゴミグモは奄美大島以南からのみ採集されており, 奄美大島以南では他の 3 種は採集されていない. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 台湾, 韓国, 中国.

ヤマゴミグモ

Cyclosa monticola Bösenberg & Strand 1906

(図 93, 497-498)

体長：雌 7.0~9.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 腹部上面には, 黄褐色に波型の斑紋がある場合や正中部が黄褐色でその両側が赤褐色の場合など変異がある. また, 個体によって腹部上面前方に 1 対の突起がある場合とない場合がある. 腹部末端には 3 個の突起がある. 類似種との区別点はキジロゴミグモの項目を参照. 分布：日本 (本州, 四国, 九州), 台湾, 韓国, 中国.

ヤセゴミグモ

Cyclosa angusta Tanikawa 1992

(図 94, 499-500)

体長：雌 8.0mm 前後, 雄 5.0mm 前後. 背甲は暗褐色で中窩の両側は明色である. 腹部上面は明褐色の地に暗褐色や黒褐色の複雑な斑紋がある. 中央よりやや後方に 3 字状の波型の斑紋が見られることが

多い. 腹部上面前方には 1 対の突起があり, 末端には 4 個の突起がある. 類似種との区別点はキジロゴミグモの項目を参照. 分布：日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島).

オノゴミグモ

Cyclosa onoi Tanikawa 1992

(図 95, 501-502)

体長：雌 6.0~7.0mm, 雄 3.5~4.0mm. 背甲は暗褐色で中窩の両側に明斑がある. 腹部上面は明褐色の地に暗褐色や黒褐色のまだら模様があり, 後方両側には波型の斑紋がある. 腹部上面前方に 1 対の突起があり, 末端には 4 個の突起がある. 類似種との区別点はキジロゴミグモの項目を参照. また, 肉眼だけでの観察ではヨツデゴミグモとも見誤ることがある. ヨツデゴミグモとの区別点はヨツデゴミグモの項目を参照. 分布：日本 (北海道, 本州, 九州), 中国.

シマゴミグモ

Cyclosa omonaga Tanikawa 1992

(図 96-98, 503-506)

体長：雌 4.5~8.5mm, 雄 4.0~5.0mm. 背甲は明褐色で側縁は黒褐色でふちどられている. 腹部上面は銀色, 明褐色, 黒褐色などの複雑な斑紋があり, 中央部に銀色の X 字状の斑紋がめだつ個体が多いが, さまざまな色彩変異の個体が存在する. 腹部後端には 3 個の突起があるが, 雄ではこの突起は不明瞭である.

シマゴミグモ, ミナミノシマゴミグモ, ヤマトゴミグモ, オガサワラゴミグモはたがいに似るが, 次の点で見分けられる. シマゴミグモ, ミナミノシマゴミグモ, オガサワラゴミグモの 3 種では腹部末端に 3 個の突起があるが, ヤマトゴミグモでは腹部末端は鈍く丸く終わるか後方に細長く伸びて終わる. ただし, ヤマトゴミグモでも末端の両側に小さな突起が存在する個体がわずかながら存在するので注意が必要である. シマゴミグモでは背甲が細長く, 背甲の長さ/幅は 1.3 を超えるが, ミナミノシマゴミグモでは 1.2~1.3 程度, ヤマトゴミグモでは 1.1~1.2 程度, オガサワラゴミグモでは 1.2~1.3 程度である. シマゴミグモでは背甲が黒褐色でふちどられているので, 見た目には数値以上に細長く感じられる. シマゴミグモの外雌器の垂体は比較的幅広で, たくさんのしわが寄っているが (図 503), ミナミノシマゴミグモでは細長めで基部に近い部分にはほとんどしわがない (図 507). ヤマトゴミグモの垂体も基部に近い部分にはあまりしわがないが, ミナミノシマゴミグモのそれよりも幅広で三角形に近い形をしている (図 511). 垂体が取れてしまった個体では,

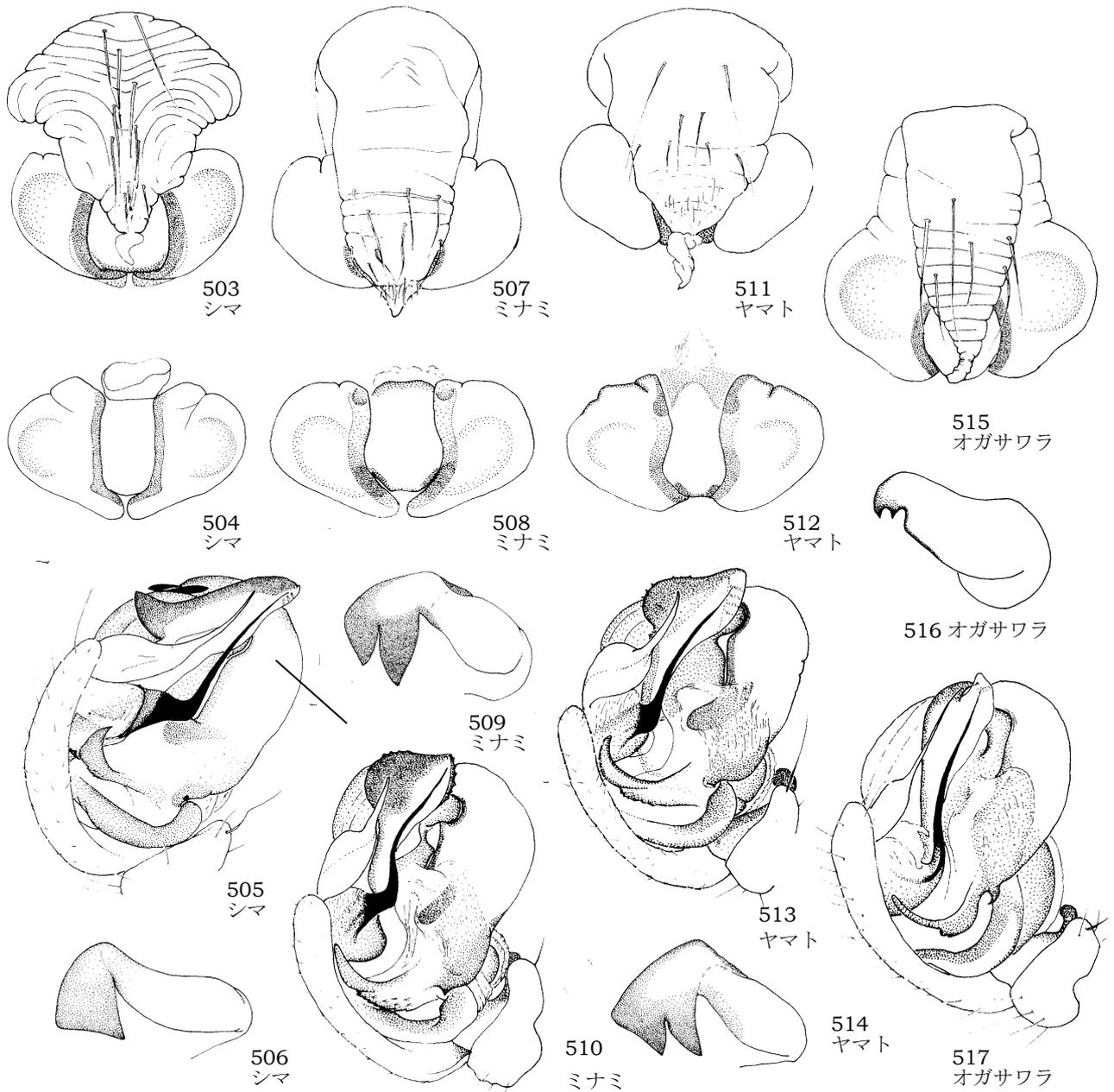


図 503-517. 503-506, シマゴミグモ *Cyclosa omonaga*; 507-510, ミナミノシマゴミグモ *Cyclosa confusa*; 511-514, ヤマトゴミグモ *Cyclosa japonica*; 515-517, オガサワラゴミグモ *Cyclosa norihisai*. 503, 507, 511, 515, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 504, 508, 512, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off; 505, 510, 513, 517, 雄左触肢 male left palp; 506, 509, 514, 516, 同中部突片 median apophysis. (Tanikawa 1992a より)

外雌器の形態には差異がなく区別できない。オガサワラゴミグモは小笠原からのみ採集されており、小笠原からは他の3種は採集されていない。シマゴミグモの雄触肢の中部突片(図505棒線部)の先端は切断状に終わり、斧のような形をしているが(図506)ミナミノシマゴミグモ(図509)とヤマトゴミグモ(図514)では二股で、幅広のはさみ型である。オガサワラゴミグモでも中部突片の先端は二股に分かれているが大きなはさみ型ではなく小さなカ

ギ型である(図516)。雄の標本だけでミナミノシマゴミグモとヤマトゴミグモとを見分けるのはかなり困難である。また、シマゴミグモ、ミナミノシマゴミグモ、ヤマトゴミグモ、オガサワラゴミグモの幼体は腹部上面全体が銀色で斑紋がはっきりしない場合が多いのでギンメッキゴミグモと誤認してしまう危険がある。幼体での同定はとくに注意を要する。分布：日本(本州南部、四国、九州)、台湾、中国。

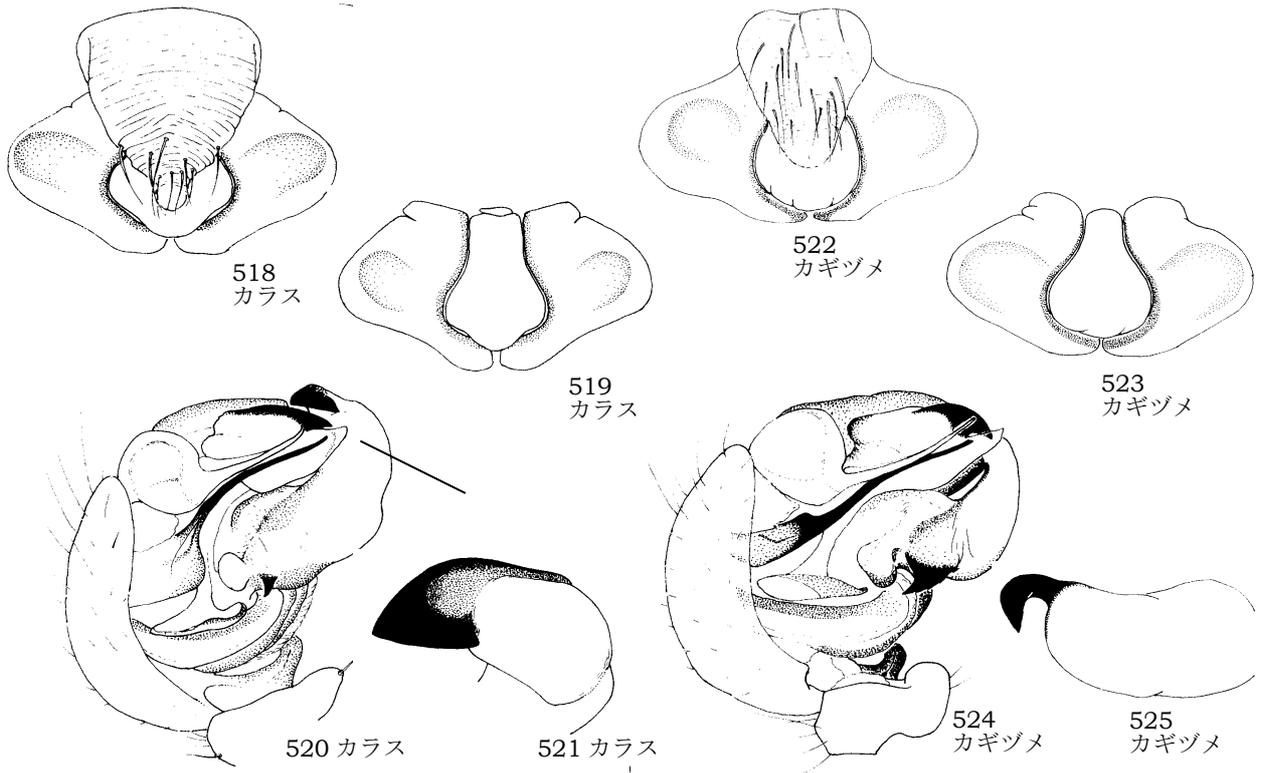


図 518-525. 518-521, カラスゴミグモ *Cyclosa atrata*; 522-525, カギツメカラスゴミグモ *Cyclosa hamulata*; 518, 522, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 519, 523, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off; 520, 524, 雄左触肢 male left palp; 521, 525, 同中部突片 median apophysis. (Tanikawa 1992a より)

ミナミノシマゴミグモ

Cyclosa confusa Bösenberg & Strand 1906

(図 99-107, 507-510)

体長: 雌 5.0~8.0mm. 雄 3.0~4.5mm. 背甲は明褐色で, 側縁や正中部が暗褐色になる個体が多い. 腹部上面の色彩斑紋にはきわめて多くの変異があり, 実にさまざまである. 腹部末端には 3 個の突起があるが, 雄では不明瞭である. 類似種との区別点はシマゴミグモの項目を参照. 分布: 日本 (本州, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 中国.

ヤマトゴミグモ

Cyclosa japonica Bösenberg & Strand 1906

(図 108, 511-514)

体長: 雌 4.0~7.0mm, 雄 3.0~4.5mm. 背甲は暗褐色で中窩の両側は明色である. 腹部上面は明褐色で暗褐色や銀色の斑紋がある. 腹部上面中央部には銀色の X 字状あるいは横一文字の斑紋がある個体が多い. 腹部後端はやや鈍く丸く終わるものから後方に尾状に突出して終わるものまでいろいろである. 類似種との区別点はシマゴミグモの項目を参照. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 台湾, 韓国, 中国.

オガサワラゴミグモ

Cyclosa norihisai Tanikawa 1992

(図 109, 515-517)

体長: 雌 4.0~6.5mm. 雄 3.0mm 前後. 背甲は明褐色で両側だけ濃色になるものからほぼ全面が暗褐色で中窩の両側だけ淡色になるものまでいろいろである. 腹部上面の斑紋も変異に富むが, 前方中央に銀色の帯に囲まれた褐色斑がめだつ場合が多い. 腹部後端には 3 個の突起があるが雄では不明瞭である. 類似種との区別点はシマゴミグモの項目を参照. 分布: 日本 (小笠原諸島).

カラスゴミグモ

Cyclosa atrata Bösenberg & Strand 1906

(図 110, 518-521)

体長: 雌 6.5~10.0mm, 雄 3.5~4.5mm. 背甲は黒褐色. 腹部上面は, 黒色で 1~2 対の銀色の小さな斑点がある場合と, 銀色を帯びた暗褐色の地に暗色の斑紋と 1~2 対の小さな銀色の斑点がある場合とがある. 腹部は細長く, 後端は縦に二分しており, 後端から 1/4~1/3 あたりの両側に 1 対の突起がある. カラスゴミグモとカギツメカラスゴミグモとはきわめて類似しており, 雌の標本で区別するために

は解剖して受精のうの形態を比較しなければならない。しかし、雄は次の点で簡単に見分けられる。カラスゴミグモでは触肢の中部突片(図 520 棒線部)の先端が斧状になっている(図 521)のに対してカギヅメカラスゴミグモでは鉤爪状になっている(図 525)。分布:日本(本州, 四国, 九州), 韓国, 中国。

カギヅメカラスゴミグモ

Cyclosa hamulata Tanikawa 1992

(図 111, 522-525)

体長:雌 6.5~11.5mm, 雄 4.0~5.0mm. 背甲は暗褐色, 腹部上面は, 黒色で 1~2 対の小さな銀色の斑点がある場合と, 暗褐色で暗色の斑紋と 1~2 対の小さな銀色の斑点がある場合とがある。腹部は細長く, 後端は縦に二分しており, 後端から 1/4~1/3 あたりの両側に 1 対の突起がある。カラスゴミグモとの区別点はカラスゴミグモの項目を参照。分布:日本(北海道, 本州), ロシア(極東)。

ハマゴミグモ

Cyclosa maritima Tanikawa 1992

(図 112, 526-528)

体長:雌 4.5~7.5mm, 雄 3.0~4.0mm. 背甲は暗褐色, 腹部上面は明褐色の地に暗褐色の斑紋がある。腹部上面前方には 1 対の小さな突起がある。腹部の斑紋はトゲゴミグモやマルゴミグモと同じパターンであるが, ハマゴミグモの腹部は紡錘形をしていることによって容易に区別できる。分布:日本(小笠原諸島)。

ヒメマルゴミグモ

Cyclosa psylla (Thorell 1887)

(図 529-530)

体長:雌 2.4mm. 雄不明。日本産の標本は, 雌 1 個体がドイツのゼンケンベルグ博物館に保存されているだけである。この標本はデーニッツによって佐賀で採集され, ベーゼンベルグとストランによって同定, 発表されたものである。分布:日本(佐賀), ビルマ。

トゲゴミグモ

Cyclosa mulmeinensis (Thorell 1887)

(図 113-115, 531-534)

体長:雌 3.5~5.0mm. 雄 2.5~3.0mm. 背甲は暗褐色で頭部は明色となることが多い。腹部上面は明褐色の地に暗褐色の斑紋がある。雄では腹部上面の色彩斑紋が雌と同じような場合と雌とは違って全面黒色で 1~2 対の白斑がある場合とがある。腹部背

面には 1 対の突起があるが, 雄では不明瞭かあるいはまったくない場合が多い。トゲゴミグモ, マルゴミグモ, ミツカドゴミグモはたがいに似るが次の各点で見分けられる。トゲゴミグモとマルゴミグモでは腹部後端が丸く終るが, ミツカドゴミグモでは後端に小さな突起がある。トゲゴミグモとマルゴミグモとを雌の標本で見分けるには解剖して受精のうの形態を比較しなければならないが, 日本ではマルゴミグモは屋久島以北に分布しトゲゴミグモはトカラ列島以南に分布しているので産地によってほぼ種名を決められる。雄では触肢の中部突片の内側の突起が, トゲゴミグモでは三角形をしていて先端が中部突片の先端を向いている(図 533, 534 棒線部)のに対して, マルゴミグモでは折りたたまれたようになっていて先端が中部突片の根元のほうを向いており(図 537, 538 棒線部), ミツカドゴミグモではふたつの小さな棘状である(図 540 棒線部)ことで容易に見分けられる。ただし, 触肢を体からはずし, 角度に十分注意して検鏡しないと見誤ることがある。分布:日本(トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), アフリカから台湾, 中国。

マルゴミグモ

Cyclosa vallata Keyserling 1886

(図 116, 535-538)

体長:雌 3.5~5.5mm, 雄 2.5~3.5mm. 背甲は暗褐色で頭部は明色となる。腹部上面は明褐色の地に暗褐色の斑紋がある。雄では雌よりも濃色で 1~数対の白斑がある場合がある。腹部は球形の場合と上面に不明瞭な 1 対の突起がある場合とがある。類似種との区別点はトゲゴミグモの項目を参照。分布:日本(本州南部, 四国, 九州, 薩南諸島), 台湾, 韓国, 中国, ニューギニア, オーストラリア。

ミツカドゴミグモ

Cyclosa sachikoeae Tanikawa 1992

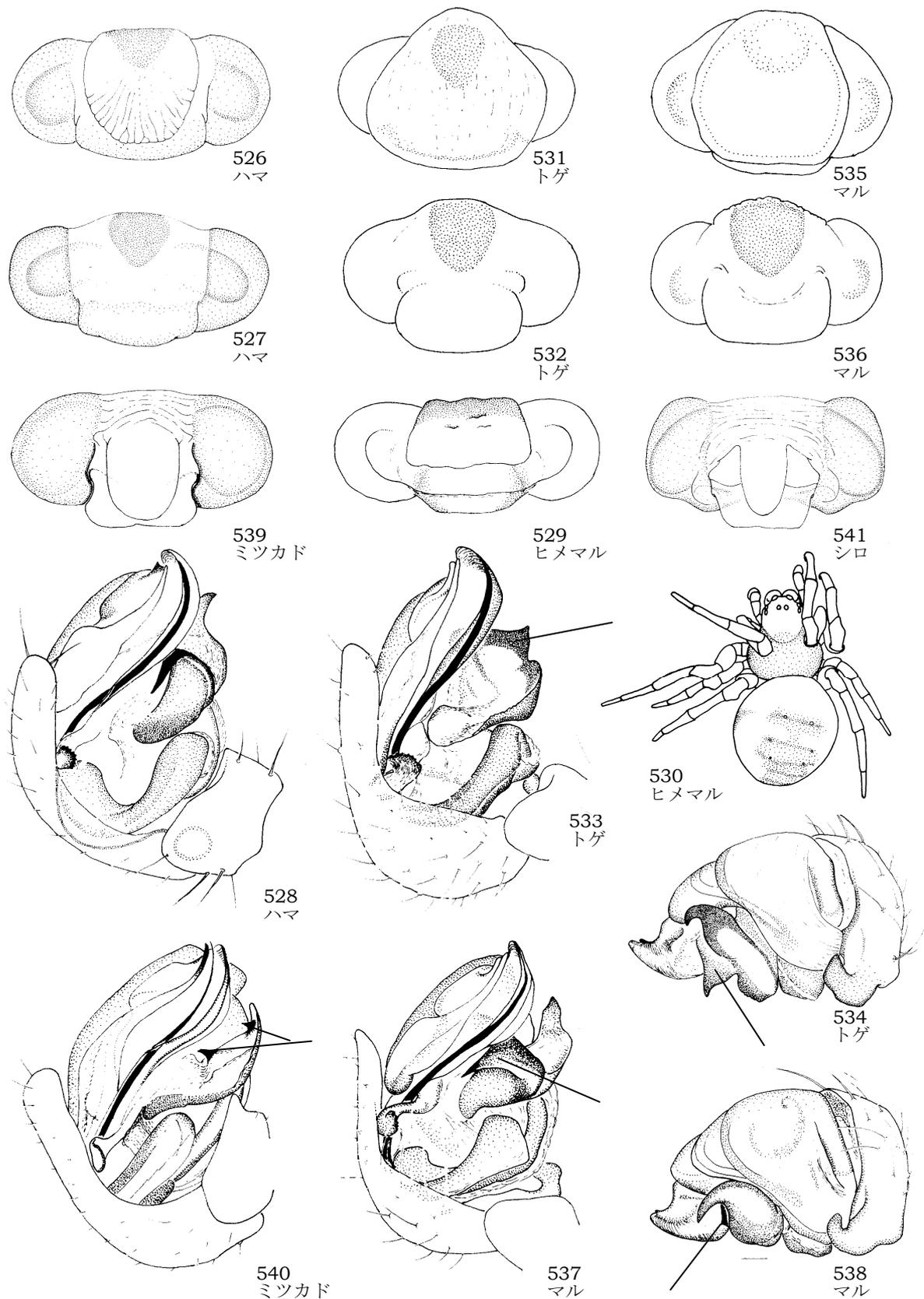
(図 117-119, 539-540)

体長:雌 4.0~5.5mm, 雄 2.5mm 前後。背甲は暗褐色で頭部は明色となることが多い。腹部上面は明褐色で暗褐色の斑紋がある。雄では雌よりも濃色で 3 個の白斑があることが多い。腹部上面に 1 対, 後端に 1 個の突起があるが, 雄では不明瞭な場合がある。類似種との区別点はトゲゴミグモの項目を参照。分布:日本(奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島)

シロゴミグモ

Cyclosa alba Tanikawa 1992

(図 120, 541)



526-541. 526-528, ハマゴミグモ *Cyclosa maritima*; 529-530, ヒメマルゴミグモ *Cyclosa psylla*; 531-534, トゲゴミグモ *Cyclosa mulmeinensis*; 535-538, マルゴミグモ *Cyclosa vallata*; 539-540, ミツカドゴミグモ *Cyclosa sachikoeae*; 541, シロゴミグモ *Cyclosa alba*. 526, 529, 531, 535, 539, 541, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 527, 532, 536, 同 (垂体の取れたもの) same scape torn off; 528, 533, 534, 537, 538, 540, 雄左触肢, male left palp; 530, 雌背面 female, dorsal. (Tanikawa 1992a より)

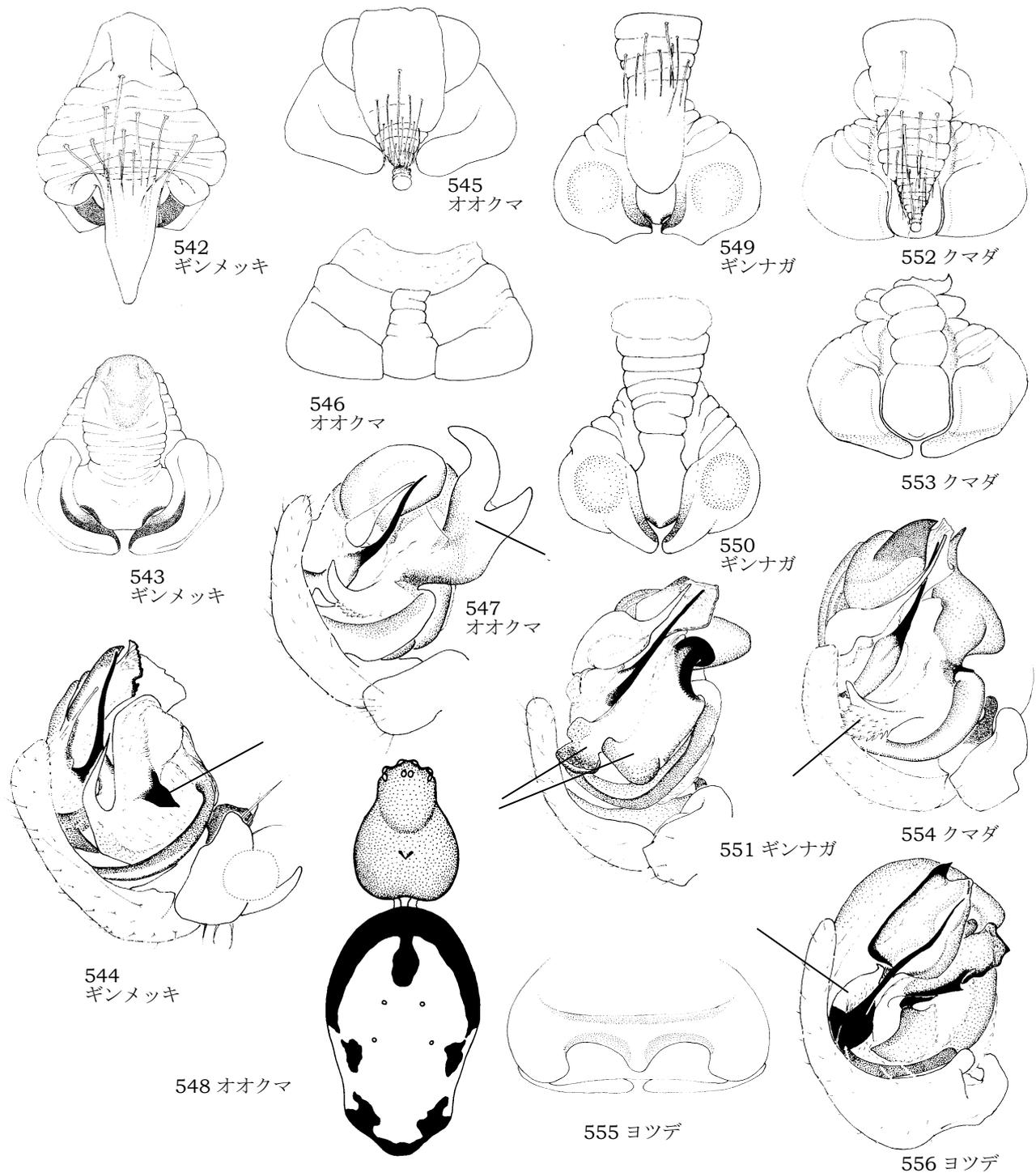


図 542-556. 542-544, ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba*; 545-548, オオクマギンメッキゴミグモ *Cyclosa okumae*; 549-551, ギンナガゴミグモ *Cyclosa ginnaga*; 552-554, クマダギンナガゴミグモ *Cyclosa kumadai*; 555-556, ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata*. 542, 545, 549, 552, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 543, 546, 550, 553, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off; 544, 547, 551, 554, 556, 雄左触肢 male left palp; 548, 雌背面 female, dorsal; 555, 外雌器 epigynum. (Tanikawa 1992a より)

体長：雌 3.5~4.5mm, 雄不明. 背甲は黄白色, 腹部上面は黄白色で濃色の斑紋がある. 腹部上面前方には 1 対の突起があり, 後端はとがる. 体色が淡いことと体が小さいことによって日本産のゴミグモ

属の他種とは容易に見分けられる. ただし, キジロゴミグモなどの幼体と見誤る危険がある. 分布：日本 (本州, 四国, 九州, 八重山諸島).

ギンメッキゴミグモ

Cyclosa argenteoalba Bösenberg & Strand 1906

(図 121-124, 542-544)

体長：雌 3.5~7.0mm, 雄 3.0~3.5mm. 背甲は暗褐色, 腹部上面は銀色の地に黒色の斑紋があるものからほとんど黒色のものまであり, 前方に褐色の斑紋があるものもある. ギンメッキゴミグモ, オオクマギンメッキゴミグモ, ギンナガゴミグモ, クマダギンナガゴミグモはたがいに似るが, 次の各点によって見分けられる. ギンメッキゴミグモでは外雌器の垂体が外雌器本体よりも幅が広いが, 他の 3 種では外雌器本体よりも狭い. オオクマギンメッキゴミグモでは外雌器の垂体が一見して 2 重構造に見えるが実は 1 重であり, 2 重に見える垂体の間に隙間は認識できない. クマダギンナガゴミグモでは外雌器の垂体が明らかに 2 重構造であり, 2 つの垂体の間にははっきりとした隙間が認識できる. ギンナガゴミグモでは明らかに 1 重である. 垂体が取れてしまってもその姿を図と照合すれば容易に同定できる. また, ギンメッキゴミグモとギンナガゴミグモでは雄触肢の杯葉の後端に突起があるが, オオクマギンメッキゴミグモとクマダギンナガゴミグモではそのような突起はない. ギンメッキゴミグモでは雄触肢を側面から見たとき, ほぼ中央によくキチン化した突起が目立ち (図 544 棒線部), オオクマギンメッキゴミグモでは中部突片が大きくて二股に分かれている (図 547 棒線部). ギンナガゴミグモの雄触肢中部突片の基部にはスプーン状の付属突起がある (図 551 棒線部), クマダギンナガゴミグモでは多数の小突起を伴った鳥の頭状の付属突起がある (図 554 棒線部). 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 台湾, 韓国, 中国.

オオクマギンメッキゴミグモ

Cyclosa okumae Tanikawa 1992

(図 545-548)

体長：雌 5.0~5.5mm, 雄 3.5mm 前後. 背甲は暗褐色. 腹部上面は銀色で黒色の斑紋がある. 類似種との区別点はギンメッキゴミグモの項目を参照. 本種の採集記録はきわめて少ない. 分布: 日本 (北海道, 九州).

ギンナガゴミグモ

Cyclosa ginnaga Yaginuma 1959

(図 125-128, 549-551)

体長：雌 5.0~10.5mm, 雄 3.0~5.0mm. 背甲は明褐色で頭部が暗褐色のもの, 背甲全面が暗褐色のもの, 全面暗褐色で中窩の両側のみ明褐色となるものなど変異が多い. 腹部上面の色彩も変異に富み, 銀色の地に黒色の斑紋があるもの, さらに暗褐色の

斑紋もあるもの, ほぼ全面が黒色で銀色のスジ状の斑紋があるものなどさまざまである. 類似種との区別点はギンメッキゴミグモの項目を参照. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島, 奄美諸島, 沖縄諸島) 台湾, 韓国, 中国.

クマダギンナガゴミグモ

Cyclosa kumadai Tanikawa 1992

(図 129, 552-554)

体長：雌 4.5~8.0mm, 雄 3.5~4.0mm. 背甲は暗褐色で中窩の両側が明褐色となる. 腹部は銀色で黒色の斑紋がある. 類似種との区別点はギンメッキゴミグモの項目を参照. 分布: 日本 (北海道, 本州, 九州).

ヨツデゴミグモ

Cyclosa sedeculata Karsch 1879

(図 130-132, 555-556)

体長：雌 4.0~6.0mm, 雄 3.5~4.0mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面は明褐色の地に黄白色や暗褐色の斑紋がある. 腹部後端には 4 個の突起がある. 一見ヤマトカナエグモに似るが, ヤマトカナエグモの頭部は大きくヘルメット状に脹らんでいるのに対してヨツデゴミグモの頭部は胸部よりも幅が小さい点で容易に区別できる. また, ヤマトカナエグモは網を張らないので, 円網を張っていればヨツデゴミグモである. 肉眼レベルではオノゴミグモと見誤ることもあるが, 拡大して腹部上面の形態を比較すれば, オノゴミグモでは前方に 1 対の突起があるのに対してヨツデゴミグモでは上面前方には突起がない点や, オノゴミグモの外雌器には垂体があるのに対してヨツデゴミグモでは垂体がないこと, 雄触肢の端部突片がオノゴミグモでは指示器にかかるくらい長い (図 502 破線部) のにヨツデゴミグモでは指示器にかからないほど短いこと (図 556 棒線部) などでも区別は容易である. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 韓国, 中国

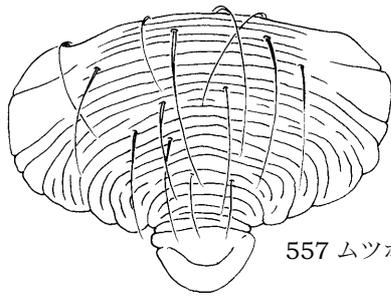
ムツボシオニグモ属

Araniella

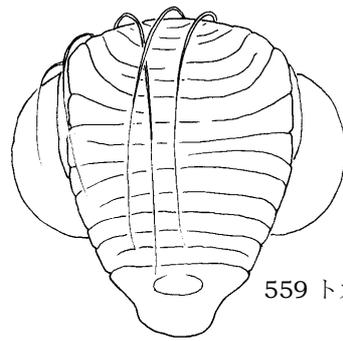
腹部上面は黄色で後部に対をなす黒点がある. 雄触肢の膝節には 3 本の刺毛がある. 雄触肢の中部突片はフック状である.

本属はカタハリオニグモ属と姉妹群関係にあると推定されている. 共有派生形質は, 雄第 2 脚の脛節の刺毛はとくに強くなって第 1 脚とほぼ同じであること, 雄触肢に端部血のうがないこと, 外雌器垂体にしわがあり柔軟に変形可能なことである.

世界ではおよそ 10 種が旧北区, 新北區, 東洋区か



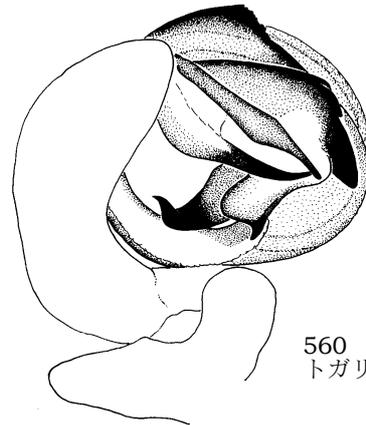
557 ムツボシ



559 トガリ



558
ムツボシ



560
トガリ

図 557-560. 557-558, ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai*; 559-560, トガリハナオニグモ *Araniella displicata*. 557, 559, 外雌器 epigynum; 558, 560, 雄左触肢 male left palp. (Tanikawa, 1995a より)

ら知られており、日本には次の2種が生息する。

ムツボシオニグモ

Araniella yaginumai Tanikawa 1995

(図 133-134, 557-558)

体長：雌 5.0~8.0mm, 雄 4.0~5.5mm. 背甲は明褐色で、雄では個体によって胸部に暗色の縁どりがある。腹部上面の黒点は3対の場合が多いが、1対から4対まで幅があり、ときに対にならず奇数のこともある。ムツボシオニグモは次のトガリハナオニグモと似るが、次の点で区別できる。ムツボシオニグモの外雌器垂体は長さよりも幅が勝る(図 557), トガリハナオニグモの外雌器垂体は幅よりも長さが勝る(図 559)。また、ムツボシオニグモの雄触肢の指示器にはナイフ型の突起が2つあるが(図 558 棒線部), トガリハナオニグモではそのような突起はない。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 台湾, 韓国, ロシア(極東)。

トガリハナオニグモ

Araniella displicata (Hentz 1847)

(図 135, 559-560)

体長：雌 5.8~7.4mm, 雄 4.3~4.4mm. 前種と同じく、腹部上面の後部にある黒点の数は3対の場

合が多いが、その数は個体によって違う。ムツボシオニグモとトガリハナオニグモとの区別点は、ムツボシオニグモの項を参照。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 全北区に広く分布。

カタハリオニグモ属

Eriophora

腹部上面は緑褐色で、白色や黒色などの複雑な斑紋がある。腹部はやや縦長。外雌器の垂体は細長い。雄触肢に亜端部突片はない。

カタハリオニグモ属はタカネオニグモ属と姉妹群関係にあると推定されている。共有派生形質は雄触肢に副中部突片と茎部があること、雌第4蹠節背面に3本以上の聴毛があることである。

世界では約20種が、旧北区, エチオピア区, 新北區, 新熱帯区, オーストラリア区から知られる。日本には次の4種が生息する。

サガオニグモ

Eriophora astridae (Strand 1917)

(図 136-139, 561-563)

体長：雌 6.0~10.0mm, 雄 4.5~5.0mm. 背甲は明褐色で頭部は暗褐色となる。腹部上面は暗褐色

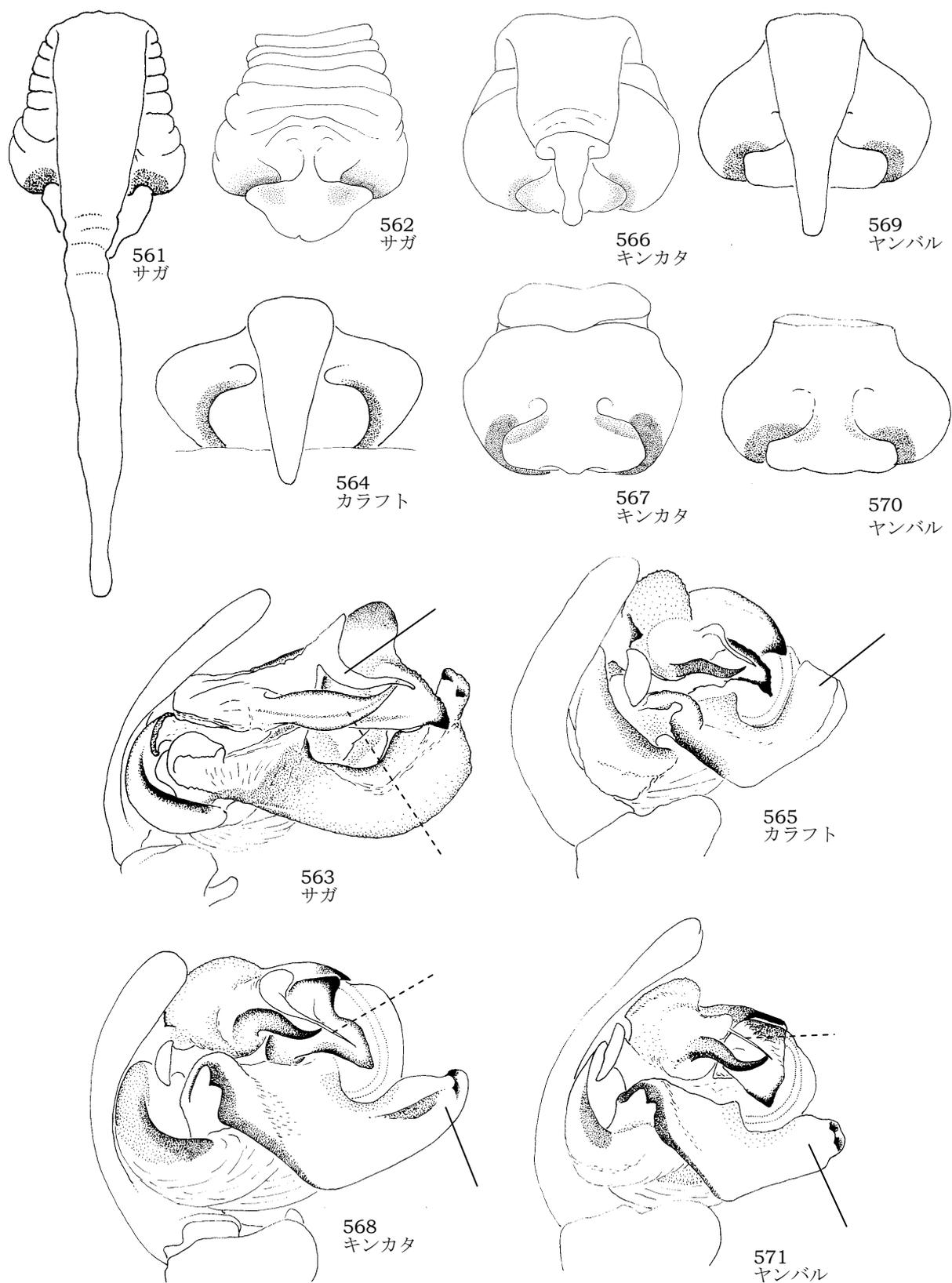


図 561-571. 561-563, サガオニグモ *Eriophora astridae*; 564-565, カラフトオニグモ *Eriophora sachalinensis*; 566-568, キンカタハリオニグモ *Eriophora aurea*; 569-571, ヤンバルオニグモ *Eriophora yanbaruensis*. 561, 564, 566, 569, 外雌器 (垂体があるもの) epigynum, with a scape; 562, 567, 570, 同 (垂体が取れたもの) same, scape torn off; 563, 565, 568, 571, 雄左触肢 male left palp. (Tanikawa 2000a より)

で黒色，明褐色，白色のまざった複雑な斑紋がある。サガオニグモはカラフトオニグモ，キンカタハリオニグモ，ヤンバルオニグモに似るが，次の各点で見分けられる。サガオニグモの外雌器の垂体はきわめて細長く，外雌器基部の2倍以上あるが（図 561），他の3種の外雌器の垂体は外雌器基部よりも若干長いだけである（図 564, 566, 569）。また，垂体が取れてしまっているが，その形態は特徴的なので，図と照合すれば他の3種から簡単に見分けられる（図 562）。雄ではサガオニグモの触肢の端部突片（図 563 棒線部）と移精針（図 563 破線部）は他の3種よりもずっと大きい。この点に留意して図と照合すれば容易に同定できる。分布：日本（本州，四国，九州，トカラ列島，奄美諸島，八重山諸島），台湾，韓国，中国。

カラフトオニグモ

Eriophora sachalinensis (S. Saito 1934)

(図 140-141, 564-565)

体長：雌 4.5~8.5mm，雄 3.5~4.5mm。背甲は褐色。腹部上面は緑褐色で，黒色，黄色，白色の複雑な斑紋がある。カラフトオニグモ，キンカタハリオニグモ，ヤンバルオニグモはたがいによく似るが次の各点で見分けられる。カラフトオニグモ（図 564）とヤンバルオニグモ（図 569）では外雌器の垂体が細く，垂体の幅は外雌器全体の幅の1/2よりも小さいが，キンカタハリオニグモ（図 566）では垂体の幅がやや広く，垂体の幅が外雌器全体の幅の1/2よりも大きい。垂体が折れてしまっているが，垂体は最も幅の広い部分で折れるので，折れた部分の幅で判断できる。カラフトオニグモでは，外雌器を腹面から見たときに中央部よりもやや前方で最も幅が広いが，ヤンバルオニグモでは中央部よりもやや後方で最も幅が広い。カラフトオニグモの雄触肢の中部突片（図 565 棒線部）の先端はやや末広がりになるが，キンカタハリオニグモ（図 568 棒線部）とヤンバルオニグモ（図 571 棒線部）とでは若干細く，先端には少し折り返すように2つの小さな突起がある。キンカタハリオニグモでは端部突片が刺状（図 568 破線部）であるが，ヤンバルオニグモでは基部がやや太くその先にきわめて細い糸状の突起がついている状態（図 571 破線部）である。サガオニグモとの見分け方はサガオニグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），韓国，中国，ロシア（極東）。

キンカタハリオニグモ

Eriophora aurea (S. Saito 1934)

(図 142-143, 566-568)

体長：雌 7.5~9.0mm，雄 4.0mm 前後。背甲は

褐色で頭部は暗色となる。腹部上面は緑褐色で，黒色，黄白色，白色からなる複雑な斑紋がある場合と白みがかかった緑色の大きな斑紋がある場合とがある。類似種との見分け方についてはサガオニグモ，カラフトオニグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州）。

ヤンバルオニグモ

Eriophora yanbaruensis Tanikawa 2000

(図 144-149, 569-571)

体長：雌 6.0~8.0mm，雄 4.0~5.0mm。背甲は褐色で頭部は暗色となる。腹部上面は緑褐色で黒色，黄白色，白色からなる複雑な斑紋がある。類似種との見分け方はサガオニグモ，カラフトオニグモの項目を参照。分布：日本（奄美諸島，沖縄諸島）。

ヒメオニグモ属

Neoscona

外雌器の垂体はへら状で，しわがなく柔軟性がない。雄触肢の杯葉は触肢の腹面をおおう。

ヒメオニグモ属のクモ類はオニグモ属，タカネオニグモ属と近縁である。共有派生形質は外雌器の垂体にしわがないことや雄触肢の移精針の先端にキャップがないことである。

世界中に分布し，約80種が知られる。日本には次の11種が生息する。

ホシスジオニグモ

Neoscona theisi (Walckenaer 1841)

(図 150-159, 572-574)

体長：雌 6.5~11.5mm，雄 4.5~7.0mm。背甲は明褐色で暗褐色の正中線および縁取りがある。腹部上面は色彩変異に富み，淡褐色，緑褐色，褐色，暗褐色などいろいろで，不明瞭な葉状斑と明色の正中斑がある。正中斑の色彩も白色や黄色などさまざまである。ホシスジオニグモ，ドヨウオニグモ，アマミオニグモはたがいによく似るが，次の点で見分けられる。ホシスジオニグモでは腹部上面の正中斑の両側に対をなす明色の斑点があり，腹部後方でも斑点は連続しない。ドヨウオニグモでは正中斑の両側に対をなす黒色の斑点があり，腹部後方では斑点の間が連絡し，細い横すじとなる。アマミオニグモでは明色の正中斑とその両側の暗色のV字状斑がめだち，対になる斑点はほとんど認識できない。分布：日本（本州，四国，九州，小笠原諸島，薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，大東諸島，宮古諸島，八重山諸島），旧世界の熱帯地域に広く分布。

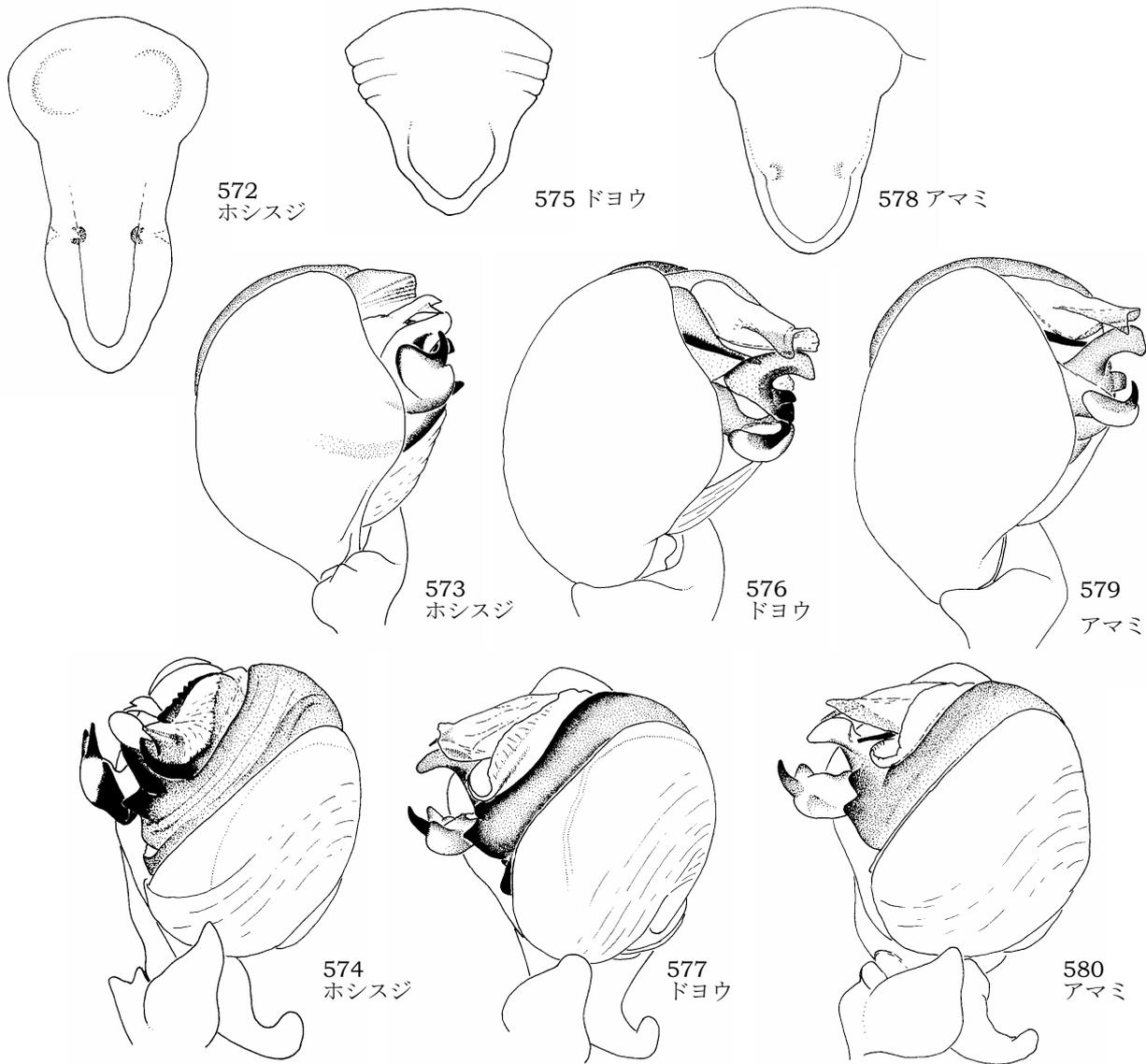


図 572-580. 572-574, ホシスジオニグモ *Neoscona theisi*; 575-577, ドヨウオニグモ *Neoscona adianta*; 578-580, アマミオニグモ *Neoscona amamiensis*. 572, 575, 578, 外雌器 epigynum; 573, 576, 579, 雄左触肢腹面 male left palp, ventral; 574, 577, 580, 同背面 same, dorsal. (Tanikawa 1998 より)

ドヨウオニグモ

Neoscona adianta (Walckenaer 1802)

(図 160-161, 575-577)

体長：雌 5.5~10.0mm, 雄 4.0~6.0mm. 背甲は明褐色で、ほとんどの個体で暗褐色の正中線と縁どりがあがる。腹部上面は黄色から橙黄色で、正中部には白色の斑紋があり、その両側には対を成す黒色の斑点がある。黒色斑点は後方では左右の対の間が連続し細い横すじとなる。類似種との見分け方はホシスジオニグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），旧北区に広く分布。

アマミオニグモ

Neoscona amamiensis Tanikawa 1998

(図 162, 578-580)

体長：雌 7.5~9.0mm, 雄 4.5mm 前後。背甲は明褐色でほとんどの個体で暗褐色の正中線と縁どりがあがるが、まれに縁どりがあがない個体もある。腹部上面は褐色あるいは明褐色で、周囲は黄色で縁どられ、正中部には黄色と暗褐色の2重のV字状の斑紋がある。類似種との区別点はホシスジオニグモの項目を参照。分布：日本（トカラ列島，奄美諸島）。

イエオニグモ

Neoscona nautica (L. Koch 1875)

(図 163, 581-584)

体長：雌 8.0~12.0mm, 雄 4.5~5.0mm. 背甲は明褐色，褐色あるいは暗灰色で暗色の縁どりがあがる。腹部上面は明褐色，褐色あるいは暗灰色で暗色の葉状斑がある。本種は色彩・斑紋が地味なこと，

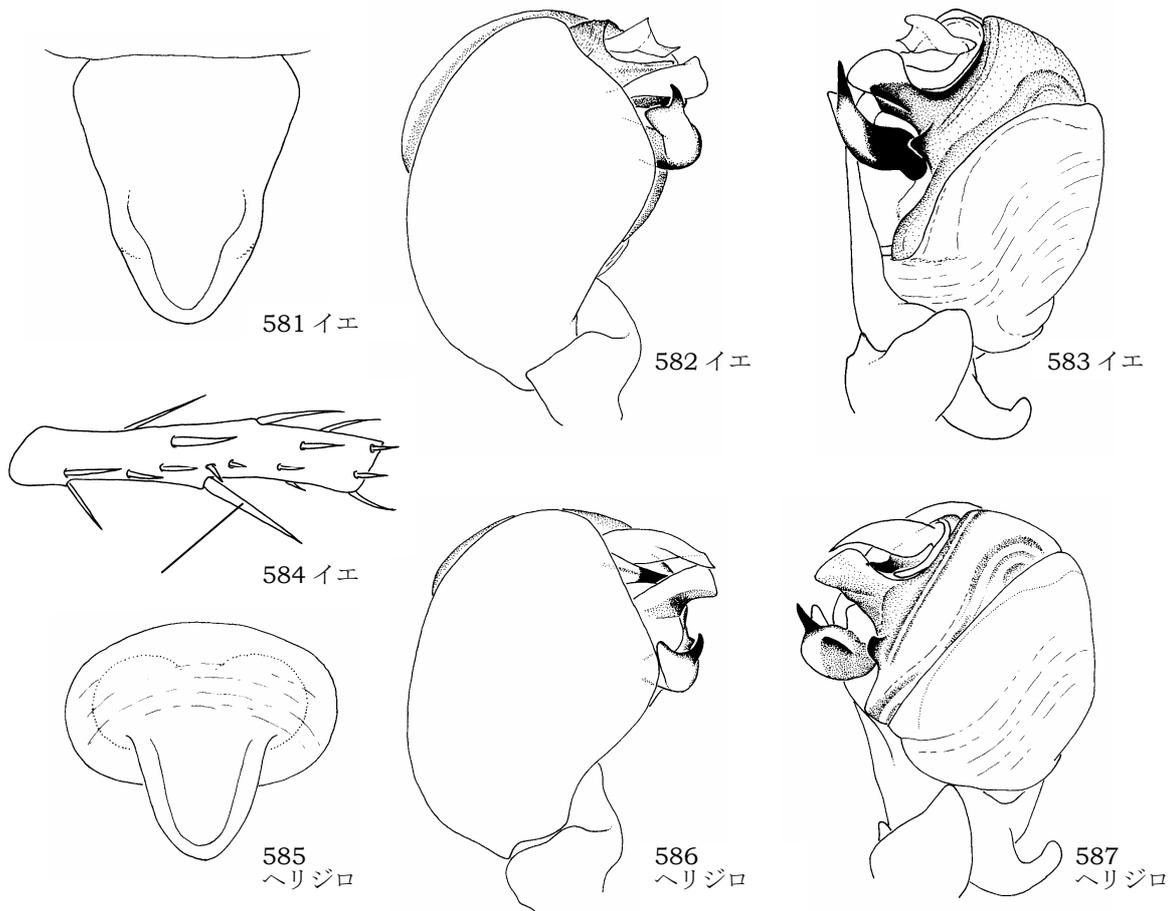


図 581-587. 581-584, イエオニグモ *Neoscona nautica*; 585-587, ヘリジロオニグモ *Neoscona subpullata*. 581, 585, 外雌器 epigynum; 582, 586, 雄左触肢腹面 male left palp, ventral; 583, 587, 同背面 same, dorsal; 584, 雄第 2 脚脛節側面 male tibia II, lateral. (Tanikawa 1998 より)

外雌器の垂体が短くて三角形であること、雄の第 2 脚脛節下面のほぼ中央に太くて長い刺があること (図 584 棒線部) で同属の他種から容易に見分けられる。分布：日本 (本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島), 世界中の暖帯, 熱帯に広く分布。

ヘリジロオニグモ

Neoscona subpullata (Bösenberg & Strand 1906)
(図 164-171, 585-587)

体長：雌 4.5~7.0mm, 雄 3.0~4.5mm. 背甲は明褐色で頭部は暗色となる。腹部上面は明褐色で, 前方に明色の斑紋, 後方に葉状斑がある個体が多いが, 後方に大きな黒色斑がある場合や正中部に黒色の縦斑がある場合など色彩変異も多い。ヘリジロオニグモは一見ヤミオニグモやオオクマヤミオニグモに似るが, ヘリジロオニグモの外雌器垂体は舌状であること, 雄触肢の杯葉が触肢の腹面をおおっており, かつ触肢の各構造が *Neoscona* 属に特徴的な配置になっていることで容易に見分けられる。分布：日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ

列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国。

ワキグロサツマノミダマシ

Neoscona melloteei (Simon 1895)

(図 172-176, 588-590)

体長：雌 6.5~9.5mm, 雄 5.5~8.5mm. 背甲は褐色で前方は暗色となり, 雄では暗色の縁どりがある。腹部上面は生時緑色, アルコール標本では黄白色となる。まれに中央部に暗褐色の斑紋があることがある。腹部下面は生時褐色, アルコール標本では明褐色となる。ワキグロサツマノミダマシとサツマノミダマシは大変よく似るが次の点で識別できる。両者ともに腹部上面は生時緑色であるが, 腹部下面はワキグロサツマノミダマシでは褐色, サツマノミダマシでは緑色である。アルコール標本で退色してしまっている場合、ワキグロサツマノミダマシでは腹部側面に両色彩の境目がはっきりと認識できる場合が多い。また, 外雌器を腹面から見たときにワキグロサツマノミダマシでは中央よりやや先端側に暗褐

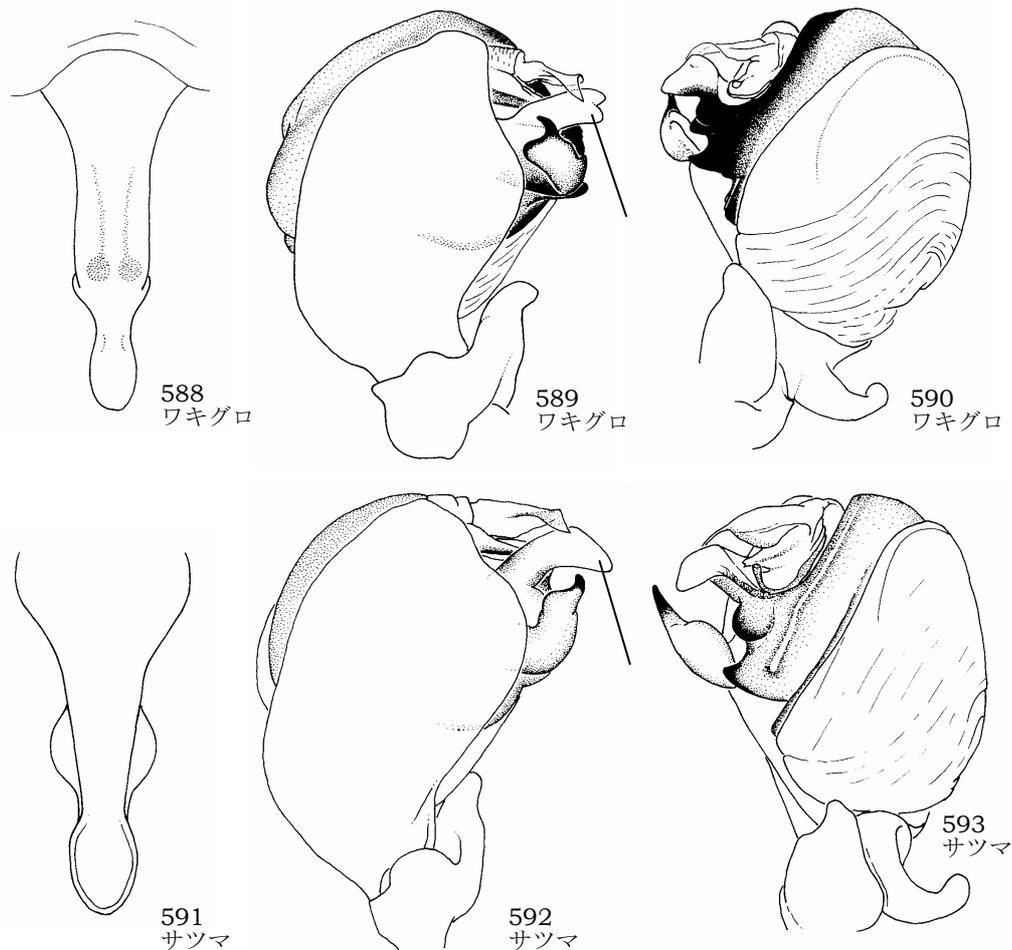


図 588-593. 588-590, ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona melloteei*; 591-593, サツマノミダマシ *Neoscona scylloides*. 588, 591, 外雌器 epigynum ; 589, 592, 雄左触肢腹面 male left palp, ventral ; 590, 593, 同背面 same, dorsal. (Tanikawa 1998 より)

色の斑点が見えるが、サツマノミダマシにはそのような斑点はない。ただし、ごく稀にサツマノミダマシでもこの斑点が見える場合があるので注意が必要である。また、雄触肢の指示器の先端が、ワキグロサツマノミダマシでは二股に分かれている(図 589 棒線部)のに対して、サツマノミダマシでは二分せずにとがって終わっている(図 592 棒線部)。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国。

サツマノミダマシ

Neoscona scylloides (Bösenberg & Strand 1906)
(図 177-180, 591-593)

体長：雌 7.0~10.5mm, 雄 7.5~8.5mm. 背甲は褐色で雄では暗色の縁どりがある。腹部上面および下面ともに生時緑色, アルコール標本では黄白色となる。腹部上面前縁には生時黄色の縁どりがあるが, アルコール標本では白色となる。類似種との区別点はワキグロサツマノミダマシの項目を参照。分

布：日本(本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国。

ヤマシロオニグモ

Neoscona scylla (Karsch 1879)

(図 181-189, 594-596)

体長：雌 9.0~16.0mm, 雄 7.0~11.5mm. 背甲は明褐色から暗褐色で雄では暗色の縁どりがある。腹部上面の色彩斑紋には変異がたいへん多い。明褐色から暗褐色の地に暗色の葉状斑があるものや, 中央部に黒斑があるもの, 白斑があるもの, ほとんど斑紋が見られないものなどがある。ヤマシロオニグモはヤスダオニグモに似るが, ヤマシロオニグモの外雌器の垂体は基部から先端までほぼ一様に細長い(図 594)のに対して, ヤスダオニグモの外雌器垂体は基部が幅広く急激に細くなる(図 597)ことで容易に見分けられる。ヤマシロオニグモのうち斑紋のはっきりしないものはコゲチャオニグモやアカアシオニグモにも似るが, ヤマシロオニグモでは外雌

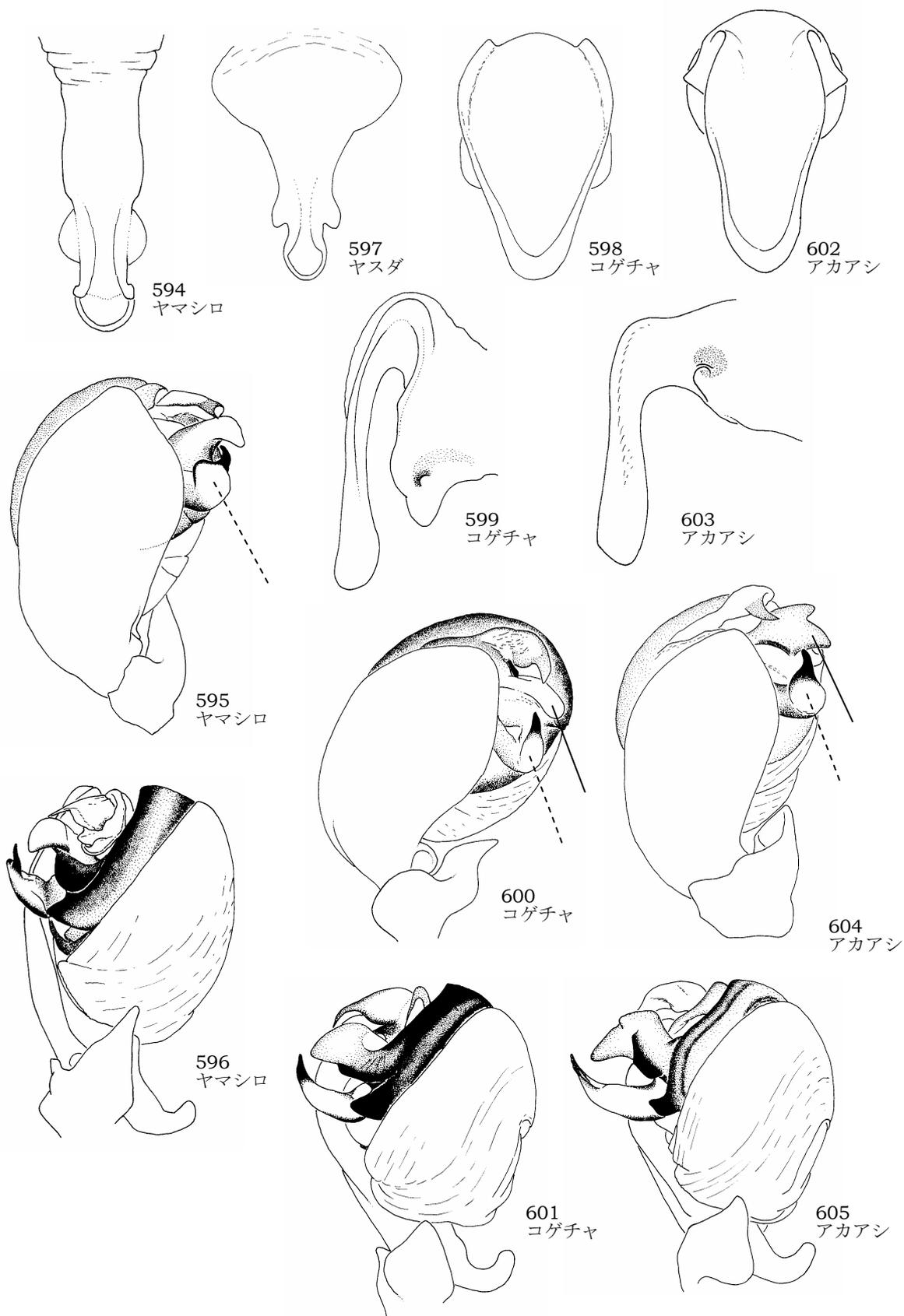


図 594-605. 594-596, ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla*; 597, ヤスダオニグモ *Neoscona multiplicans*; 598-601, コゲチャオニグモ *Neoscona punctigera*; 602-605, アカアシオニグモ *Neoscona vigilans*. 594, 597, 598, 602, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 599, 603, 同側面 same, lateral; 595, 600, 604, 雄左触肢腹面 male left palp, ventral; 596, 601, 605, 同背面 same, dorsal. (Tanikawa 1998 より)

器垂体が細長くて外雌器基部から屈曲せずに伸びているのに対して、コゲチャオニグモとアカアシオニグモでは外雌器垂体がやや幅広くへら状をしていて(図 598, 602) 外雌器基部からアカアシオニグモでは約 90 度(図 603), コゲチャオニグモでは 180 度(図 599) 屈曲してつくことで容易に見分けられる。また、雄触肢の中部突片を触肢側面から見たときの形が、ヤマシロオニグモではアヒル型をしているのに対してコゲチャオニグモとアカアシオニグモではより細長く槍型に近い形をしている(図 595, 600, 604 破線部)。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国。

ヤスダオニグモ

Neoscona multiplicans (Chamberlin 1924) (図 190, 597)

体長：雌 10.0mm 前後。背甲は明褐色で頭部は暗色となる。腹部上面は褐色で暗褐色の葉状斑がある。ヤマシロオニグモとの区別点はヤマシロオニグモの項目を参照。分布：日本(対馬と島根県で雌が採集されているだけである), 中国。

コゲチャオニグモ

Neoscona punctigera (Doleschall 1857) (図 191-196, 598-601)

体長：雌 8.5~16.0mm, 雄 7.0~9.0mm。

背甲は褐色あるいは赤褐色で雄では暗色の縁どりがある。腹部上面は明褐色, 赤褐色, 褐色, 暗褐色などいろいろで, 暗色の斑紋がある場合もある。コゲチャオニグモは, ヤマシロオニグモやアカアシオニグモと似る。ヤマシロオニグモとの区別点はヤマシロオニグモの項目を参照。アカアシオニグモとは次の各点で見分けられる。コゲチャオニグモの外雌器垂体は外雌器基部から 180 度屈曲しており(図 599), 外雌器の左右の開口よりも幅広いが, アカアシオニグモの外雌器垂体は外雌器基部から約 90 度屈曲しており(図 603), 外雌器の左右の開口よりも幅が狭い。また, 雄触肢の指示器の先端が, コゲチャオニグモでは二分せずに丸く終わる(図 600 棒線部)のに対して, アカアシオニグモでは二分する(図 604 棒線部)。分布：日本(本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), セイシェル諸島から東南アジア, ニューギニア島, 台湾, 韓国, 中国。

アカアシオニグモ

Neoscona vigilans (Blackwall 1865) (図 197-198, 602-605)

体長：雌 9.5~17.0mm, 雄 8.0~9.0mm。背甲は褐色から赤褐色で暗色の縁どりがある。腹部上面は褐色から暗褐色で葉状斑と明色の斑紋とがある。とくに心臓斑を囲む白線が特徴的であるが個体によってあまりめだたないこともある。類似種との区別点はヤマシロオニグモ, コゲチャオニグモの項目を参照。分布：日本(トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島), 旧世界の熱帯に広く分布。

コガネグモダマシ属

Larinia

体色は明褐色で, 腹部上面には縦向きの濃褐色の斑紋がある。腹部は細長い。

系統的な位置については, オニグモ属の姉妹群, あるいはナガテオニグモ属の姉妹群の, 2 つの可能性が示唆されている。系統的な位置については未解決ではあるが, 明褐色を基調にした体色と細長い体つきとでコガネグモ科の他属のクモ類とは容易に見分けられる。一方, 同属内の各種はみなよく似た色彩・斑紋をしているので, 正確に同定するためには外雌器や雄触肢の形態を図と比較し照合する必要がある。コガネグモダマシ属をさらに細分する意見があるが, 私はその必要はないと判断するのでここには取り上げない。

世界中からおおよそ 50 種が知られるが, 日本には次の 7 種が生息する。

コガネグモダマシ

Larinia argiopiformis Bösenberg & Strand 1906 (図 199-201, 606-609)

体長：雌 7.0~10.5mm, 雄 6.0~7.0mm。背甲は黄褐色, 腹部上面は黄褐色で明色の正中線がありその両側には褐色の 2 縦線があるものが多いが, 個体によっては黄褐色の地に黒色の正中線があるものや褐色の 2 縦線上と歩脚に黒色の斑点がある場合もある。本種の同定のポイントは次の各点である。外雌器の垂体が幅の広い逆三角形をしていること(図 606), 外雌器の両側に突出があること, 雄触肢を腹面から見たときの盾の突起がワシのクチバシ型をしていること(図 609 棒線部), 雄触肢を内側から見たとき, 茎部突片がトリの竜骨型(図 608 棒線部)をしていること, 同じく端部突片の先端が平たくへら状になっていること(図 608 破線部), 同じく中部突片の根元に大小 2 本の突起があること(図 608 一点鎖線部)。分布：日本(本州, 四国, 九州, トカラ列島, 沖縄諸島), ロシア(極東), 韓国, 中国。

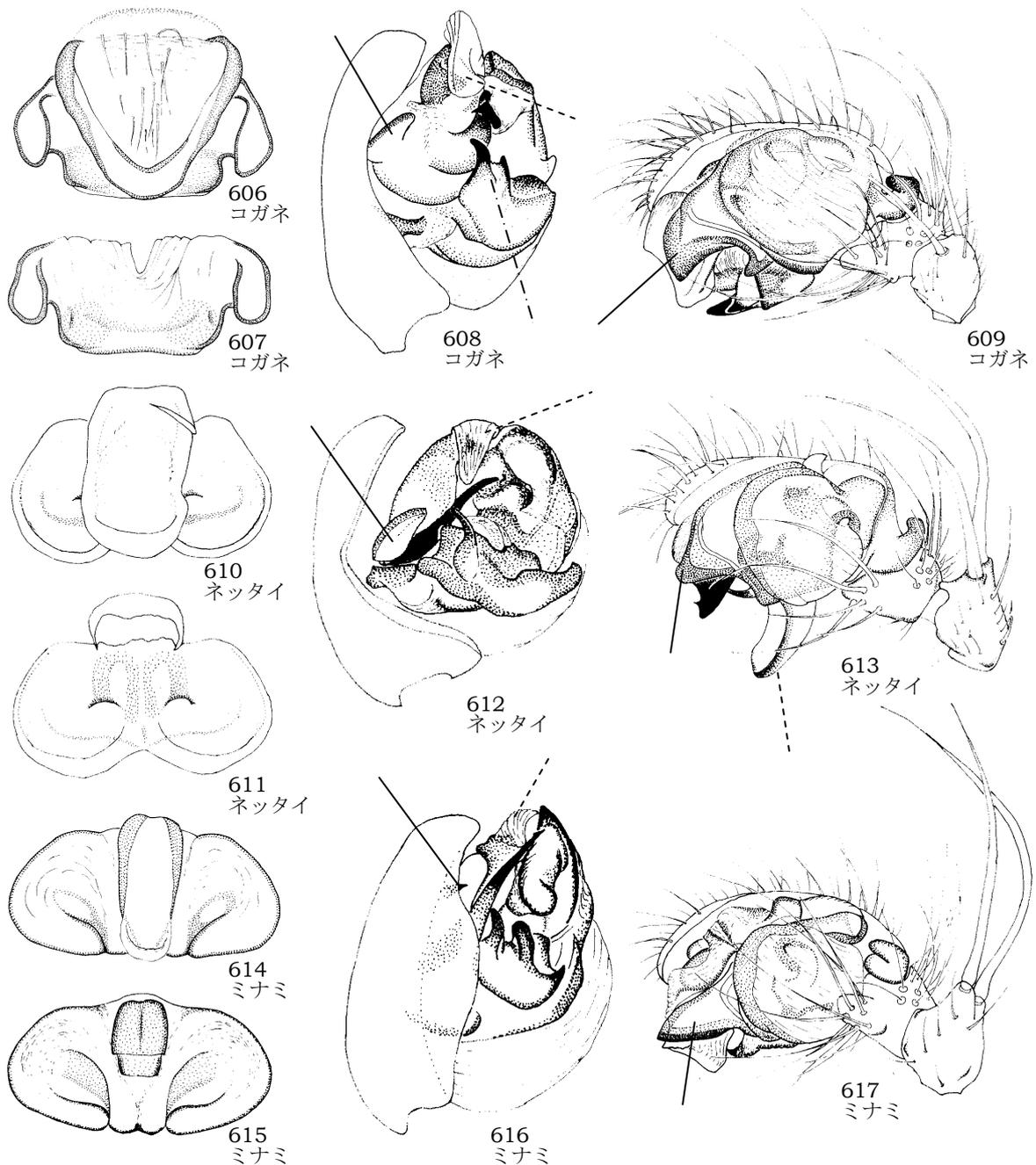


図 606-617. 606-609, コガネグモダマシ *Larinia argiopiformis*; 610-613, ネットアイコガネグモダマシ *Larinia fusiformis*; 614-617, ミナミコガネグモダマシ *Larinia phthistica*; 606, 610, 614, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 607, 611, 615, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off; 608, 612, 616, 雄左触肢側面 male left palp, lateral; 609, 613, 617, 同腹面 same, ventral. (Tanikawa 1989 より)

ネットアイコガネグモダマシ
Larinia fusiformis (Thorell 1877)
 (図 202, 610-613)

体長: 雌 7.0~10.5mm, 雄 6.0~7.0mm. 背甲は明褐色で正中部に暗褐色の斑紋がある. 腹部上面は淡褐色で白色の正中線があり, その両側に褐色の2縦条と対になる小さな黒点がある. 本種の同定ポイントは次の各点である. 外雌器全体の形態が逆ハ

ート型をしていること (図 611), 外雌器の垂体は舌状であること (図 610), 雄触肢を腹面から見たときの盾の突起が先の丸い三角状であること (図 613 棒線部), 中部突片が側方に突出していること (図 613 破線部), 雄触肢を内側から見たとき, 茎部突片がトリの竜骨型であること (図 612 棒線部), 端部突片が先のとがったクチバシ状であること (図 612 破線部). 分布: 日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島),

ビルマ, ベトナム, インド.

ミナミコガネグモダマシ

Larinia phthisica (L.Koch 1871)

(図 203-204, 614-617)

体長: 雌 7.5~12.0mm, 雄 5.5~6.0mm. 背甲は明褐色. 腹部上面は明褐色で暗褐色の細い縦線と小さな対になる黒点がある. 本種の同定ポイントは次の各点である. 外雌器が全体として台形であること (図 614-615), 外雌器の垂体はやや細い舌状であること (図 614), 雄触肢を腹側から見たときの盾の突起が先のとがったやや細長い三角形であること (図 617 棒線部), 雄触肢を内側から見たとき, 茎部突片が刺状であること (図 616 棒線部), 同じく端部突片がトリのクチバシ状であること (図 616 破線部). 分布: 日本 (八重山諸島), オーストラリア, ニューギニア, インド, ベトナム, 中国.

ムネグロコガネグモダマシ

Larinia onoi Tanikawa 1989

(図 205, 618-620)

体長: 雌 4.5~8.0mm, 雄 4.5~5.0mm. 背甲は明褐色で, 胸部には灰色の縁どりがある. 腹部上面は明褐色で褐色の縦線と対になる小さな黒点がある. 本種の同定ポイントは次の各点である. 外雌器が全体としておにぎり型をしていること (図 618), 外雌器の垂体が曲っていてたくさんのしわがあること (図 618), 雄触肢を腹側から見たときに端部突片が幅広く短いこと (図 620 棒線部), 茎部突片が長くて触肢先端方向に突出していること (図 620 破線部). 分布: 日本 (本州, 八重山諸島).

セキグチコガネグモダマシ

Larinia sekiguchii Tanikawa 1989

(図 206, 621-623)

体長: 雌 8.0~9.5mm, 雄 6.5~7.0mm. 背甲は淡褐色. 腹部上面は淡褐色で褐色の正中条と2縦条があり, 2縦条の両側はそれぞれ葉状斑を形作っている. 本種同定のポイントは次のとおりである. 外雌器の全体的な形が腹面から見たときに凹レンズ型をしていること (図 621), 雄触肢を内側から見たときに端部突片の先端が平たくて半透明であること (図 622 棒線部), 同じく雄触肢を内側から見たときに中部突片に付属する2つの突起が平行に杯葉のほうを向いていること (図 622 破線部). 分布: 日本 (本州), 中国.

キタコガネグモダマシ

Larinia jescovi Marusik 1986

(図 207, 624-627)

体長: 雌 8.5~9.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は淡褐色で胸部には灰色の縁どりがある. 腹部上面は淡褐色で白色の正中条と褐色の縦斑がある. 本種の同定ポイントは, 外雌器が全体として横長のハート型をしていること (図 624-625), 外雌器の垂体が短くて三角形をしていること (図 624), 雄触肢を腹面から見たときに盾の突起の先端が二山に分かれていること (図 627 棒線部), 雄触肢を内側から見たときに中部突片がカギヅメ状であること (図 626 棒線部). 分布: 日本 (北海道), ロシア (極東).

ボネコガネグモダマシ

Larinia bonneti Spassky 1939

(図 208, 628-630)

体長: 雌 4.0~5.0mm, 雄 3.0mm 前後. 背甲は淡褐色で頸溝の部分が暗色となる. 腹部上面は淡褐色で褐色の斑紋があり, 後方には1対の濃色の斑点がある. 本種の同定ポイントは次の各点である. 外雌器が全体的に横長の形をしていること (図 628, 630), 外雌器の垂体が2重構造をしており, キチン化が弱くて丸く脹らんでいること (図 628), 雄触肢の指示器が長く伸びていること (図 629 棒線部), 端部突片が腹面方向を向いていること (図 629 破線部). 分布: 日本 (北海道, 本州), ロシア (西コーカサス).

タカネオニグモ属

Aculepeira

雄触肢の中部突片の基部に二股に分かれた長い突起がある (図 632 棒線部).

本属の姉妹群は *Araneus* 属であると推定されている. 本属の共有派生形質は雄触肢の中部突片の基部に二股の突起があること, 雌の外雌器垂体の先端にポケットがないことである.

世界では24種が全北区および新熱帯区から知られており, 日本には次の1種のみが生息する.

マツダタカネオニグモ

Aculepeira matsudae Tanikawa 1994

(図 209, 631-632)

体長: 雌 7.5~8.5mm, 雄 6.0mm 前後. 背甲は赤褐色で頭部は淡黄色, 歩脚は明褐色で暗褐色の輪紋がある. 腹部上面は暗褐色で明褐色の細かなまだら模様と淡黄色の特徴的な斑紋がある. 分布: 日本 (基準産地の北海道鹿追町東ヌブカウシヌプリの岩塊地からのみ採集されている).

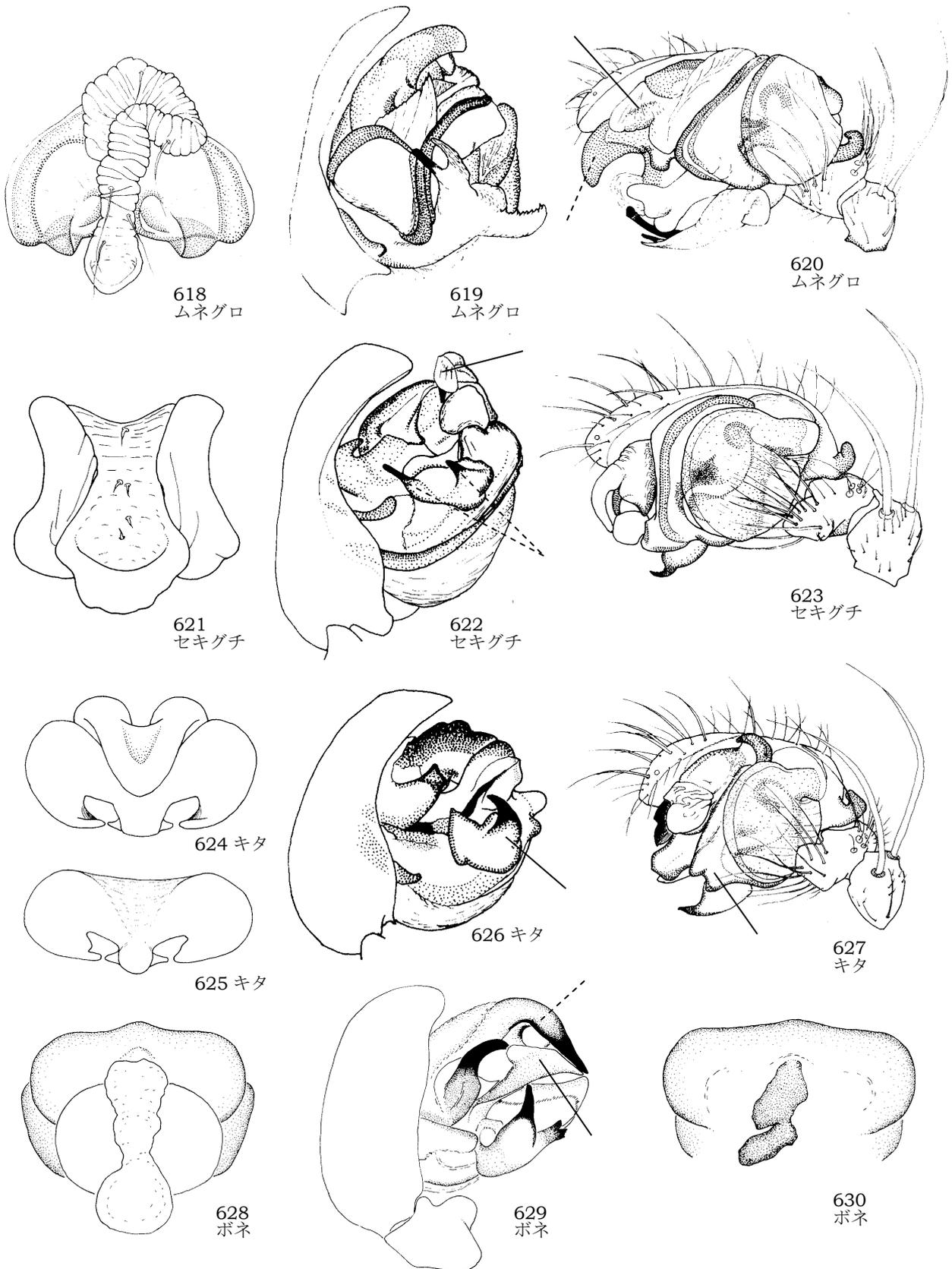


図 618-630. 618-620, ムネグロコガネグモダマシ *Larinia onoi*; 621-623, セキグチコガネグモダマシ *Larinia sekiguchii* 外雌器; 624-627, キタコガネグモダマシ *Larinia jescovi*; 628-630, ボネコガネグモダマシ *Larinia bonneti*. 618, 621, 624, 628, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 625, 630, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off; 619, 622, 626, 629, 雄左触肢側面 male left palp, lateral; 620, 623, 627, 同腹面 same, ventral. (618-627, Tanikawa 1989 より; 628-630, Tanikawa 2000b より)

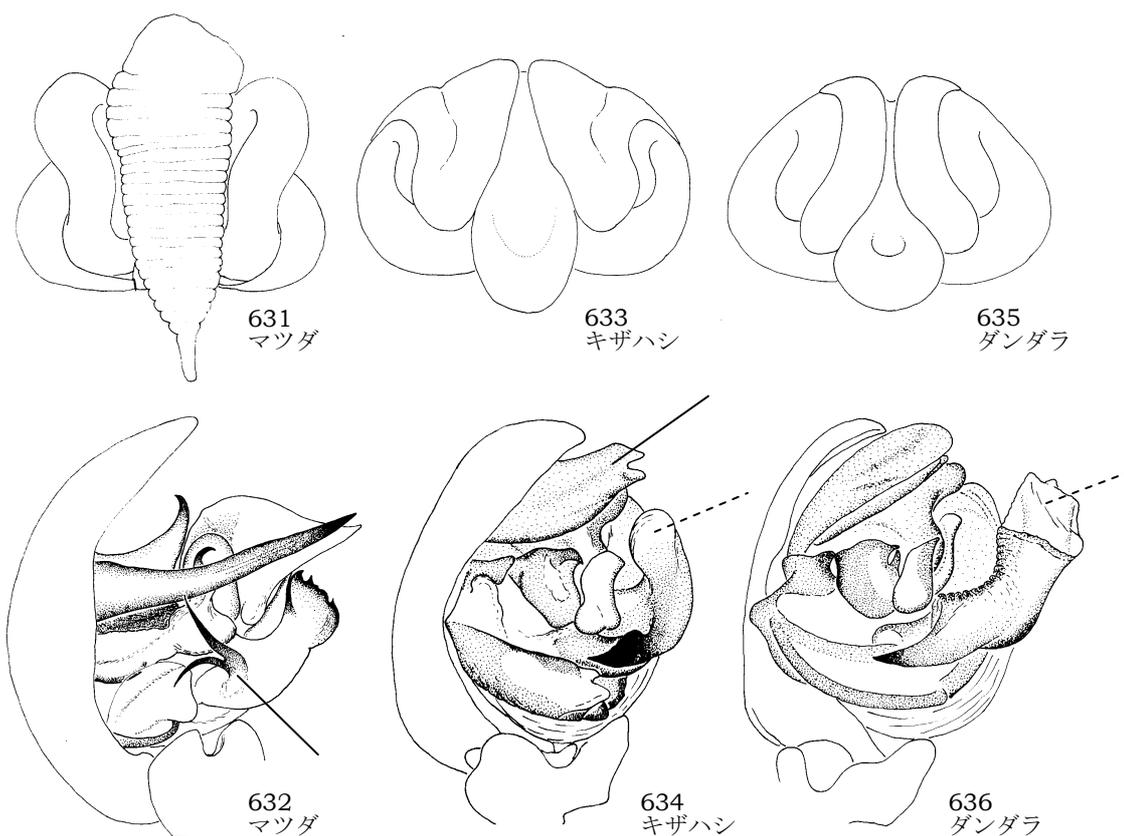


図 631-636. 631-632, マツダタカネオニグモ *Aculepeira matsudae*; 633-634, キザハシオニグモ *Gibbaranea abscissa*; 635-636, ダンダラオニグモ *Gibbaranea bituberculata*. 631, 633, 635, 外雌器 epigynum; 632, 634, 636, 雄左触肢 male left palp. (631-632, Tanikawa 1994c より)

コブオニグモ属
Gibbaranea

外雌器は強くキチン化しており，特徴的なしわ模様がある．垂体は短い．中部突片の根元に鋭くとがった突起がある．

本属の系統的位置についてはいまだ研究途上である．

世界では，旧北区から約 10 種が記載されている．日本には次の 2 種が生息する．

キザハシオニグモ

Gibbaranea abscissa (Karsch 1879)

(図 210-211, 633-634)

体長：雌 6.0～10.0mm, 雄 5.0～8.0mm. 背甲は暗褐色．腹部上面は褐色で，弱い葉状斑があり，前方には横向きの明色の線がある．横向きの線の前方は後方よりもやや暗色となる．本種は草原に生息し，植物の根元近くに水平円網を張っている．本種はダンダラオニグモ，マルコブオニグモ，ツノオニグモに似る．雌では，マルコブオニグモやツノオニ

グモからは外雌器の垂体が強くキチン化していることで容易に区別できる．ダンダラオニグモとは外雌器のしわの状態が微妙に違う(図 633, 635)．また，本種では腹部上面はつねに褐色系の色彩をしているが，ダンダラオニグモでは緑色を帯びる場合がある．雄では端部突片の先端が二股に分かれる(図 634 棒線部) ことや中部突片の先が丸みを帯びていること(図 634 破線部) で他種から容易に区別できる．分布：日本(北海道，本州，四国，九州)，韓国，中国．

ダンダラオニグモ

Gibbaranea bituberculata (Walckenaer 1802)

(図 212, 635-636)

体長：雌 6.0～7.0mm, 雄：5mm 前後．本種はキザハシオニグモやマルコブオニグモ，ツノオニグモに似る．本種の雄触肢の特徴は，中部突片の先端がくぼんでいることである(図 636 破線部)．その他の区別点はキザハシオニグモ，マルコブオニグモ，ツノオニグモの項目を参照．分布：日本(北海道，本州，九州)，旧北区に広く分布．

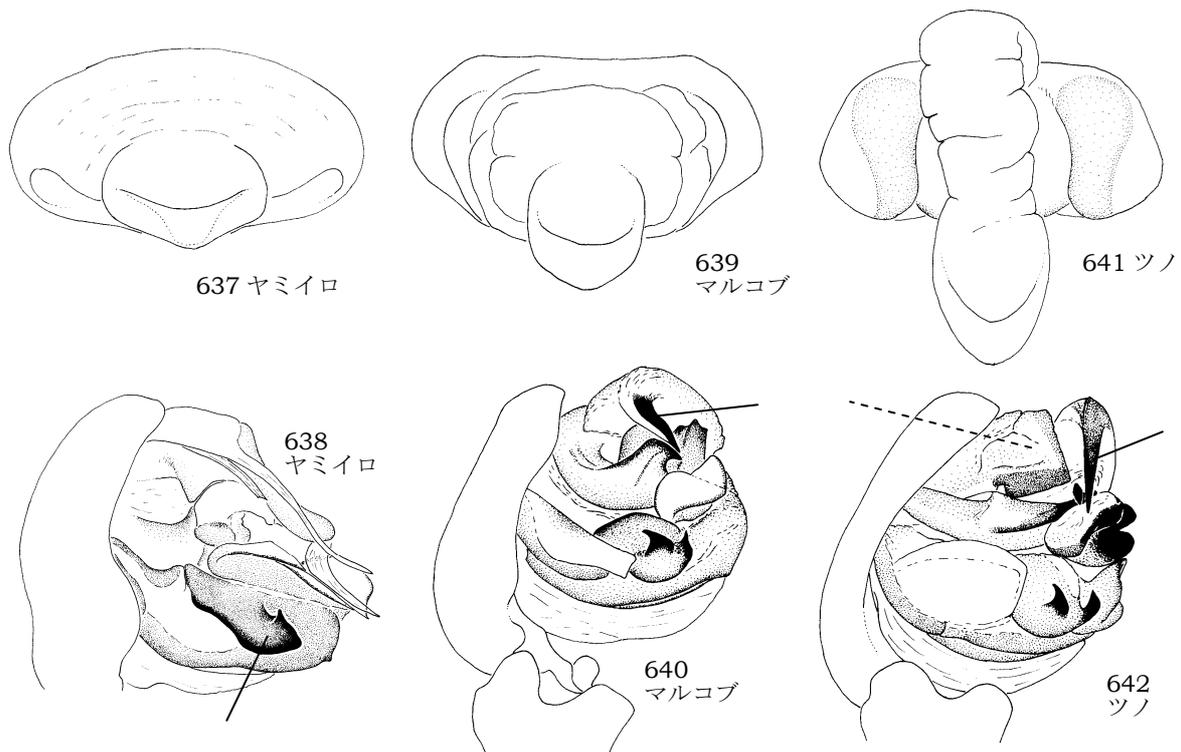


図 637-642. 637-638, ヤミイロオニグモ *Alenatea fuscocolorata*; 639-640, マルコブオニグモ *Araneus rotundicornis*; 641-642, ツノオニグモ *Araneus stella*. 637, 639, 641, 外雌器 epigynum; 638, 640, 642, 雄左触肢 male left palp.

ヤミイロオニグモ属 (新称)
Alenatea

外雌器の受精口は左右に離れてる, 交尾管が長く螺旋状である, 雄触肢の端部突片が大きい, 移精針が長い, などの特徴によって *Agalenatea* 属から分離された. 科内での他の属との系統関係などを再検討し, 属としての独自性について再度研究すべきグループである.

東アジアから 3 種が知られており, 日本には次の 1 種が生息する.

ヤミイロオニグモ
Alenatea fuscocolorata (Bösenberg & Strand
1906)

(図 213, 637-638)

体長: 雌 4.5~5.5mm, 雄 4.0mm 前後. 背甲は明褐色. 腹部上面は灰褐色や赤褐色など変異が見られ, 後方には葉状斑があり前方に明色の斑紋がある場合もある. 腹部はやや幅広である. ヤミイロオニグモ, オオクマヤミイロオニグモ, ヘリジロオニグモは大変よく似る. オオクマヤミイロオニグモおよびヘリジロオニグモとの区別点はそれぞれの項目を参照. 分布: 日本 (北海道, 本州), 韓国, 中国.

オニグモ属
Araneus

垂直円網を張る. 両眼列の中眼間は中側眼間よりも狭い.

本属の姉妹群は *Aculepeira* 属であると推定されている. しかし, 現在本属に置かれている種のすべてが単系統群を形成するか否かについてはなお検討が必要である.

大変多くの種を含む属で, 世界中からおおよそ 640 種が知られる. 研究の進展とともに徐々に整理され, 細分されてきたが, まだまだ膨大で多様な種を含んでおり, 今後も整理していかなければならない状態にある. 日本には次の 32 種が生息する. これらの中にはかなり独特の特徴を備え, 他の属に移される可能性があるものも多いが, 研究が不十分なために本属に残してある.

マルコブオニグモ
Araneus rotundicornis Yaginuma 1972
(図 214-216, 639-640)

体長: 雌 8.0~9.0mm, 雄 7.0~8.0mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面は暗褐色で前方はやや明色となり, 後半には弱い葉状斑がある. 肩突起は大きめでこぶ状をしている. 雌では, キザハシオニグモやダンダ

ラオニグモからは外雌器のキチン化が弱い点で、ツノオニグモからは肩突起が丸みを帯びている点で区別できる。雄では、キザハシオニグモからは触肢端部突起の先端がとがっている点(図 640 棒線部)で、ツノオニグモからは垂端部突片(図 642 破線部)が小さい点で区別できる。分布：日本(北海道, 本州, 九州)

ツノオニグモ

Araneus stella (Karsch 1879)

(図 217, 641-642)

体長：雌 10.0~13.0mm, 雄 9.0~10.0mm. 背甲は褐色。腹部背面は褐色でややとがった小さめの肩突起があり, 左右の肩突起を結ぶ線から前方はやや暗色となる。また, 個体によって腹部上面後方に暗褐色の斑紋がある場合がある。本種の雌は, キザハシオニグモやダングラオニグモからは外雌器の垂体があまりキチン化しない点で区別でき, マルコブオニグモからは肩突起が小さくてとがっている点で区別できる。雄では, キザハシオニグモからは触肢の端部突片がとがっていること(図 642 棒線部)で区別でき, マルコブオニグモからは垂端部突片が大きくて三角形であること(図 642 破線部)で区別できる。分布：日本(北海道, 本州), 韓国, 中国。

コケオニグモ

Araneus seminiger (L. Koch 1878)

(図 218-220, 643-644)

体長：雌 15.5~22.0mm, 雄 11.5mm 前後。背甲は褐色, 頸溝に沿って暗褐色で, 生時には個体によって緑色を帯びる場合がある。腹部上面は液浸標本で黄褐色, 生時は緑色で, 黒色の葉状斑がある。腹部背面前方には肩突起があり, 肩突起の部分に黒色の斑紋がある。本種は体色と斑紋によって近縁の他種からも容易に見分けられる。ただし, オニグモにも体色が緑色を帯びる個体がいるので, その点についてだけ注意が必要である。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島)。

ヤエンオニグモ

Araneus macacus Uyemura 1961

(図 221, 645-647, 654-655)

体長：雌, 17mm 前後, 雄, 10mm 前後。背甲は暗褐色。腹部上面は褐色で葉状斑があり, 葉状斑の両側は明色となる。腹部上面前方には肩突起がある。典型的な色彩の個体では, 葉状斑の内側の部分が褐色のヒシ形の斑紋としてめだつ。ヤエンオニグモ, ヤマオニグモ, オニグモはたがいに大変よく似るが, 慣れれば色彩斑紋によって識別することも可能であ

る。この3種は外雌器や雄触肢の形態も大変似るが, 次のような違いが見られる。外雌器に見られる違いは交尾口の向きである。交尾口の向きは垂体をピンセットなどで持ち上げるか(図 646, 649, 652)外雌器を側面から見れば確認できる(図 647, 650, 653)。雄触肢においては, 垂端部突片(図 654, 656, 658 棒線部)の先の形態に差異が見られる(図 655, 657, 659)。垂端部突片の先端は, ヤエンオニグモでは切断状である。オニグモではとがっているキチン化した部分があり, その横に端部突片の方向に突出したキチン化の弱い三角形の部分がある。ヤマオニグモではオニグモと同じようにとがったキチン化部分と, キチン化の弱い部分からなるが, キチン化の弱い部分は丸みを帯びている。分布：日本(北海道, 本州, 九州)

ヤマオニグモ

Araneus uyemurai Yaginuma 1960

(図 222, 648-650, 656-657)

体長：雌 17.0~20.0mm, 雄 11.0~13.0mm. 背甲は暗褐色。腹部上面も暗褐色で葉状斑があり, 葉状斑の外側は白色を帯び, 前方には肩突起がある。腹部はオニグモやヤエンオニグモに比べてやや細長い形態をしている。ヤエンオニグモやオニグモと大変よく似るが, 慣れれば色彩斑紋で区別することもできる。本種では腹部上面の葉状斑の外側の白みが強いこと, 歩脚の輪紋の白みが強いこと, 腹部がやや細長い形態をしていることが特徴である。外雌器や雄触肢における差異についてはヤエンオニグモの項目を参照。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州)。

オニグモ

Araneus ventricosus (L. Koch 1878)

(図 223-226, 651-653, 658-659)

体長：雌 20.0~30.0mm, 雄 15.0~20.0mm. 背甲は明褐色からほぼ黒色までいろいろ。腹部上面も明褐色からほぼ黒色まで, そして緑色や白色を帯びる個体も見られるなど色彩変異が多い。腹部後半には葉状斑があり前方には肩突起がある。ヤエンオニグモ, ヤマオニグモと大変よく似る。識別点はヤエンオニグモ, ヤマオニグモの項目を参照。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国。

コガネオニグモ

Araneus alsine (Walckenaer, 1802)

(図 227, 660-661)

体長：雄 6.5mm 前後。日本から雌は未発見であ

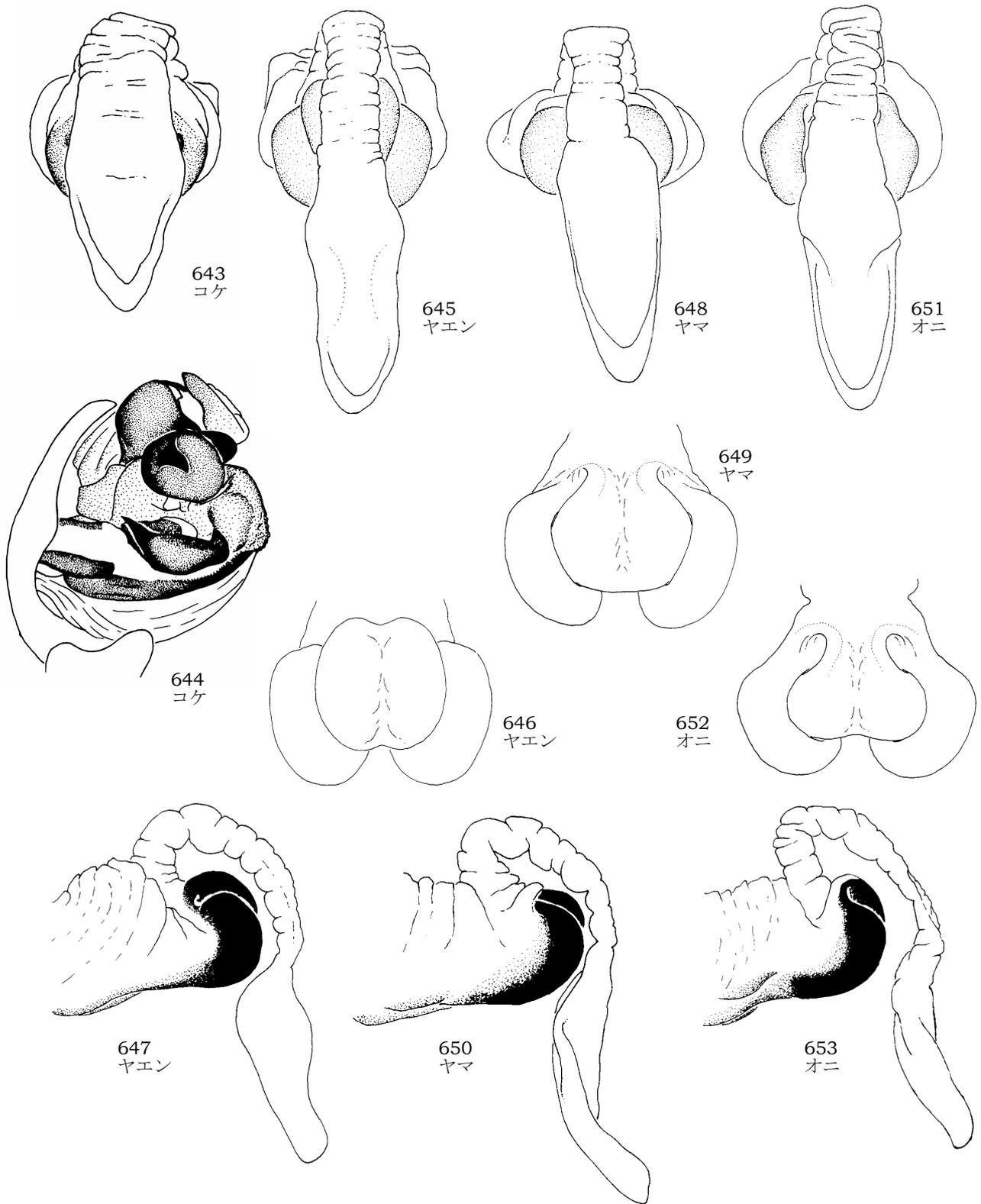


図 643-653. 643-644, コケオニグモ *Araneus seminiger*; 645-647, ヤエンオニグモ *Araneus macacus*; 648-650, ヤマオニグモ *Araneus uyemurai*; 651-653, オニグモ *Araneus ventricosus*. 643, 645, 648, 651, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 644, 雄左触肢 male left palp; 646, 649, 652, 外雌器 (垂体を取り除いたもの) eiginum, scape removed; 647, 650, 653, 外雌器側面 epigynum, lateral. (643-644, Tanikawa 2001b より)

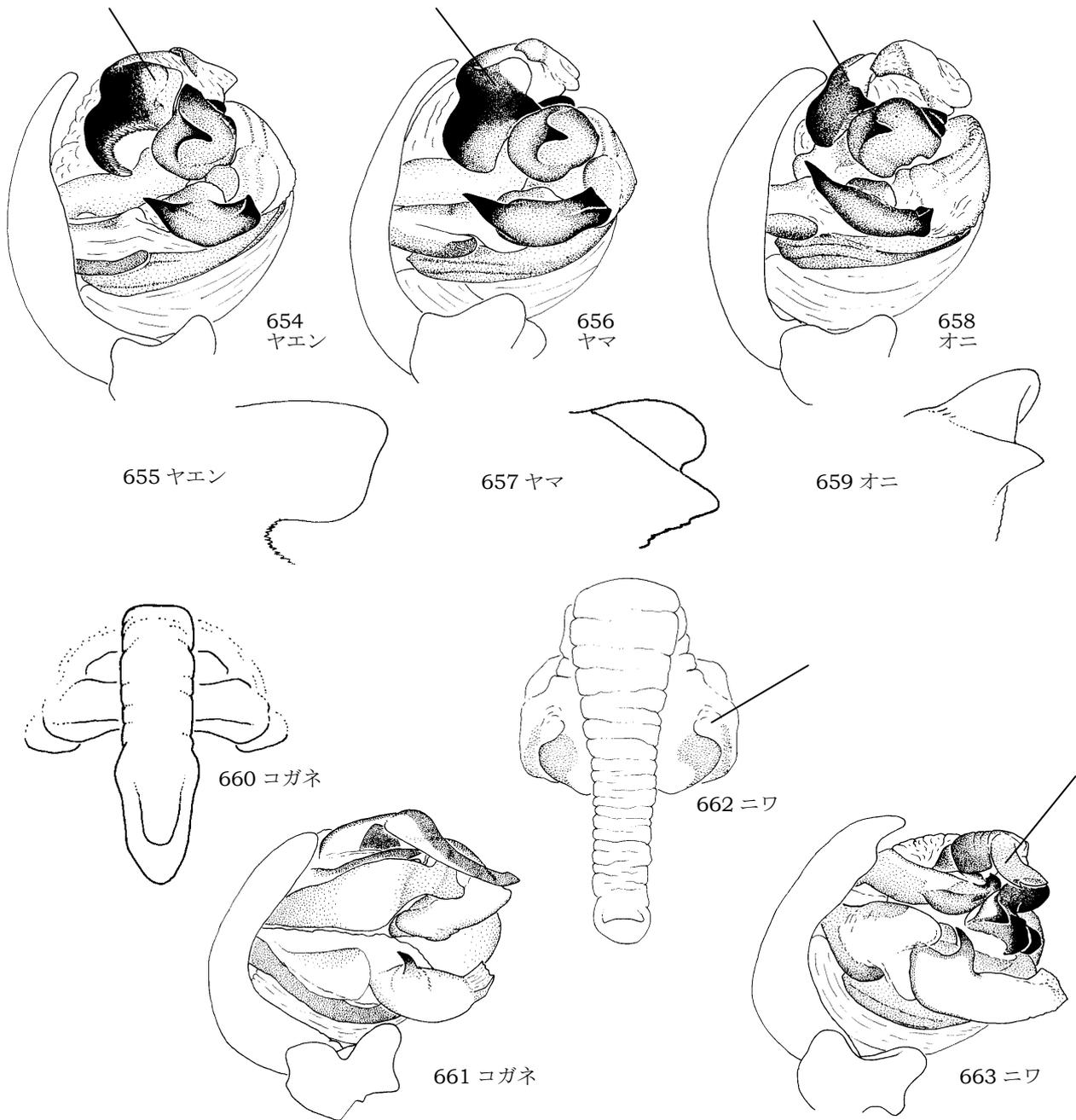


図 654-663. 654-655, ヤエンオニグモ *Araneus macacus*; 656-657, ヤマオニグモ *Araneus uyemurai*; 658-659, オニグモ *Araneus ventricosus*; 660-661, コガネオニグモ *Araneus alsine*; 662, 663, ニワオニグモ *Araneus diadematus*. 654, 656, 658, 661, 663, 雄左触肢 male left palp; 655, 657, 659, 雄左触肢亜端部突片 subterminal apophysis; 660, 662, 外雌器 epigynum.

る。雄：背甲は橙色で周辺はやや暗色となる。腹部上面は赤褐色で暗色の弱い葉状斑がある。分布：日本（北海道），旧北区に広く分布。

ニワオニグモ

Araneus diadematus Clerck 1758

(図 228-229, 662-663)

体長：雌 12.0~20.0mm, 雄 5.0~13.0mm. 背甲は明褐色で正中部および側縁は暗色となる。腹部

上面は橙黄色で白色の斑紋があり，後半には葉状斑，前方には肩突起がある。ニワオニグモはイシサワオニグモと似るが，次の点で見分けられる。雌の外雌器の交尾口はニワオニグモでは外側を向いている（図 662 棒線部）がイシサワオニグモでは内側を向いている（図 682 棒線部）。雄触肢の端部突片はニワオニグモでは平たくてナイフ状である（図 663 棒線部）が，イシサワオニグモでは細い針状をしている（図 683 棒線部）。分布：日本（北海道，本州），

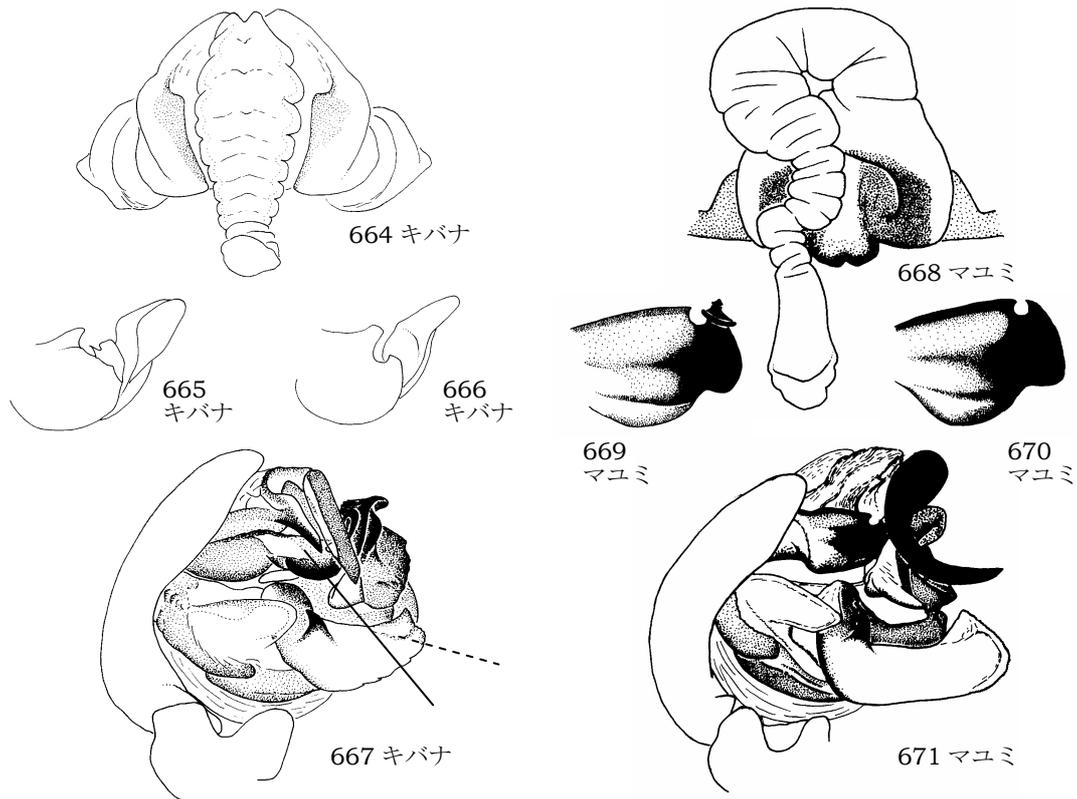


図 664–671. 664–667, キバナオニグモ *Araneus marmoreus*; 668–671, マユミオニグモ *Araneus mayumiae*. 664, 668, 外雌器 epigynum; 665, 669, 雄左触肢移精針 (キャップのついているもの) embolus, with a cap; 666, 670, 同 (キャップの取れたもの) same, without cap; 667, 671, 雄左触肢 male left palp. (668–671, Tanikawa 2001b より)

全北区に広く分布.

キバナオニグモ

Araneus marmoreus Clerck 1758

(図 230–232, 664–667)

体長：雌 10.0~22.0mm, 雄 6.0~12.0mm. 背甲は明褐色で暗色の正中線がある. 腹部上面は黄色で褐色の細い線によって葉状斑などの斑紋がかたどられている. 本種は色彩斑紋によって他種から容易に区別できるが, アカオニグモでも成熟以前の雌や雄は黄色い体色をしているので注意が必要である. キバナオニグモの腹部上面前方中央には縦向きの比較的大きな明色斑があるが, アカオニグモでは前方中央の明色斑は小さい. キバナオニグモの外雌器の垂体は中央付近で最も幅が広く根元はやや細くなる (図 664) のに対して, アカオニグモの外雌器の垂体は根元の部分で最も幅が広い (図 675). キバナオニグモの雄触肢の移精針はあまり大きくなく端部突片と亜端部突片によってほぼおおい隠されているが (図 667 棒線部), アカオニグモでは移精針が大きくてほとんど裸出している (図 676 棒線部). また, キバナオニグモの雄触肢の中部突片の先端はすこし先細りで終わるが (図 667 破線部), アカオニグモ

では末広がり二股に分かれて終わる (図 676 破線部). 分布：日本 (北海道, 本州), 全北区に広く分布.

マユミオニグモ

Araneus mayumiae Tanikawa 2001

(図 233–234, 668–671)

体長：雌 15.0~17.0mm, 雄 13.0~15.0mm. 背甲は褐色. 腹部上面は褐色で黒色の葉状斑があり, 葉状斑の外側には黒色と黄色の斑紋がある. また, 腹部上面前方には白色の正中条がある. 日本産オニグモ属の他種とは色彩斑紋によって容易に見分けられる. 分布：日本 (北海道).

ノルドマンオニグモ

Araneus nordmanni (Thorell 1870)

(図 235, 672–674)

体長：雌 10.0~11.0mm, 雄 7.0~10.0mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面も暗褐色で, 葉状斑と肩突起がある. 色彩斑紋によって他種から区別できる. 分布：日本 (北海道, 本州), 全北区に広く分布.

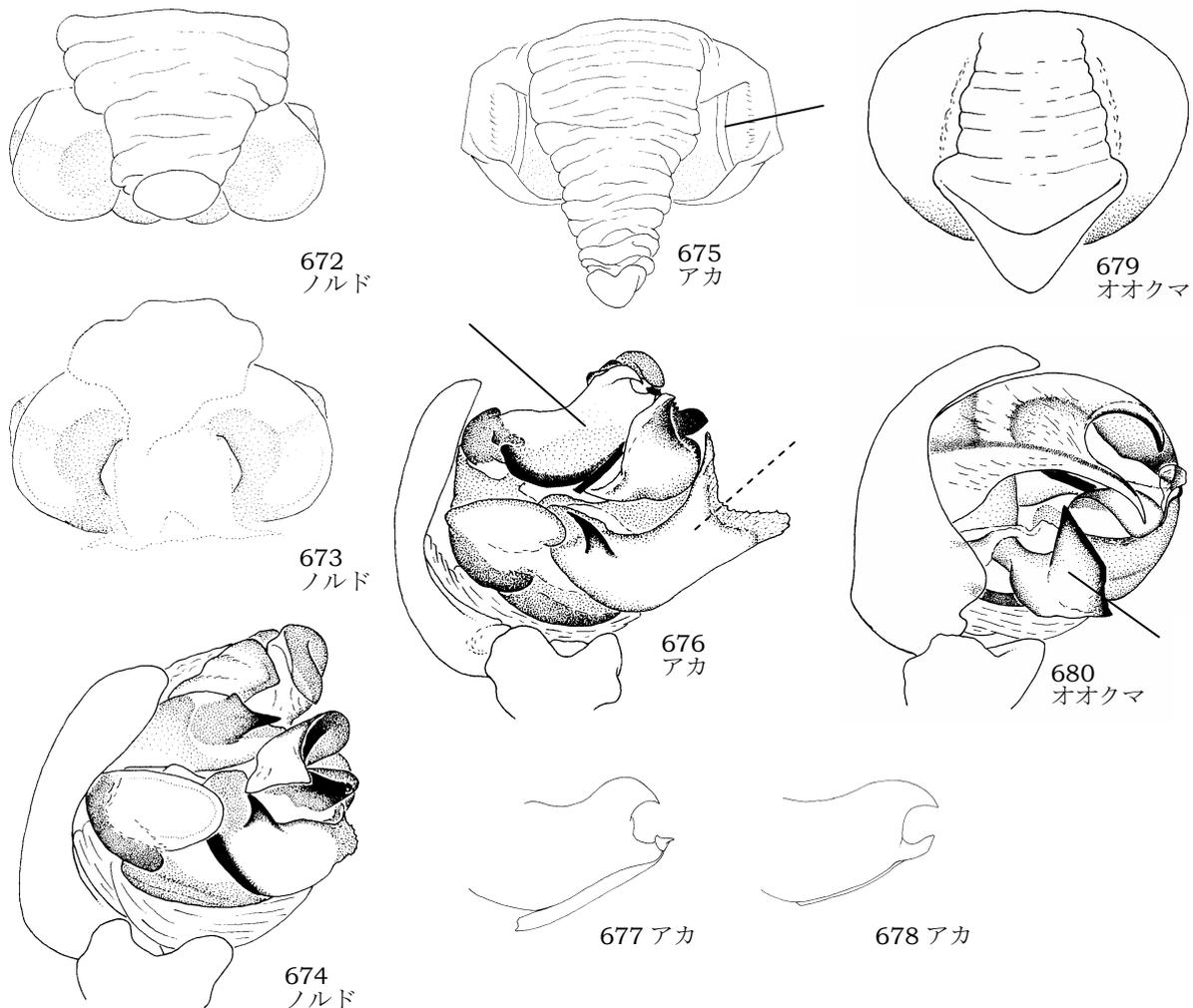


図 672-680. 672-674, ノルドマンオニグモ *Araneus nordmanni*; 675-678, アカオニグモ *Araneus pinguis*; 679-680, オオクマヤミイロオニグモ *Araneus acusisetus*. 672, 675, 679, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape; 673, 同 (垂体のとれたもの) epigynum, scape torn off; 674, 676, 680, 雄左触肢 male left palp; 677, 移精針 (キャップのついているもの) embolus, with a cap; 678, 同 (キャップのとれたもの) same, without cap. (679-680, Tanikawa 2001b より)

アカオニグモ

Araneus pinguis (Karsch 1879)

(図 236-237, 675-678)

体長：雌 15.0~22.0mm, 雄 9.0~12.0mm. 雌雄とも背甲は明褐色. 雌の腹部上面の地色は, 成熟していないものでは黄色, 成熟しているものでは赤色で, 白色の斑紋が多数ある. 雄の腹部上面の地色は一生黄色のままである. 腹部に肩突起はない. 成熟した雌については腹部の地色が赤であることによって容易に同定できるが, まだ若くて体色の黄色のものはキバナオニグモに似るので注意が必要である. キバナオニグモとの区別点はキバナオニグモの項目を参照. 本種の外雌器の交尾口の部分に小枝のようなものが付着していることがある (図 675 棒線部) が, これは交尾後に残された雄の移精針のキャップである. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州),

韓国, 中国.

オオクマヤミイロオニグモ

Araneus acusisetus Zhu & Song 1994

(図 238-239, 679-680)

体長：雌 4.5~6.5mm, 雄 3.0~4.0mm. オオクマヤミイロオニグモはヤミイロオニグモと似るが次の点で見分けられる. オオクマヤミイロオニグモの外雌器の垂体にはしわが寄っていて幅よりも長く, 柔軟である (図 679) が, ヤミイロオニグモの外雌器の垂体は短くて柔軟性がない (図 637). オオクマヤミイロオニグモの雄触肢の中部突片の先端には大きな突起がある (図 680 棒線部) が, ヤミイロオニグモでは突起が小さい (図 638 棒線部). 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 西表島), 中国.

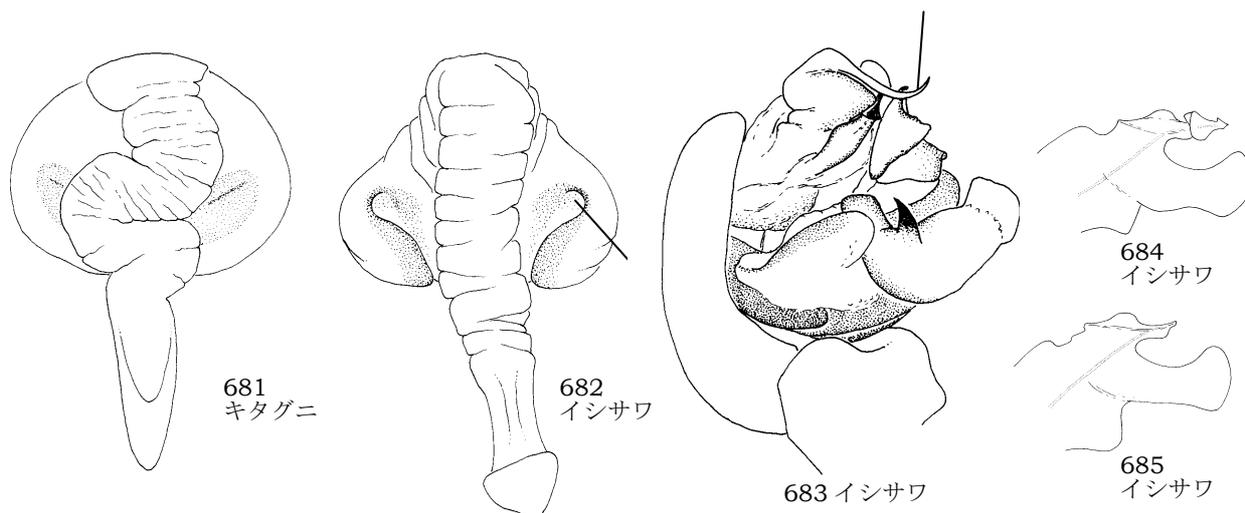


図 681–685. 681, キタグニオニグモ *Araneus boreus*; 682–685, イシサワオニグモ *Araneus ishisawai*. 681–682, 外雌器 epigynum; 683, 雄左触肢 male left palp; 684, 移精針 (キャップのあるもの) embolus, with a cap; 685, 同 (キャップの取れたもの) same, without cap.

キタグニオニグモ

Araneus boreus Uyemura & Yaginuma 1971

(図 240, 681)

体長：雌 9.0~12.0mm, 雄 6.0~8.0mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面は緑褐色で黒色のコウモリ形の模様があり, 模様の周囲は黄色味を帯びる. 本種は腹部上面の特徴的な色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる. 分布：日本 (北海道, 本州).

イシサワオニグモ

Araneus ishisawai Kishida 1928

(図 241–243, 682–685)

体長：雌 18.0~20.0mm, 雄 7.0~12.0mm. 背甲は明褐色. 腹部上面は黄色から橙色で, V 字状の暗色の波線がある. 本種は一見ニワオニグモに似ている. 両者の区別点はニワオニグモの項目を参照. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 韓国.

マルヅメオニグモ

Araneus semilunaris (Karsch 1879)

(図 244, 686–688)

体長：雌 5.0~7.0mm, 雄 4.0~5.0mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面は黒褐色で両肩から前方はやや明色. 雌の腹部は長さより幅が広い. 雄では長さと同幅. 本種は慣れれば色彩斑紋によって他種から容易に見分けられるが, 慣れないうちはトリノフンダマシ属のクモ類と見誤る危険がある. 本種の外雌器垂体は大変細長くのびているが (図 686), トリノフンダマシ属でこのような細長い垂体をもつものはない. また, 本種の雄触肢の指示器は耳状の

ユニークな形状をしている (図 688 棒線部) が, このような形の指示器は他のクモでは見られない. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 韓国.

ハラビロミドリオニグモ

Araneus viridiventris Yaginuma 1969

(図 245, 689–691)

体長：雌 5.0~7.0mm, 雄 3.0~4.0mm. 背甲は褐色. 雌の腹部上面は緑色で前縁は暗褐色, 雄ではほぼ一様な緑褐色である. 雌の腹部はやや幅広型で, 長さと同幅. 雄ではやや長さのほうが勝る. 本種の雌は腹部の色彩と形態で他種から容易に見分けられる. 雄触肢では移精針が糸状で指示器に沿って長く伸び, S 字状に曲がりくねっているのが特徴である (図 690 棒線部). 分布：日本 (本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島), 中国.

ニシキオニグモ

Araneus variegatus Yaginuma 1960

(図 246–247, 692–694)

体長：雌 12.0~18.0mm, 雄 9.0~10.0mm. 背甲は黒褐色. 腹部上面は黒褐色で黄色の斑紋があり, 後半には葉状斑, 前方には肩突起がある. 生体あるいは新鮮な標本では色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる. 退色した標本ではイエオニグモと似るので注意が必要である. 雌では, ニシキオニグモの外雌器垂体にはしわがあつて可動である (図 692) のに対してイエオニグモの垂体はへら状で硬く柔軟性がない点 (図 581) で見分けられる. 雄では, ニシキオニグモの触肢の杯葉は側面に位置し (図 693), 端部突片 (図 693 棒線部) とほぼ同大の亜端

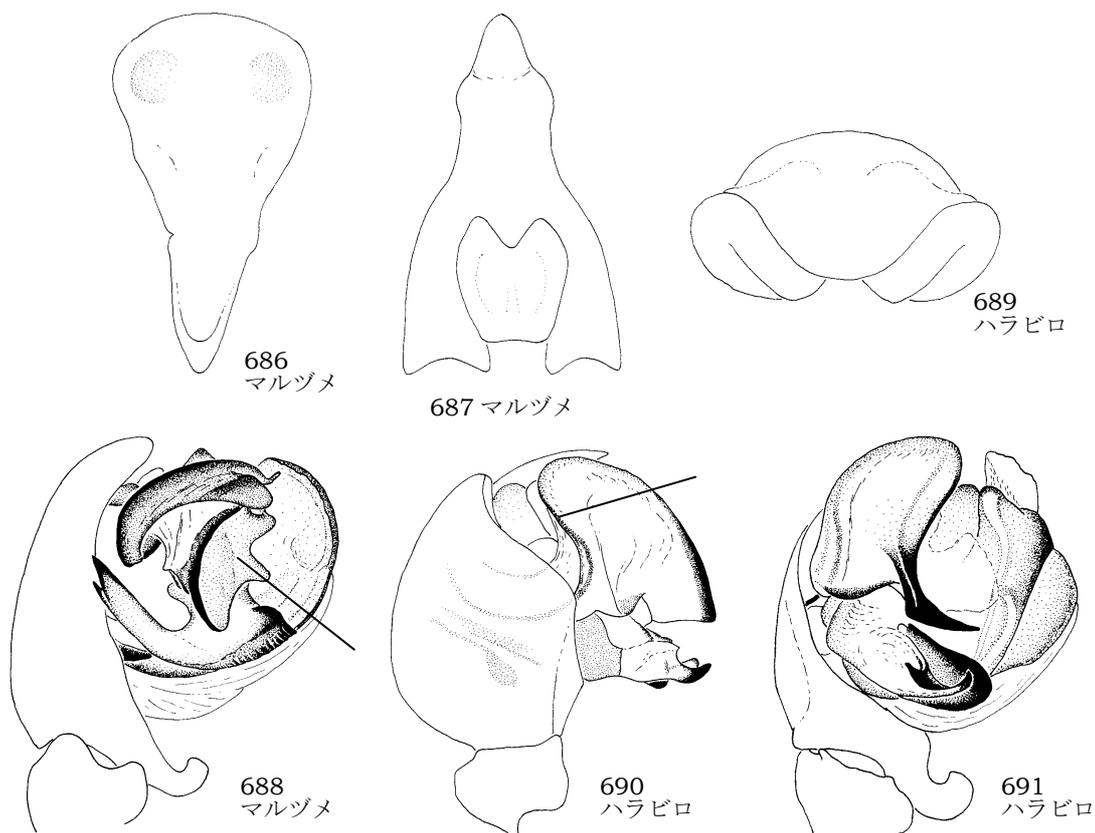


図 686-691. 686-688, マルヅメオニグモ *Araneus semilunaris*; 689-691, ハラビロミドリオニグモ *Araneus viridiventris*. 686-687, 689, 外雌器 epigynum; 688, 690-691, 雄左触肢 male left palp.

部突片 (図 693 破線部) があるが, イエオニグモの触肢の杯葉は腹面をおおっており (図 582), 亜端部突片はない点で見分けられる. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 韓国, 中国.

ったへら状である (図 696 棒線部) が, チュラオニグモでは長靴形をしている (図 698 棒線部). 分布: 日本 (本州, 四国, 九州), 台湾, 韓国, 中国.

アオオニグモ

Araneus pentagrammicus (Karsch 1879)

(図 248-250, 695-696)

体長: 雌 9.0~11.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は緑褐色. 腹部背面は緑白色で暗色の横向きの斑紋がある. アオオニグモとチュラオニグモとは似るが, 次の点で見分けられる. 雌の腹部上面前方の暗色の横向きの斑紋がアオオニグモでは長めで, 両側が大きく中央部はやや細くなっているか, あるいは中央部で途切れて左右に分かれているのに対して, チュラオニグモでは短めで, 両側は細く中央部でやや太くなっている場合が多い. また, 腹部上面後半の横向きの黒線はアオオニグモではよくめだつがチュラオニグモではほとんど認識できない場合が多い. アオオニグモの外雌器の基部はひとかたまりであるが, チュラオニグモでは二段構造となっており, 下段はひし形で左右に張り出している (図 697 棒線部). 雄触肢の亜端部突片は, アオオニグモでは先のとが

チュラオニグモ

Araneus amabilis Tanikawa 2001

(図 251-255, 697-698)

体長: 雌 6.5~9.0mm, 雄 4.5~5.5mm. 背甲は明褐色. 腹部上面は緑白色で前方に暗色の横向きの斑紋がある場合が多い. チュラオニグモとアオオニグモの区別点はアオオニグモの項目を参照. チュラオニグモはビジョオニグモとも似るが, 次の点で見分けられる. チュラオニグモでは腹部後端に黒点はないが, ビジョオニグモでは腹部後端に横一列になった 4 個の黒点がある. チュラオニグモの外雌器の垂体はしわが寄っていて柔軟であるが (図 697), ビジョオニグモでは垂体は大変短く, 外雌器基部と一体化していてかなり強くキチン化している (図 699). チュラオニグモの雄触肢の端部突片は細長い刺状であるが (図 698 破線部), ビジョオニグモでは端部突片がない (図 701). 分布: 日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島).

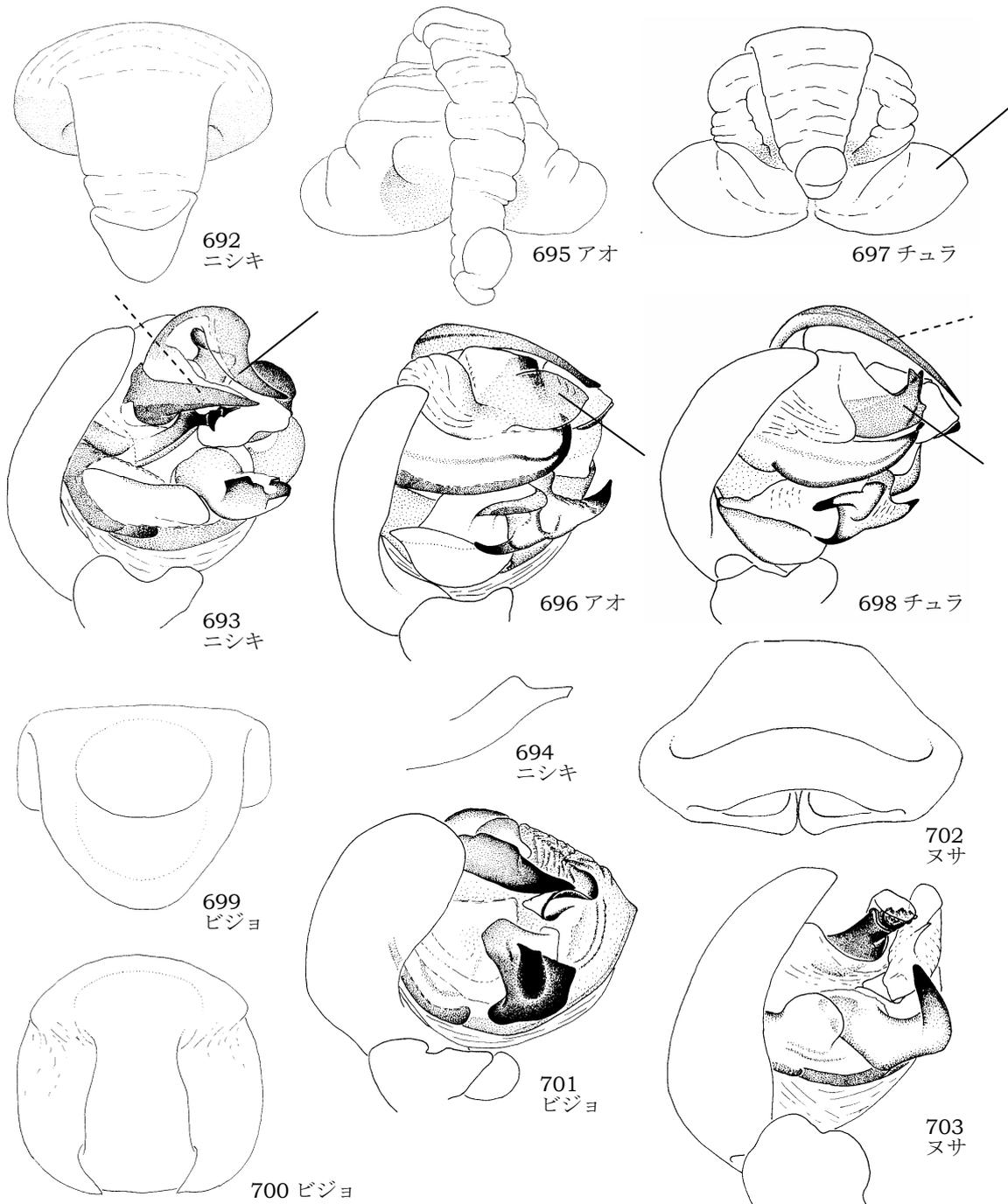


図 692-703. 692-694, ニシキオニグモ *Araneus variegatus*; 295-296, アオオニグモ *Araneus pentagrammicus*; 697-698, チュラオニグモ *Araneus amabilis*; 699-701, ビジョオニグモ *Araneus mitificus*; 702-703, ヌサオニグモ *Araneus ejusmodi*. 692, 695, 697, 699, 702, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 693, 696, 698, 701, 703, 雄左触肢 male left palp; 694, 移精針 (キャップのとれたもの) embolus, without cap; 700, 外雌器後面 epigynum, posterior. (697-698, Tanikawa 2001b より)

ビジョオニグモ

Araneus mitificus (Simon 1886)

(図 256, 699-701)

体長：雌 8.0~10.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は明褐色. 腹部上面は緑白色で前縁は黒色, 前方には横向きの暗色の斑紋があり, 中央付近には 1 対の

黒点, 後端には横一列に 4 個の黒点がある. ビジョオニグモとチュラオニグモとの区別点はチュラオニグモの項目を参照. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), インド, マレーシア, フィリピン, 台湾, 韓国, 中国, ニューギニア.

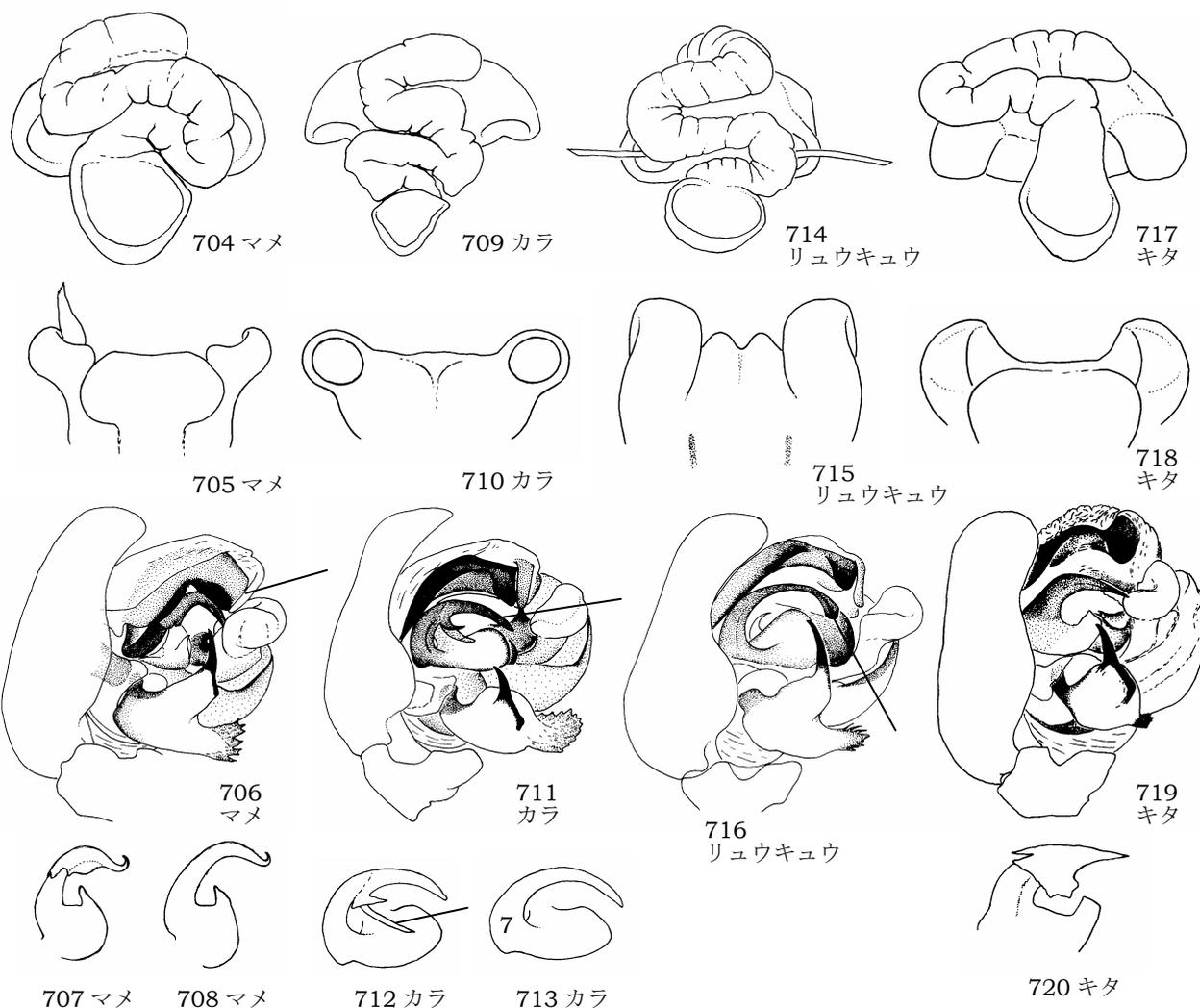


図 704-720. 704-708, マメオニグモ *Araneus nojimai*; 709-713, カラオニグモ *Araneus tsurusakii*; 714-716, リュウキュウオニグモ *Araneus ryukyuanus*; 717-720, キタマメオニグモ *Araneus borealis*. 704, 709, 714, 717, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 705, 710, 715, 718, 同後面 same, posterior; 706, 711, 716, 719, 雄左触肢 male left palp; 707, 712, 720, 移精針 (キャップのついているもの) embolus, with a cap; 708, 713, 同 (キャップのとれたもの) same, without cap. (Tanikawa 2001b より)

ヌサオニグモ

Araneus ejusmodi (Bösenberg & Strand 1906)

(図 257-258, 702-703)

体長: 雌 6.0~8.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は黒褐色. 腹部上面は黒褐色で白色あるいは黄色の斑紋がある. 本種は色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる. 外雌器や雄触肢の形態についても独特で似る種はない. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 韓国, 中国.

マメオニグモ

Araneus nojimai Tanikawa 2001

(図 259, 704-708)

体長: 雌 4.0~6.5mm, 雄 3.0~4.0mm. 背甲は明褐色. 腹部上面は褐色で白色の斑紋と暗褐色の葉

状斑がある. 未交尾の雄の移精針にはキャップがあり (図 707), 交尾後には外雌器の交尾口に残される (図 705, 708). 移精針のキャップには細い突起はない. 本種はキタマメオニグモに似るが, 外雌器の交尾口が腹面を向いている (図 705) ことや, 雄触肢の端部突片に指状の突起が付随している (図 706 棒線部) ことによって見分けられる. キタマメオニグモの外雌器の交尾口は内側を向いており (図 718), 端部突片に指状の突起はない. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州).

カラオニグモ

Araneus tsurusakii Tanikawa 2001

(図 260-261, 709-713)

体長: 雌 3.5~6.0mm, 雄 3.0~3.5mm. 背甲は

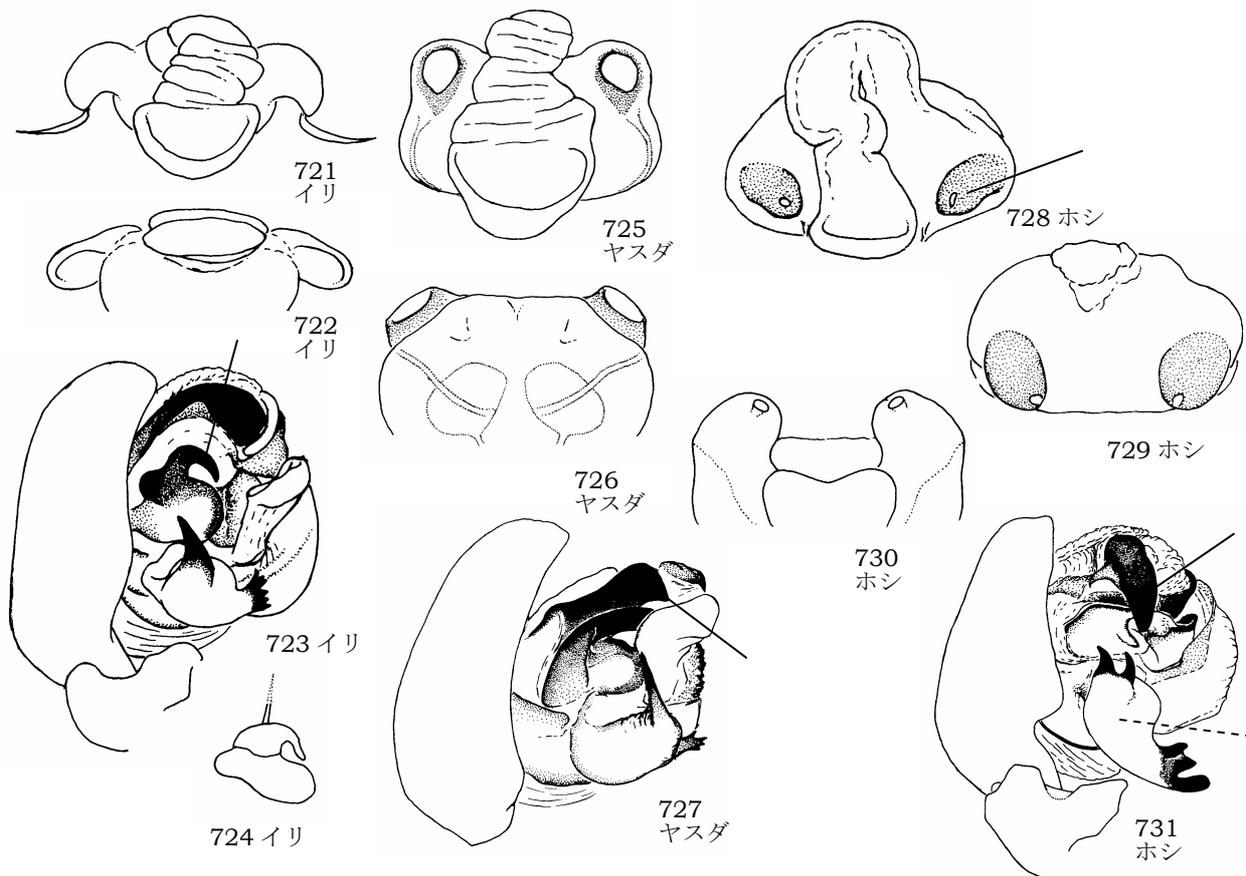


図 721-731. 721-724, イリオモテオニグモ *Araneus iriomotensis*; 725-727, ヤスダヒメオニグモ *Araneus yasudai*; 728-731, ホシマメオニグモ *Araneus hoshii*. 721, 725, 728, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 722, 726, 730, 同後面 same, posterior; 729, 外雌器 (垂体の取れたもの) epigynum, scape torn off; 723, 727, 731, 雄左触肢 male left palp, 724, 移精針 (キャップのあるもの) embolus with a cap. (Tanikawa 2001b より)

明褐色。腹部上面は明褐色で白色の斑紋がある。未交尾の雄の移精針にはキャップがついており (図 712), 交尾後は外雌器の交尾口に残される。移精針のキャップには細い突起が付属している (図 712 棒線部)。本種はリュウキュウオニグモに似るが, 外雌器の交尾口が本種では後方に向かっている (図 710) のに対してリュウキュウオニグモでは腹面に向かっている点 (図 715) や雄触肢の移精針の先端が本種では鋭くとがっている (図 711 棒線部) のに対してリュウキュウオニグモでは先端付近がやや脹らんでいる (図 716 棒線部) ことによって見分けられる。分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州)。

リュウキュウオニグモ

Araneus ryukyuanus Tanikawa 2001

(図 262-263, 714-716)

体長: 雌 4.0~6.5mm, 雄 3.0~3.5mm。背甲は明褐色。腹部上面は雌では明褐色だが, 雄ではやや暗色である。未交尾の雄の移精針にはキャップがついており, 交尾後は外雌器の交尾口に残される (図 714)。移精針のキャップには細い突起が付属してい

るが, 移精針に付着している状態では認識しにくい位置にある。本種はカラオニグモに似る。区別点はカラオニグモの項目を参照。分布: 日本 (奄美諸島, 沖縄諸島)。

キタマメオニグモ

Araneus borealis Tanikawa 2001

(図 264, 717-720)

体長: 雌 4.5~5.0mm, 雄 3.5~4.0mm。背甲は明褐色。腹部上面は明褐色で黒色の葉状斑がある。未交尾の雄の移精針にはキャップがついている (図 720)。キャップは交尾後外雌器の交尾口に残される。移精針のキャップには突起はない。本種はマメオニグモに似る。区別点はマメオニグモの項目を参照。分布: 日本 (北海道, 本州)。

イリオモテオニグモ

Araneus iriomotensis Tanikawa 2001

(図 265-266, 721-724)

体長: 雌 3.5~4.0mm, 雄 3.5mm 前後。背甲は明褐色。腹部上面は明褐色で弱い葉状斑がある。未

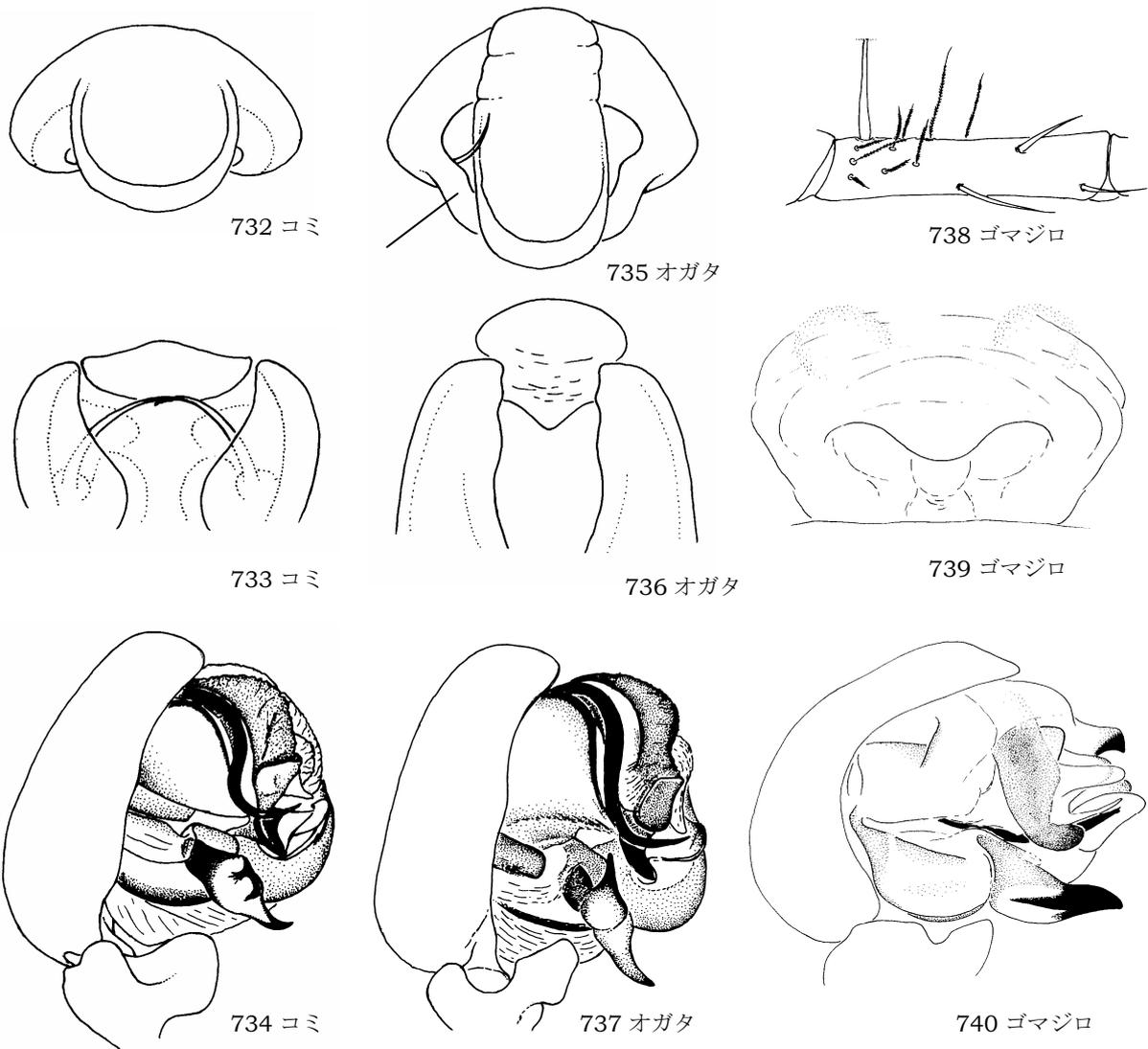


図 732-740. 732-734, コミオニグモ *Araneus komi*; 735-737, オガタオニグモ *Araneus ogatai*; 738-740, ゴマジロオニグモ *Mangora herbeoides*. 732, 735, 739, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 733, 736, 同後面 same, posterior; 734, 737, 740, 雄左触肢 male left palp; 738, 第3脚脛節側面 tibia III, lateral. (732-736, Tanikawa 2001b より; 737, Tanikawa 2004a より)

交尾の雄の移精針にはキャップがあり (図 724), 交尾後, 外雌器の交尾口に残される (図 721). 移精針のキャップには細い突起が付属している. 本種はリュウキュウオニグモに似るが, 外雌器の交尾口が本種では後方を向くのに対し (図 722) リュウキュウオニグモでは腹面を向くこと (図 715), 本種の移精針 (図 723 棒線部) よりもリュウキュウオニグモの移精針 (図 716 棒線部) のほうが長い点で見分けられる. 分布: 日本 (西表島).

ヤスダヒメオニグモ

Araneus yasudai Tanikawa 2001

(図 267-268, 725-727)

体長: 雌 3.5~4.0mm, 雄 3.0mm 前後. 背甲は

明褐色で頭部の両側部は暗褐色となる. 腹部上面は明褐色で弱い葉状斑があり葉状斑の外側は白色となる. 本種は外雌器の交尾口が前方に位置する (図 725) ことや雄触肢の亜端部突片がナイフ型である (図 727 棒線部) ことによって他種から容易に見分けられる. 分布: 日本 (北海道サロベツ原野).

ホシマメオニグモ

Araneus hoshi Tanikawa 2001

(図 269-270, 728-731)

体長: 雌 4.5~7.0mm, 雄 3.0~4.0mm. 背甲は褐色. 腹部上面は灰褐色で葉状斑がある. 本種は次の特徴で近縁他種から容易に区別できる. 外雌器の交尾口は小さく, キチン化した突出の先にある (図

728 棒線部). 雄触肢の垂端部突片はつの型 (図 731 棒線部). 雄触肢の中部突片 (図 731 破線部) は V 字型で, 一方の先は二又, もう一方の先は三又である. 分布: 日本 (北海道, 本州).

コミオニグモ

Araneus komi Tanikawa 2001

(図 271, 732-734)

体長: 雌 4.5~6.5mm, 雄 4.0mm 前後. 背甲は褐色で頭部はやや明色である. 腹部上面は褐色で弱い葉状斑がある. 本種はオガタオニグモに似るが次の特徴で見分けられる. コミオニグモでは外雌器の垂体の長さと同幅であるが (図 732), オガタオニグモでは明らかに幅よりも長さのほうが勝る (図 735). また, オガタオニグモでは外雌器の後部が後方に突出する (図 735 棒線部) がコミオニグモではそのようなことはない. コミオニグモとオガタオニグモとは雌では以上の点で区別できるが, 雄では触肢の形態によっても区別できない. 分布: 日本 (西表島).

オガタオニグモ

Araneus ogatai Tanikawa 2001

(図 272-273, 735-737)

体長: 雌 4.0~6.0mm. 雄 3.5mm 前後. 背甲は褐色で頭部はやや明色. 腹部上面は褐色で弱い葉状斑がある. 本種はコミオニグモと似る. 両者の区別点はコミオニグモの項目を参照. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州).

ゴマジロオニグモ属

Mangora

頭胸部は上から見て洋ナシ形, 腹部は縦にやや長細い楕円形である. 第 3 脚脛節基部に羽毛状の聴毛の列がある (図 738). 雄触肢の脛節の剛毛は 1 本である.

本属の系統的位置に関しては, 現時点では不明確であり, さらに研究の必要がある. 世界ではおよそ 50 種が旧北区, 東洋区, 新北区, 新熱帯区から知られている. 日本には次の 1 種が生息する.

ゴマジロオニグモ

Mangora herbeoides (Bösenberg & Strand 1906)

(図 274, 738-740)

体長: 雌雄 5.0~6.0mm. 背甲は淡褐色で黒色の正中線がある. 腹部上面は黄白色で後半には 5 対の黒点がある. 本種は色彩斑紋によって他種から容易に区別できる. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 韓国, 中国.

コオニグモモドキ属

Pronoides

腹部は長さと同幅がほぼ同じか長さよりも幅がやや勝る. 腹部前方は高くなり肩突起がある. 雄の第 1 脚脛節内側には強い棘が多数ある.

本属の系統的位置については, いまだに研究結果が出ていない.

世界でも次の 1 種だけが知られる.

コオニグモモドキ

Pronoides brunneus Schenkel 1936

[syn. *Pronous minutus* (S. Saito 1939)]

(図 275-277, 741-742)

体長: 雌 4.0~5.0mm, 雄 3.0~4.0mm. 背甲は褐色. 腹部上面は暗褐色で黒褐色の斑紋がある. 本種は独特の形態や色彩によって他種から容易に見分けられる. ただし, 雄は特徴が雌よりも弱く, 肩突起がほとんど認識できない個体が多いので注意が必要である. 本種には *Pronous minutus* (S. Saito 1939) という学名が使用されてきたが, Yin ら (1997) によって, *Pronoides brunneus* Schenkel 1936 の新参同物異名とされた. 筆者もこの扱いを妥当と認め, ここに採用した. 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 韓国, 中国.

ツメナガオニグモ属

Cnodalia

第 1, 2 脚の上爪のうち前の 1 本がたいへん長い (図 745). 本属のクモは, 世界的に後述の 1 種が, 奄美大島, 沖縄島, スマトラ島から知られるだけである. また, 雄は未発見で, 雌の発見例もきわめて少ないので, 生態的情報も系統的情報も皆無に等しい.

ツメナガオニグモ

Cnodalia harpax Thorell 1890

(図 278, 743-745)

体長: 雌 4mm 前後. 雄: 未発見. 頭胸部は暗褐色で, 前方, 中央, 後方はやや明色. 頭部後方には根元がヘルメット状に膨らんだ短い刺毛がある. 腹部は明褐色で, 前方は濃色, 1 対の角状の突起がある. 本種は独特の外見によってコガネグモ科の他種から容易に見分けられる. 分布: 日本 (奄美大島, 沖縄島), インドネシア (スマトラ島).

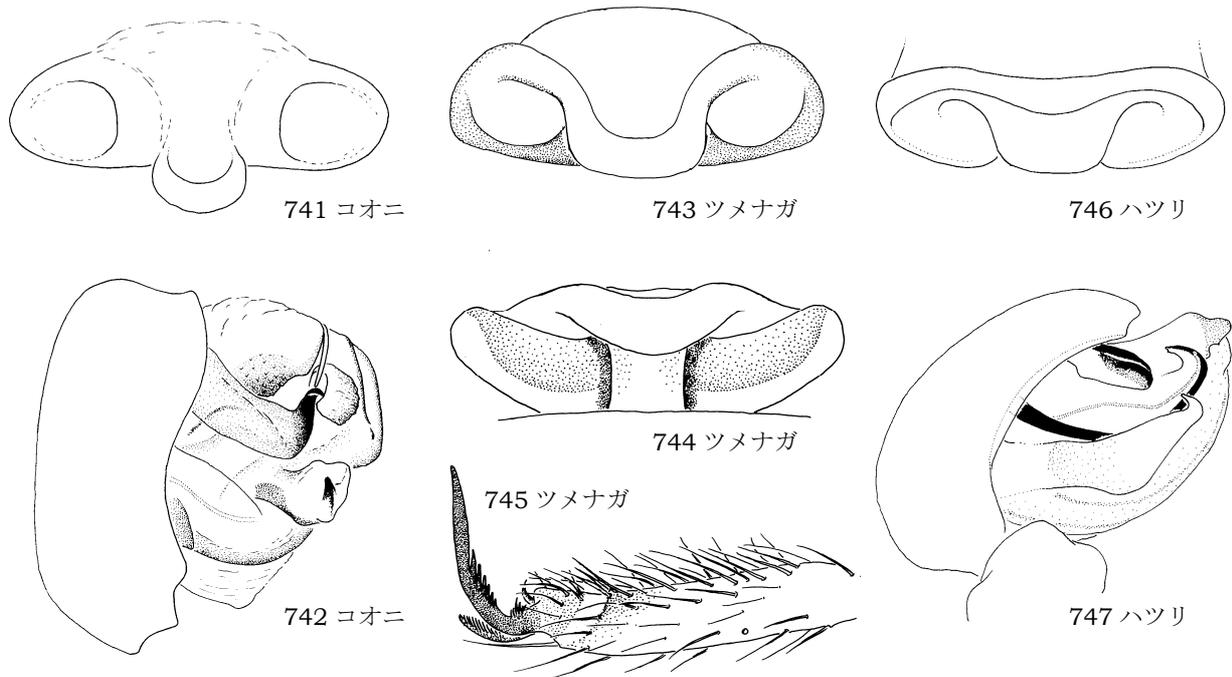


図 741-747. 741-742, コオニグモモドキ *Pronoides brunneus*; 743-745, ツメナガオニグモ *Cnodalia harpax*; 746-747, ハツリグモ *Acusilas coccineus*; 741, 743, 746, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 742, 747, 雄左触肢 male left palp; 744, 外雌器後面 epigynum, posterior; 745. 第 1 脚跗節側面 tarsus I, lateral. (743-745, Tanikawa 2006a より)

ハツリグモ属
Acusilas

雄の第 1 脚基節のフック, 触肢腿節基部の突起がない。円網の中央に枯葉を吊るしてその中に潜んでいる。

本属の系統的位置については研究例がない。

世界では 6 種がエチオピア区, 東洋区, 旧北区から知られる。日本には次の 1 種のみが生息する。

ハツリグモ

Acusilas coccineus Simon 1895
(図 279-281, 746-747)

体長: 雌 8.0~10.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は赤褐色。腹部上面は暗赤褐色でほぼ無地である。日本産のクモ類で円網の中心に丸めた枯葉を吊るすのは, 本種だけである。また, 腹部がずんどう気味であることや腹部の色彩が無地の赤褐色ということによっても他種から容易に区別できる。分布: 日本(本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), インドネシアから台湾, 韓国, 中国。

トガリオニグモ属
Eriovixia

雌の外雌器の外形はヒメオニグモ属 *Neoscona* の

ものに似るが, 雄の触肢の端部突片, 同膝節の剛毛, 雄第 1 脚基節背面の突起をいずれも欠いている点で区別される。

コガネグモ科オニグモ亜科のクモ類では, ほとんどのもので雄触肢に端部突片が備わっている。本属のクモ類はそれを欠くことで, それら多くの属からなるグループ(端部突片分岐群)の姉妹群を形成していると推定されている。

世界では 13 種が旧北区, 東洋区, エチオピア区から知られる。日本には次の 2 種が生息する。

トガリオニグモ

Eriovixia pseudocentrodus (Bösenberg & Strand 1906)
(図 282-285, 748-750)

体長: 雌 3.0~5.5mm, 雄 2.5~3.0mm. 雌の背甲は明褐色, 腹部上面は明褐色の場合から暗褐色の場合まであり, 暗褐色や白色の縁どりがあることも多い。雌の腹部の後部は斜め上方に伸び, 鋭くとがって終わっていたり鈍く終わっていたりする。雄の背甲は明褐色, 腹部上面は褐色で暗褐色や白色の細かな斑紋がある。雄の腹部の後端には 1 個のこぶがある。本種は, 雌においては腹部後端が上方に向かって突出しているという独特な形態によって同属の他種や他のオニグモ類と容易に区別できる。雄の外形は次種サキエダオニグモに似るが, 本種の体色は基本的に褐色であるのに対して次種の体色は基本的

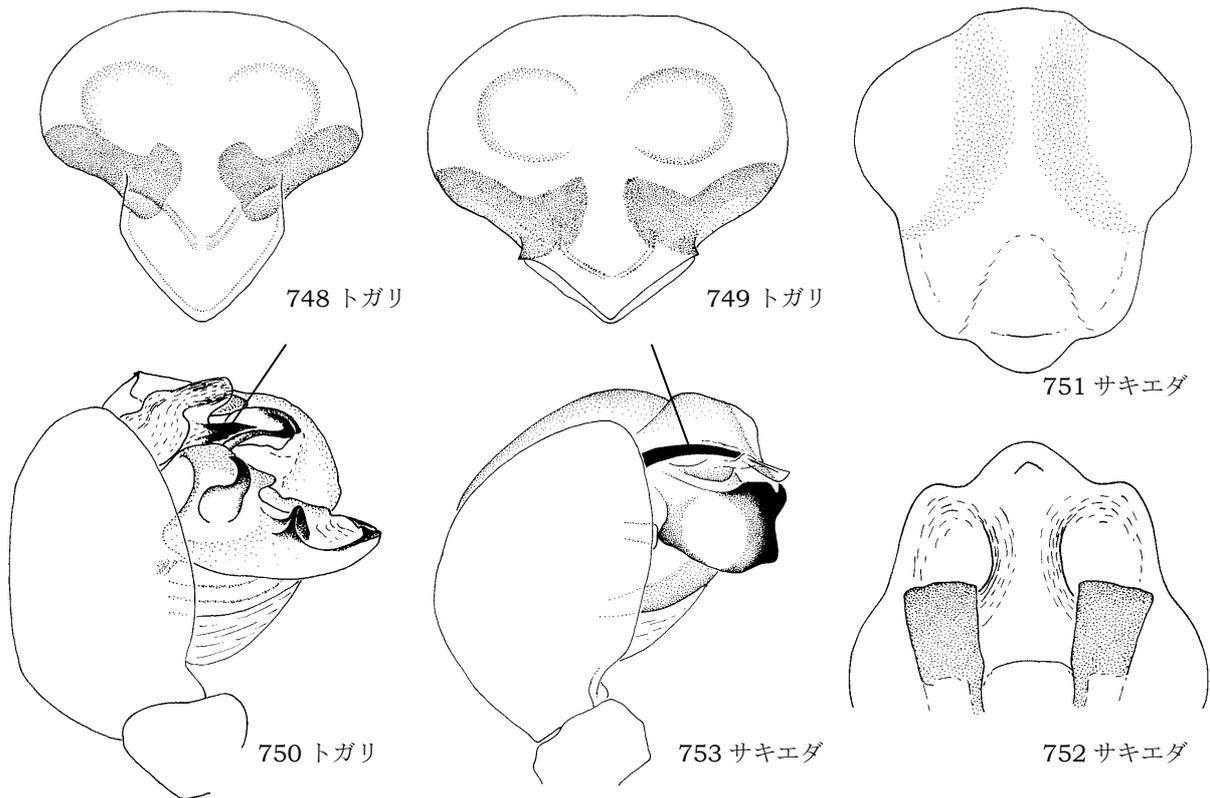


図 748-753. 748-750, トガリオニグモ *Eriovixia pseudocentroides*; 751-753, サキエダオニグモ *Eriovixia sakiedaorum*. 748, 749, 751 外雌器腹面 epigynum, ventral; 750, 753 雄左触肢 male left palp; 752, 外雌器背面 epigynum, dorsal. (Tanikawa 1999 より)

に黒色である点で容易に区別できる。また、触肢の移精針が本種では短い刺状であるが(図 750 棒線部), 次種では細長い針状(図 753 棒線部)。本種の雄は一見するとマメオニグモ類の雄にも似るが、腹部後端のこぶの有無によって見分けられる。本種の雄の腹部後端には丸いこぶがあるが、マメオニグモ類の雄では腹部後端がややとがる場合はあっても、はっきりとしたこぶがあるものはない。分布: 日本(本州, 四国, 九州, 薩南諸島, 奄美諸島, 八重山諸島), 台湾, 中国。

サキエダオニグモ

Eriovixia sakiedaorum Tanikawa 1999

(図 286-288, 751-753)

体長: 雌 3.0~5.0mm, 雄 3.0~3.5mm. 雌の背甲は暗褐色, 腹部上面は黒色で個体によっては側方に白色の斑紋がある。雄の背甲は暗褐色, 腹部上面は黒色で白色の斑紋がある。本種の雌は腹部の幅が広くて丸いことと体色が黒い点で他のコガネグモ科のクモ類から容易に見分けられる。強いていえばシロオビトリノフンダマシの黒色型に似るが, シロオビトリノフンダマシでは腹部の幅が前方で最も広いのに対して本種ではほぼ中央でもっとも幅が広くな

る。本種の雄の形態は前種トガリオニグモの雄と似る。両者の区別点はトガリオニグモの項目を参照。分布: 日本(八重山諸島), 台湾。

ゲハウグモ属

Poltys

背甲は中央部だけに毛が生えており, それ以外の部分は無毛で光沢がある。また, 歩脚の腿節内側面も無毛で表面に光沢がある。腹部はきわめて特異的な形態をしており, 木の小枝の折れたあとや木のこぶなどに擬態していると思われる。

世界では 44 種がエチオピア区, 東洋区, 旧北区, オーストラリア区から知られる。日本に確実に生息するのは次の 2 種である。

ツツゲハウグモ

Poltys columnaris Thorell 1890

(図 289-294, 754-756)

体長: 雌 7.0~10.5mm, 雄 1.5~2.0mm. 背甲は淡褐色。雌の腹部は明褐色, 暗褐色, 緑褐色などからなる複雑な斑紋により木肌とそっくりな状態になっており, かつ, 腹部は上方に突出し, 木の小枝が折れたあとの形にそっくりであるが, その形態に

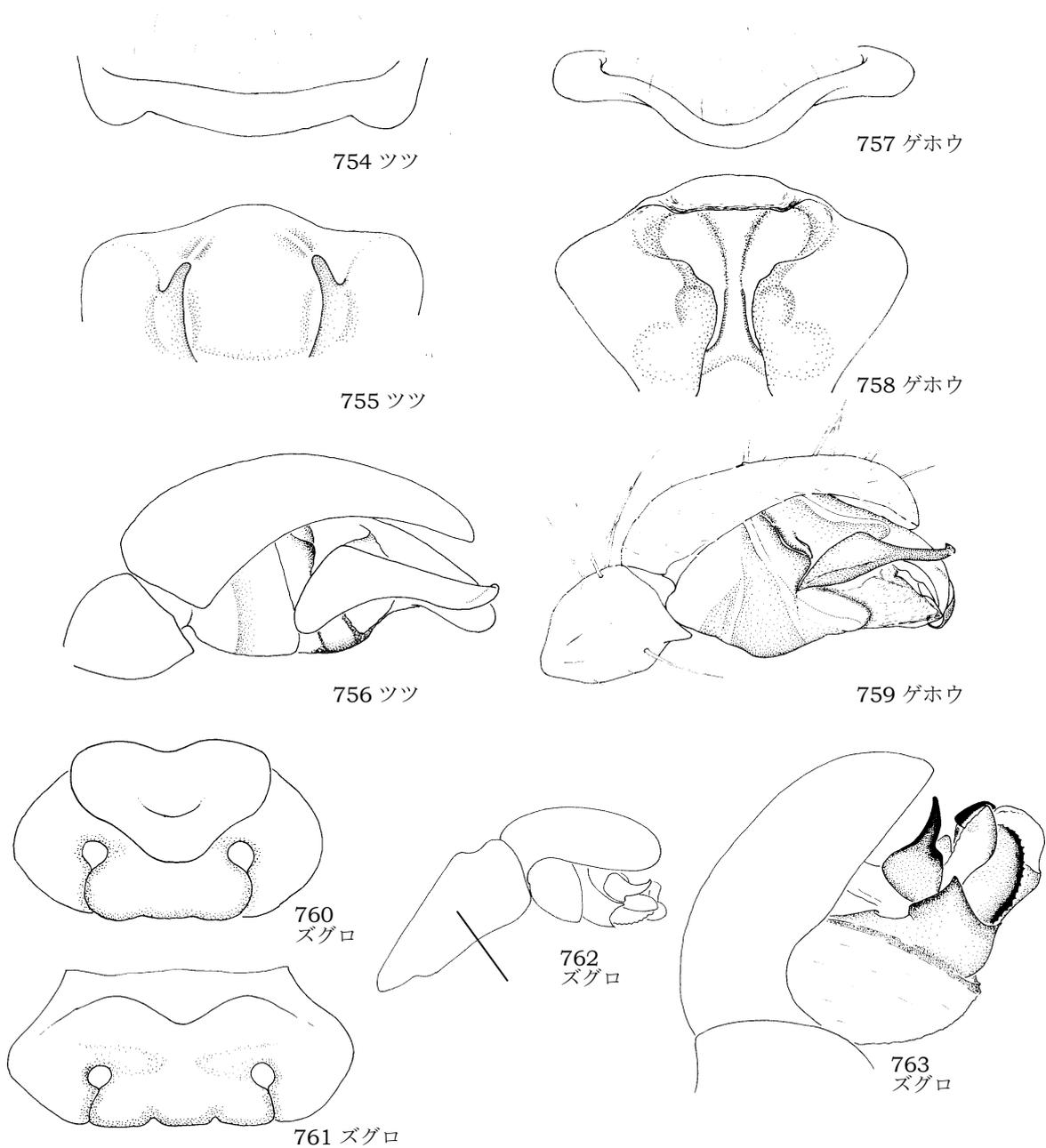


図 754-763. 754-756, ツツゲホウグモ *Poltys columnaris*; 757-759, ゲホウグモ *Poltys illepidus*. 760-763, ズグロオニグモ *Yaginumia sia*. 754, 757, 外雌器腹面 epigynum, ventral; 755, 758, 外雌器背面 same, dorsal; 756, 759, 762, 763, 雄左触肢 male left palp. 760, 外雌器 (垂体のあるもの) epigynum, with a scape, 761, 同 (垂体の取れたもの) same, scape torn off.

はさまざまな変異がある。雄は雌よりもはるかに小さく、体長は雌の 1/3 にも満たない。雄の腹部はやや扁平で長楕円形。ゲホウグモも木のこぶそっくりな腹部をしておりさまざまな形態のものがあるが、ツツゲホウグモでは腹部が細長く上方に突出しており、ゲホウグモではツツゲホウグモよりも腹部が幅広い形態をしている点とゲホウグモのほうが大型である点で比較的容易に区別できる。分布：日本（本

州、九州、奄美諸島、沖縄諸島、八重山諸島）、スリランカ、インドネシア。

ゲホウグモ

Poltys illepidus C. Koch 1843

(図 295-298, 757-759)

体長：雌 12.0~16.0mm, 雄 2.0~3.0mm. 背甲の無毛部分は赤褐色から紫がかかった色をしており光

沢がある。腹部は明褐色，暗褐色，黒褐色，白色などの複雑な斑紋と大小さまざまなこぶがあり，木のこぶにそっくりである。腹部の形態にはさまざまな変異がある。ツツゲホウグモとの区別点はツツゲホウグモの項目を参照。分布：日本（本州，四国，九州，奄美諸島，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島），インドからフィリピン，中国，オーストラリア。

ズグロオニグモ属

Yaginumia

雄触肢の脛節が他のコガネグモ科のクモ類に比べて明らかに長い（図 762 棒線部）。

世界でも次の 1 種が知られるだけである。

ズグロオニグモ

Yaginumia sia (Strand 1906)

(図 299–300, 760–763)

体長：雌 7.0~13.0mm，雄 7.0~10.0mm。背甲は淡褐色で頭部は黒褐色。腹部上面は灰色で黒色の葉状斑がある。ズグロオニグモはヤマキレアミグモに似る。両者の区別点はヤマキレアミグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），台湾，韓国，中国。

ジョロウグモ科 *Nephilidae*

このグループのクモ類の分類学上の位置づけについては、数々の議論があつてなかなか安定しない。古くはコガネグモ科内のジョロウグモ亜科として位置づけられていたが、その後アシナガグモ科とされ、本書執筆時点での最新の系統推定によってジョロウグモ科として独立させられた (Kuntner 2006)。ジョロウグモ科は、*Clitaetra* 属、ケワイグモ属 *Herennia*、ジョロウグモモドキ属 *Nephilengys*、ジョロウグモ属 *Nephila* を包含する最小分岐群と定義された。

8眼が2列に並んでいる。上顎の前後牙堤には歯がある。上顎の外顎には多数のしわがある。雄触肢に根部、中部把持器はなく、移精針が指示器に包まれている。歩脚は3爪で上爪には歯がある。書肺は1対である。間疣がある。左右の後疣には多数の葡萄状腺のほか、2本の管状腺および1本の鞭状腺と1対の集合腺がある。

ジョロウグモ科は、アシナガグモ科、サラグモ科、ヨリメグモ科、ユアギグモ科、コツブグモ科、カラカラグモ科、ヒメグモ科などからなる単系統群の姉妹群と推定されている。共有派生形質は、上顎の外顎にしわがあること、雄触肢の側杯葉の根元が強くキチン化しないこと、側杯葉が平たく方形であること、移精針と盾が直角をなすこと、と推定されている。ジョロウグモ科、ヒメグモ科、サラグモ科、アシナガグモ科などからなる単系統群はコガネグモ科の姉妹群であり、これにコガネグモ科を合わせた単系統群はコガネグモ上科と位置づけられている。

世界中の熱帯亜熱帯地域に分布し、4属36種が記載されている。日本からは本書で扱っている1属2種が記録されている。

ジョロウグモ属 *Nephila*

迷網のある垂直円網を張る。完成した網にも足場糸が残されているので、横糸は五線譜状に見える。縦糸には、1本が2本に分けられる分割や、途中から追加される分岐の構造が見られ、密度が他の円網に比べてかなり高い。また、横糸の間隔も狭いので、網目はかなり細かい。雌雄の体長はかなり異っており、雄の体長は雌の1/2以下である。雄触肢の盾は球状、指示器は長くて先が鋭くとがる。

本属のクモ類は、ジョロウグモモドキ属 (日本には生息していない) と姉妹群関係にあると推定され

ている。共有派生形質は、胸板の中央部が濃色で周辺部が淡色であること、歩脚脛節に毛束があること、網糸が金色をしていることである。

世界中から約30種が記載されており、日本には次の2種が生息する。

ジョロウグモ

Nephila clavata L. Koch 1878

(図 301-309, 764-765)

体長: 雌 17.0~30.0mm, 雄 6.0~10.0mm. 雌: 背甲は褐色で、正中部と両側縁は白色となる。腹部背面は黄色と青色の横縞、側面後方には腹面に続く赤色斑がある。ただし雌がこのような色彩になるのは成熟後で、それまでは雄と同じような色彩斑紋をしている。成体では色彩斑紋の特徴によって他種から容易に区別できる。幼体においても、成体とは全く色彩が異なることを知っていれば同定を誤ることはない。雄: 背甲は褐色で、正中部と両側縁は白色となる。腹部上面は明褐色で褐色の複雑な斑紋があり、正中部には縦向きに暗斑、後方両側には1対の黒斑がある。雄においても色彩斑紋の特徴で他種から容易に区別できる。分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島), インド, 中国, 韓国, 台湾。

オオジョロウグモ

Nephila pilipes (Fabricius 1793)

(図 310-315, 766-767)

体長: 雌 35.0~50.0mm, 雄 7.0~10.0mm. 日本最大のクモである (ただし雄は大きくない)。雌: 背甲は金色。腹部上面は黒色で前方に横向の、正中部にはV字状の黄色の斑紋がある。個体によっては黄色の斑紋がなく無地の黒色の場合や、小豆色の場合など色彩変異が見られる。小さな幼体では腹部上面は白色で、3本の黒色の縦すじがある。雄: 背甲、腹部上面ともに橙色でほぼ無地である。幼体時には雌と同様、白色の地に3本の縦斑がある。雌雄ともに色彩斑紋によって他種からは容易に見分けられる。分布: 日本 (薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), マダガスカルから台湾, 中国, ニューギニア, オーストラリア。

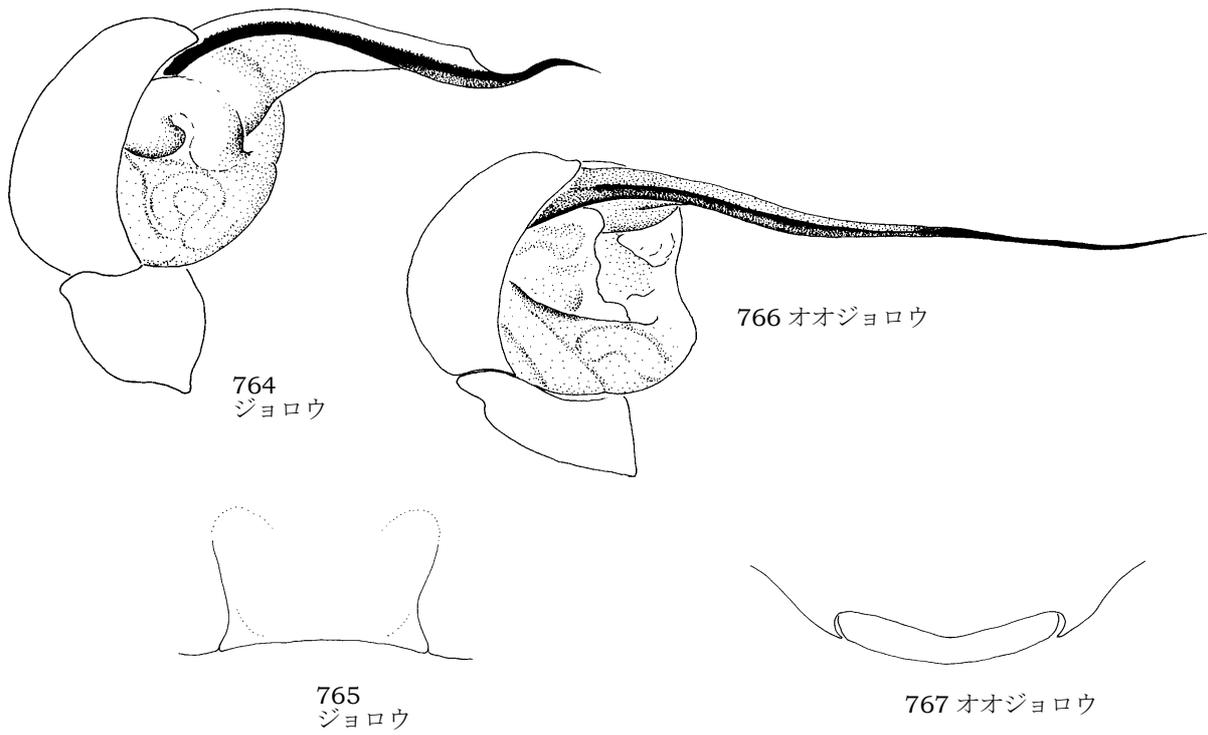


図 764-767. 764-765, ジョロウグモ *Nephila clavata* ; 766-767, オオジョロウグモ *Nephila pilipes*. 764, 766, 雄左触肢 male left palp ; 765, 767, 外雌器 epigynum.

アシナガグモ科 Tetragnathidae

円網を張るクモである。中心部に穴のあいている、開こしきの水平円網を張るものが多い。

8眼が2列に並んでおり、側眼は中眼から離れている。上顎の前後牙堤には歯がある。雄触肢に根部、中部把持器はなく、移精針が指示器に包まれるか、あるいはたがいに寄り添ってらせんを描いている。歩脚は3爪で上爪には歯がある。書肺は1対である。間疣がある。左右の後疣には多数の葡萄状腺のほか、2本の管状腺および1本の鞭状腺と1対の集合腺がある。

本書執筆時点で、アシナガグモ科のクモ類は2つの分岐群からなり、コガネグモ上科内での側系統群であると推定されている。2つの分岐群のうち、アシナガグモ属、ドヨウグモ属、シロカネグモ属などからなる単系統群は、サラグモ科、ヨリメグモ科、ユアギグモ科、コツブグモ科、カラカラグモ科、ヒメグモ科などからなる単系統群の姉妹群と推定されている。これら全体の姉妹群がもう一方の単系統群であり、これは日本には分布していない *Phonognatha* 属、*Deliochus* 属からなっている。ヒメグモ科、サラグモ科、アシナガグモ科、ジョロウグモ科などからなる単系統群はコガネグモ科の姉妹群であり、これにコガネグモ科を合わせた単系統群はコガネグモ上科と位置づけられている。

世界中に分布し、およそ52属1000種が記載されている。日本からは11属約60種が記録されているが、それらの中には正体不明のものや誤同定の疑いがあるものも含まれている。本書では、執筆時点で日本産の標本を確認することのできた11属44種を扱っている

ヒメドヨウグモ属 *Diphya*

前中眼が他の眼に比べてきわめて小さく(図771)、中眼域は幅よりも長さがはるかに勝り、後辺のほうが広い。第1、2脚の前側面には刺毛列がある(図770)。

本属は、ズナガドヨウグモ属と姉妹群関係にあると推定されている。

世界では、南アフリカ、マダガスカル、南アメリカ、台湾、日本から8種が記載されており、日本には次の1種のみが生息する。

オオクマヒメドヨウグモ *Diphya okumae* Tanikawa 1995 (図316-317, 768-771)

体長：雌3.0~4.0mm, 雄2.5mm前後。背甲は橙色で小さな凹点が多数ある。腹部上面は明褐色で周囲は濃色となり周辺部近くに白色の帯がある。本種は林床の低い位置、とくにスギ林のリター上層に小さな円網を張る。本種は色彩斑紋によって他種から容易に区別できる。分布：日本(本州, 九州)。

ズナガドヨウグモ属 *Dolichognatha*

頭部が長く伸びており、前中眼が最大、副眼にはタペータムがない。腹部は長さよりも高さが勝り、背面には2対の突起がある。

本属のクモ類の姉妹群はヒメドヨウグモ属と推定されている。

世界では、エチオピア区、東洋区、新北区、新熱帯区から20種が記載されている。日本には次の1種のみが生息する。

ズナガドヨウグモ *Dolichognatha umbrophila* Tanikawa 1991 (図318-319, 772-773)

体長：雌3.0~4.0mm, 雄3.5mm前後。背甲は黄褐色で暗褐色の斑紋がある。腹部上面は暗褐色で明褐色や白色の細かな斑紋がある。樹木の根元などに水平円網を張る。本種は、頭部が細長く伸びること、腹部が長さよりも高さが勝り、背面に2対の突起があることで日本産の他属他種から容易に見分けられる。分布：日本(八重山諸島)。

アズミグモ属 *Menosira*

幼体時には円網を張るが、成長すると網を張らなくなる。雄触肢の側杯葉がやや発達している。外雌器はキチン化が比較的弱い。書肺蓋には溝がない。

本属の系統的位置関係についてはまだ研究例がない。世界でも次の1種が知られるだけである。

キンヨウグモ *Menosira ornata* Tikuni 1955 (図320-321, 774-775)

体長：雌8.0~10.0mm, 雄6.0~7.0mm。背甲は明褐色で正中部は暗色となる。腹部上面は褐色で正中部に前後に分かれた黄色斑がある。本種は腹部上面の斑紋によって他種から容易に区別できる。分布：日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 韓国。

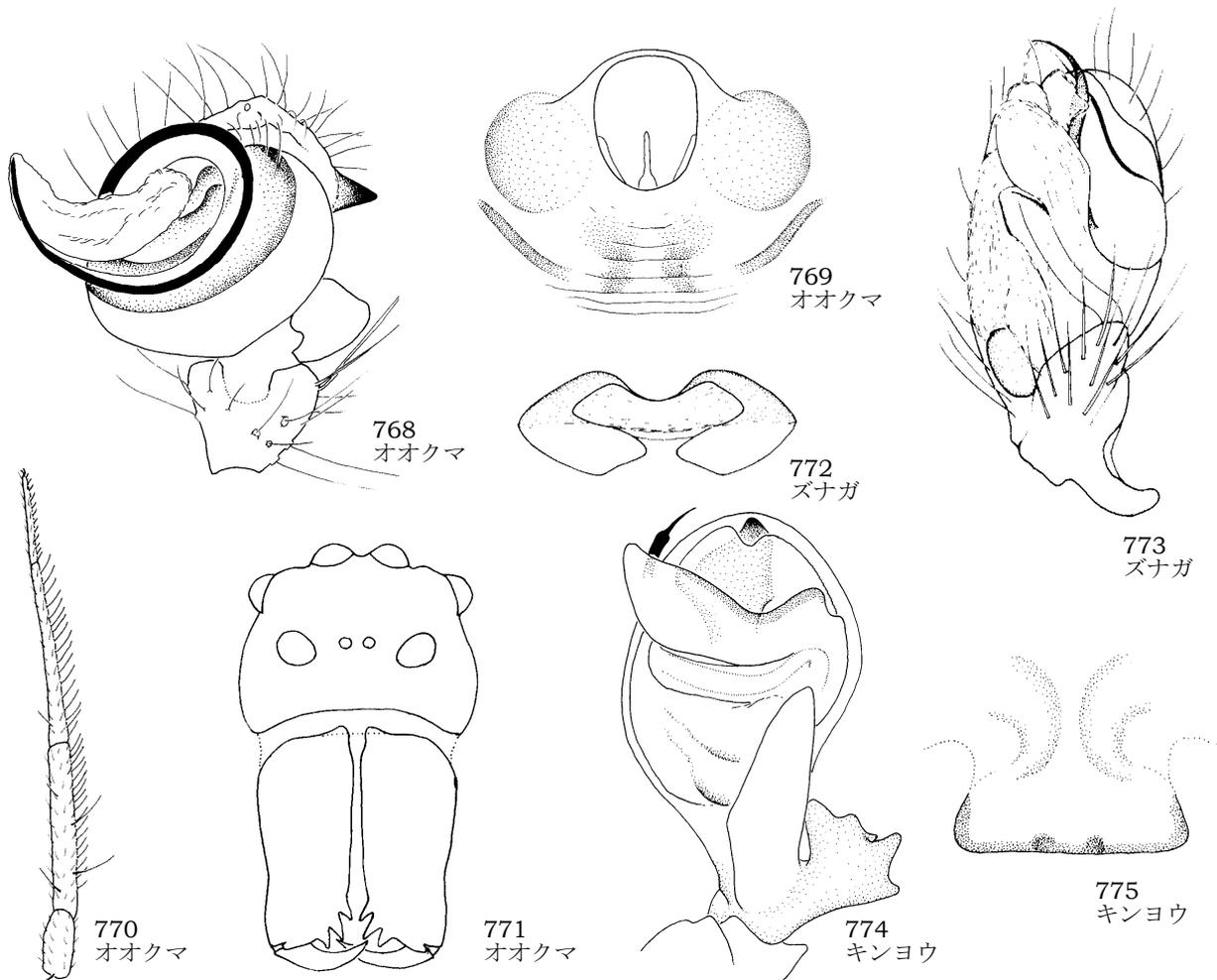


図 768-775. 768-771, オオクマヒメドヨウグモ *Diphyia okumae*; 772-773, ズナガドヨウグモ *Dolichognatha umbrophila*; 774-775, キンヨウグモ *Menosira ornata*. 768, 773, 774, 雄左触肢 male left palp; 769, 772, 775, 外雌器 epigynum; 770, 雌左第 1 脚背面 Leg I, dorsal; 771, 雌頭胸部前面 cephalothorax, frontal. (768-771, Tanikawa 1995b より; 772-773, Tanikawa 1991b より)

ドヨウグモ属

Meta

雄触肢の側杯葉が発達している。外雌器のキチン化は比較的弱い。

ドヨウグモ属は *Chrysometa* 属, *Metellina* 属 (いずれも日本には生息していない) からなるグループと姉妹群の関係にある。共有派生形質は書肺蓋に溝があることである。

約 40 種が世界中から記載されており、日本には次の 3 種が生息する。

サンロウドヨウグモ

Meta japonica Tanikawa 1993

(図 322, 776-777)

体長: 雌 9.5~14.0mm, 雄 9.0~11.0mm. 背甲は褐色で正中部と両側部は暗色となる。腹部上面は

褐色 (生時は赤褐色) で黒褐色の斑紋がある。本種は色彩斑紋によって容易に他種から見分けられる。

分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州)。

チビクロドヨウグモ

Meta nigradorsalis Tanikawa 1994

(図 323-324, 778-779)

体長: 雌 5.0~6.5mm, 雄 4.5~5.0mm. 背甲は褐色で正中部と両側部は暗色となる。腹部上面は黒色で前方はやや明色, 周囲は灰色, 両側部には数対のこぶがあるが, 個体によってはめだたない。本種は色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる。

分布: 日本 (本州, 四国, 九州)。

ヤマジドヨウグモ

Meta reticuloides Yaginuma 1958

(図 325-327, 780-781)

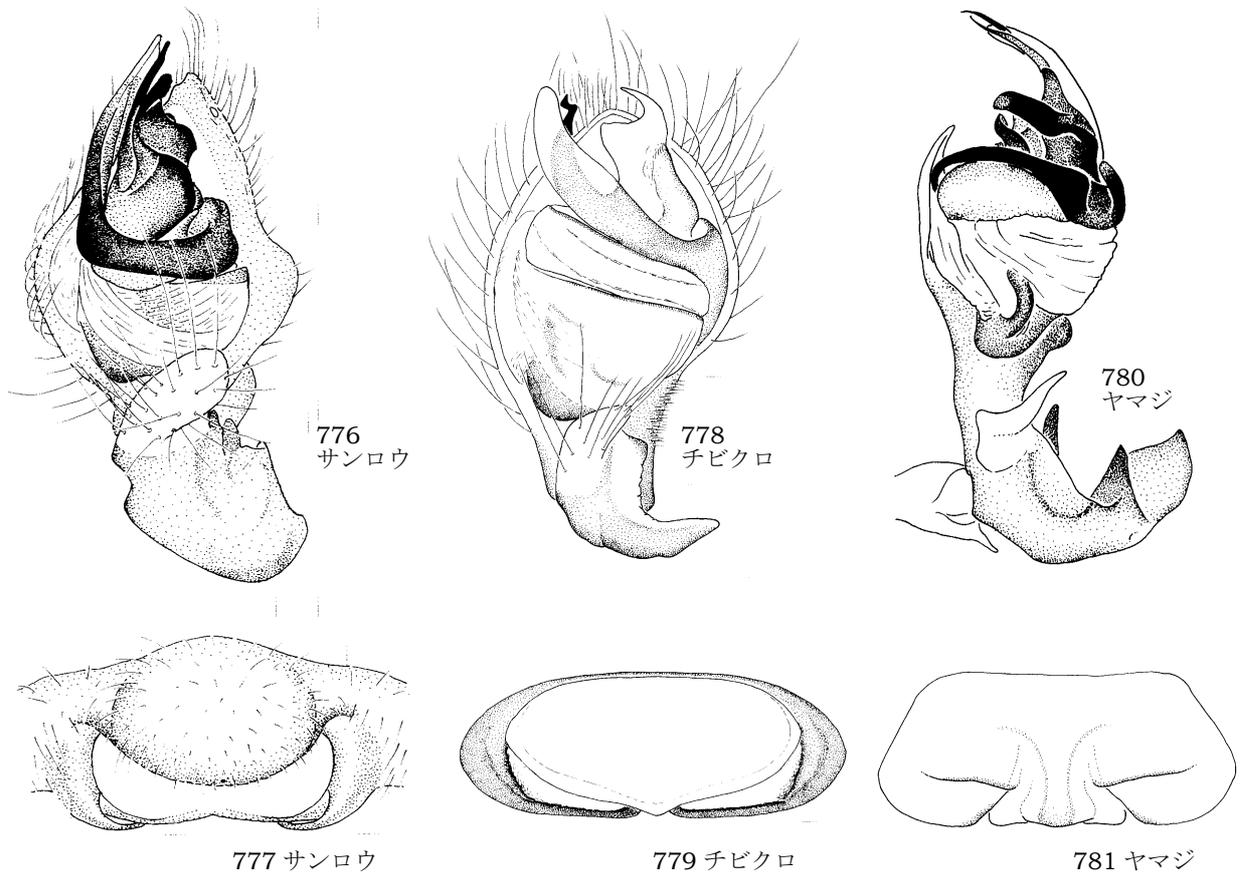


図 776-781. 776-777, サンロウドヨウグモ *Meta japonica*; 778-779, チビクロドヨウグモ *Meta nigridorsalis*; 780-781, ヤマジドヨウグモ *Meta reticuloides*. 776, 778, 780, 雄左触肢 male left palp; 777, 779, 781, 外雌器 epigynum. (776-777, Tanikawa 1993 より)

体長：雌 6.0~10.0mm, 雄 3.0~7.0mm. 背甲は明褐色で頭部の両側部は黒褐色. 腹部上面は明褐色で, 白色, 黄褐色, 黒褐色の複雑な斑紋がある. 色彩斑紋によって他種から容易に見分けられる. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島), 韓国.

オオドヨウグモ属
Metleucauge

腹部は楕円形で中央付近で最も幅が広い. 外雌器は平坦なものが多く, 中央部は膨らみ, 両側にはポケットがある. 雄触肢は長く, 基節の先端下面には鋭い突起がある. 雄触肢の側杯葉は発達せず, 杯葉背面の後端には後方に向かう突起がある. 本属のクモ類は外見が互によく似るので, 同定には注意が必要である.

本属のクモ類はササキグモ属, ハラダカグモ属, シロカネグモ属などからなる単系統群と姉妹群の関係にある. 共有派生形質は書肺蓋に溝があること, 雄触肢の脛節が長く膝節の 1.2 倍以上あることで

ある.

世界では 7 種が, アジアと北アメリカから記載されている. 日本には次の 4 種が生息する.

チクニドヨウグモ

Metleucauge chikunii Tanikawa 1992
(図 328-330, 782-784)

体長：雌 7.5~11.5mm, 雄 6.5~8.0mm. 背甲は明褐色で側部は暗褐色. 眼域と中窩の間には V 字状の暗色の斑紋があるが, 中央部の明色の帯が不明瞭で頭部全体が暗褐色になる場合が多い. 腹部上面は白色で, 暗灰褐色の斑紋がある. 本種の同定ポイントは次の各点である. 頭部の暗色斑がめがね状にならない. 外雌器中央のふくらみが鼻状である (図 782 棒線部). 雄の触肢が細長くて, 脛節の長さは杯葉の 1.3 倍以上, 腿節の長さは杯葉の 2 倍以上ある (図 784). 腹面から見たときに指示器は幅広く, また, キチン化がかなり進んでいる (図 783 棒線部). 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, 八重山諸島), 台湾.

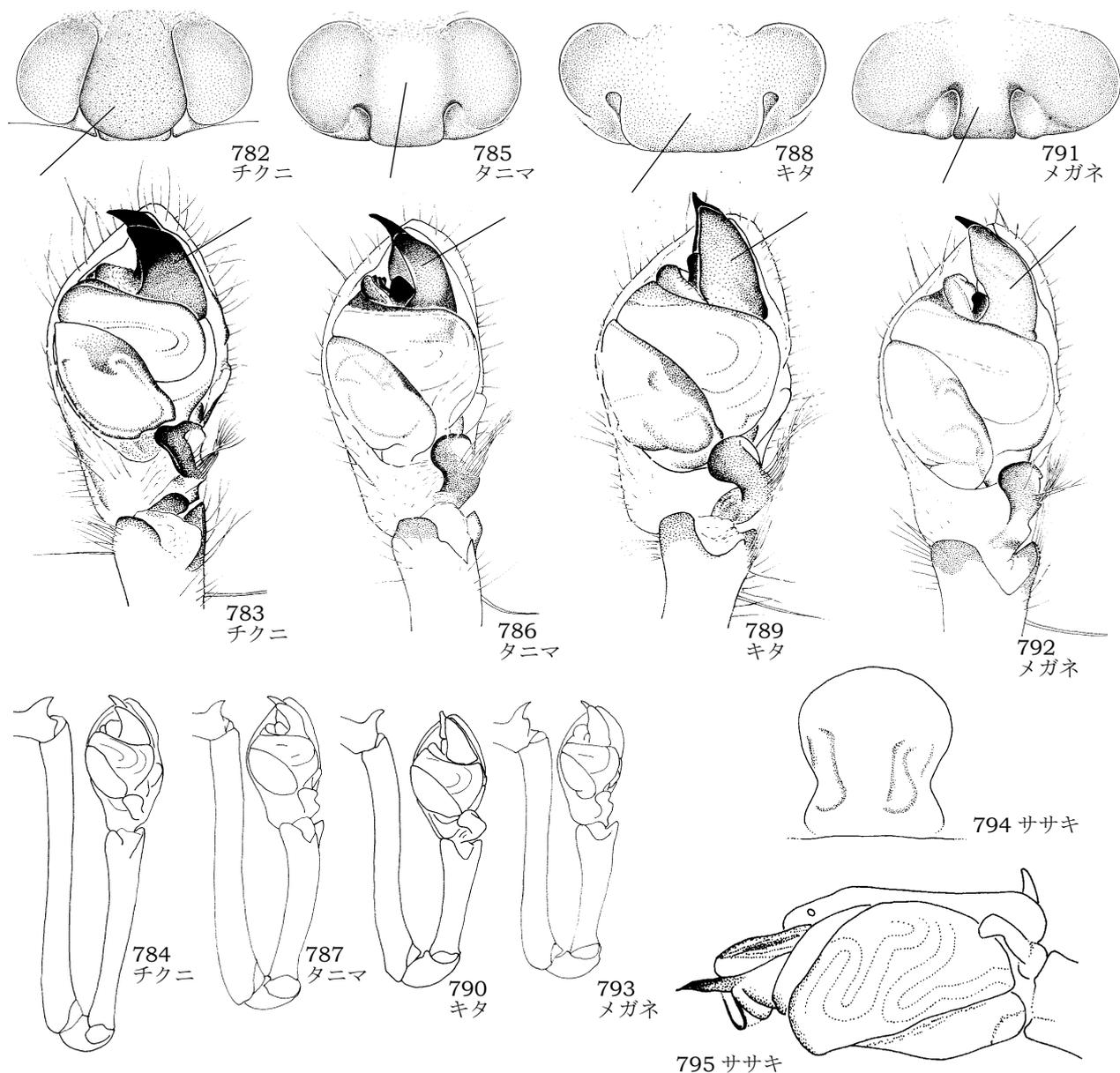


図 782-795. 782-784, チクニドヨウグモ *Metleucauge chikunii*; 785-787, タニマノドヨウグモ *Metleucauge kompirensis*; 788-790, キタドヨウグモ *Metleucauge yaginumai*; 791-793, メガネドヨウグモ *Metleucauge yunohamensis*; 794-795, ササキグモ *Okileucauge sasakii*. 782, 785, 788, 791, 794, 外雌器 epigynum; 783-784, 786-787, 789-790, 792-793, 795, 雄左触肢 male left palp. (782-793, Tanikawa 1992b より; 794-795, Tanikawa 2001 より)

タニマノドヨウグモ

Metleucauge kompirensis (Bösenberg & Strand 1906)

(図 331, 785-787)

体長：雌 10.0~14.0mm, 雄 7.5~12.0mm. 背甲は明褐色で側部は暗褐色, 眼域と中窩の間には暗褐色の V 字状の斑紋がある. 腹部上面は白色あるいは黄白色で, 暗色の斑紋がある場合が多いが, まれに腹部上面の斑紋を欠く個体が見られる. 本種の同定ポイントは次の各点である. 典型的な斑紋をもつものでは色彩斑紋によって他種から見分けられる.

本種はチクニドヨウグモと同じく頭部の暗色斑がめがね状にならない. 外雌器中央のふくらみはなだらかで半球状である (図 785 棒線部). 雄触肢はやや長い, 脛節の長さは杯葉の 1.3 倍には達せず, 腿節の長さも杯葉の 2 倍には達しない (図 787). 腹面から見たときの指示器の根元の幅がチクニドヨウグモほど広くない (図 786 棒線部). 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島), 台湾, 韓国, 中国.

キタドヨウグモ

Metleucauge yaginumai Tanikawa 1992

(図 332, 788–790)

体長：雌 8.0~11.0mm, 雄 5.0~6.5mm. 背甲は明褐色で両側部は暗褐色, 胸部側縁近くには暗褐色の波型の斑紋がある. 眼域と中窩の間には暗褐色のV字型の斑紋があり, 多くの個体ではこのV字型の斑紋の前方に明色部があつてめがね状になっている. 外雌器中央部のふくらみが幅広く (図 788 棒線部), 交尾口が左右に大きく離れている. 雄触肢の脛節の長さは杯葉よりも小さく, 腿節の長さは杯葉の1.5倍をこえるが2倍には達しない (図 790). 雄触肢を腹面から見たときに指示器の根元にはくびれがなく (図 789 棒線部), 指示器の奥に見えている突起は湾曲度が小さくて, ほぼまっすぐに前方を向いている. 分布：日本 (北海道, 本州).

メガネドヨウグモ

Metleucauge yunohamensis (Bösenberg & Strand 1906)

(図 333–334, 791–793)

体長：雌 8.0~11.0mm, 雄 5.0~6.5mm. 背甲は明褐色で周辺部は暗色となり, 周辺近くには暗色の波型の斑紋がある. 眼域と中窩の間には暗褐色のV字型の斑紋があり, この斑紋の前方には明色の部分があつてめがね状になっている. 外雌器中央のふくらみは弱く (図 791 棒線部) 交尾口はたがいに接近している. 雄触肢の脛節の長さは杯葉とほぼ同じで, 腿節の長さは杯葉の1.5倍をこえるが2倍には達しない (図 793). 雄触肢を腹面から見たときに指示器の根元にはくびれがあり (図 792 棒線部), 指示器の奥に見えている突起は湾曲している. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 台湾, 韓国, 中国.

ササキグモ属

Okileucauge

背甲は幅よりも長さが勝り, 中窩は浅い. 腹部は幅よりも長さが勝り銀色の小斑が多数ある. 書肺蓋にはしわがない. 雄触肢の指示器はキチン化が弱く移精針を包んでいる. 外雌器はキチン化が弱く, 受精のうはキチン化しない.

ササキグモ属はハラダカグモ属, *Mesida* 属 (日本には生息していない) からなる単系統群と姉妹群関係にある. 共有派生形質は雄の上顎に大きな牙堤歯があることである. また, 後二者の共有派生形質は第4脚腿節に10対以内の聴毛列があることであるが, ササキグモ属では第4腿節には聴毛列がない.

世界では6種が知られるが, 日本には次の1種のみ生息する.

ササキグモ

Okileucauge sasakii Tanikawa 2001

(図 335–337, 794–795)

体長：雌 2.5~3.0mm, 雄 2mm 前後. 背甲は黄色, 腹部は銀色で黒色の斑紋がある. 本種は第4腿節に聴毛列を欠くことで類似の他種から容易に区別できる. ただし, 聴毛列の有無を確認するには実体顕微鏡などによる観察が必要である. 分布：日本 (本州, 奄美諸島, 沖縄諸島).

ハラダカグモ属

Tylorida

腹部背面は上方に突出している. 外雌器のキチン化は弱い. 雄触肢の盾がきわめて大きく, 球状に膨らんでいる.

ハラダカグモ属は *Mesida* 属 (日本には生息していない) と姉妹群の関係にある. 共有派生形質は中窩が深い (上から見て中窩の底が見えない) ことである.

世界では6種が東洋区, 旧北区, オーストラリア区から知られる. 日本に確実に生息するのは次の2種である.

キイロハラダカグモ

Tylorida striata (Thorell 1877)

(図 338–339, 796–797)

体長：雌 3.5~4.5mm, 雄 2.5~3.5mm. 背甲は明褐色で正中部位には黒色の縦斑がある. 腹部は上方に突出し, 全面を金色の小斑がおおっている. 本種は腹部の形態や色彩によって同属他種から容易に区別できる. 分布：日本 (本州, 四国, 九州, 八重山諸島), 中国, オーストラリア.

オオハラダカグモ

Tylorida ventralis (Thorell 1877)

(図 340–342, 798–799)

体長：雌 6.0~7.5mm, 雄 5.0~5.5mm. 背甲は淡黄色で濃褐色の縁取りがあり, 頭部と胸部の正中部位も濃褐色である. 腹部背面は銀色を帯びた灰色で, 黒色の斑紋があり, 後端はややとがっている. 本種は外見によって同属他種から容易に区別できる. 分布：日本 (西表島), 中国, 台湾, シンガポール, インド.

シロカネグモ属

Leucauge

開こしきの水平円網を張る. 第4脚腿節に10対以上の2列に並んだ聴毛がある. 腹部背面はうろこ

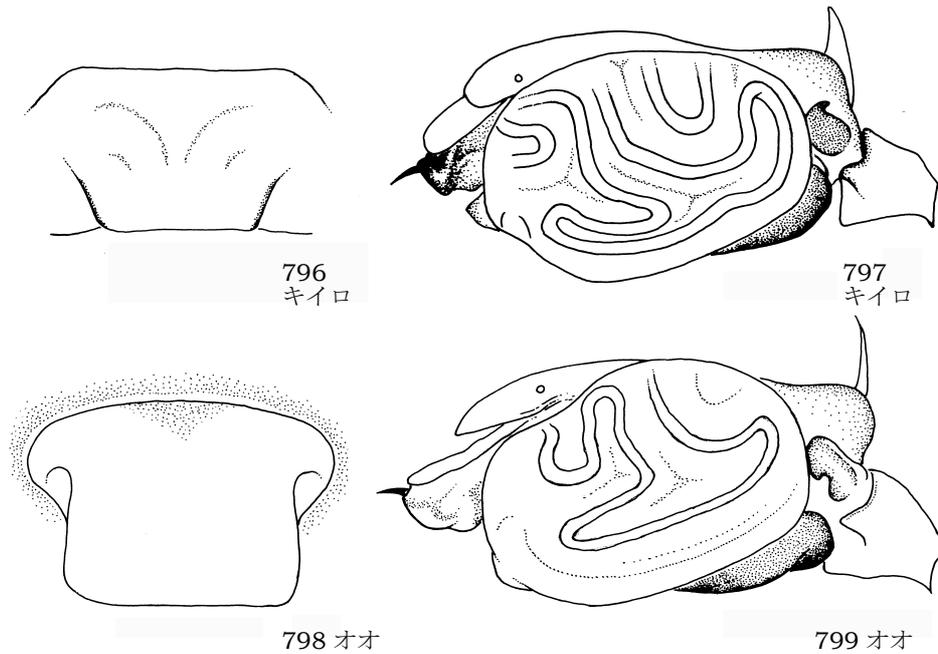


図 796-799. 796-797, キイロハラダカグモ *Tylorida striata*; 798-799, オオハラダカグモ *Tylorida ventralis*. 796, 798, 外雌器 epigynum; 797, 799, 雄左触肢 male left palp. (Tanikawa 2004c より)

状の銀斑に被われていて安静時にはほぼ全面が銀色であるが、刺激を受けると銀斑は収縮し体色が暗くなる。

シロカネグモ属はササキグモ属、ハラダカグモ属、*Mesida* 属（日本には生息していない）からなる単系統群と姉妹群の関係にある。共有派生形質は第 4 脚腿節に 10 対以上の聴毛の列があることである。

世界中から約 170 種が記載されており、日本には次の 6 種が生息する。

チュウガタシロカネグモ

Leucauge blanda (L. Koch 1878)

(図 343-346, 800-801)

体長：雌：9.0~13.0mm, 雄 6.0~10.0mm. 背甲は明褐色で側縁は暗色となる。腹部上面は銀色で 3 縦斑がある。腹部背面前端には 1 対のこぶがあり、その上に黒斑がある。チュウガタシロカネグモ、オオシロカネグモ、コシロカネグモ、トガリシロカネグモはたがいによく似るが、次の点で区別できる。チュウガタシロカネグモとトガリシロカネグモでは腹部前端に 1 対のこぶと黒斑があるが、オオシロカネグモとコシロカネグモではそのようなこぶはない。ただし、オオシロカネグモやコシロカネグモでも腹部前端に 1 対の暗色の斑点がある場合があるので、その部分がこぶ状に盛り上がっているか否かを確認する必要がある。また、チュウガタシロカネグモでは腹部後端は鈍く終わっているのに対して、トガリ

シロカネグモは腹部後端が後方にとがる（ただし、液浸標本ではあまりとがっていない場合がある）。外雌器においては次のような違いがある。チュウガタシロカネグモでは前方にハの字型のはっきりとした段差があるが（図 800 棒線部）、コシロカネグモではこのような段差はない。オオシロカネグモとトガリシロカネグモでも前方にはっきりとした段差があるが（図 802, 806 棒線部）、段差は中央で途切れずに連続している。トガリシロカネグモでは段差の前方に半透明の部分がある（図 806 破線部）がオオシロカネグモではそのような半透明の部分はない。雄の触肢では指示器の形態が同定のポイントとなる。チュウガタシロカネグモでは指示器の下側が（図の角度から見たときに）丸みを帯びていて着色（キチン化）している（図 801 棒線部）。コシロカネグモは着色部分の下側にわずかなへこみがある（図 805 棒線部）。オオシロカネグモでは着色部分はなく全体に筒状をしている（図 803 棒線部）。トガリシロカネグモでは着色部分がなく先端がへら状になっている（図 807 棒線部）。分布：日本（本州、四国、九州、薩南諸島、奄美諸島、沖縄諸島、大東諸島、宮古諸島、八重山諸島）、台湾、韓国、中国。

オオシロカネグモ

Leucauge magnifica Yaginuma 1954

(図 347-349, 802-803)

体長：雌 11.0~15.0mm, 7.0~12.0mm. 背甲

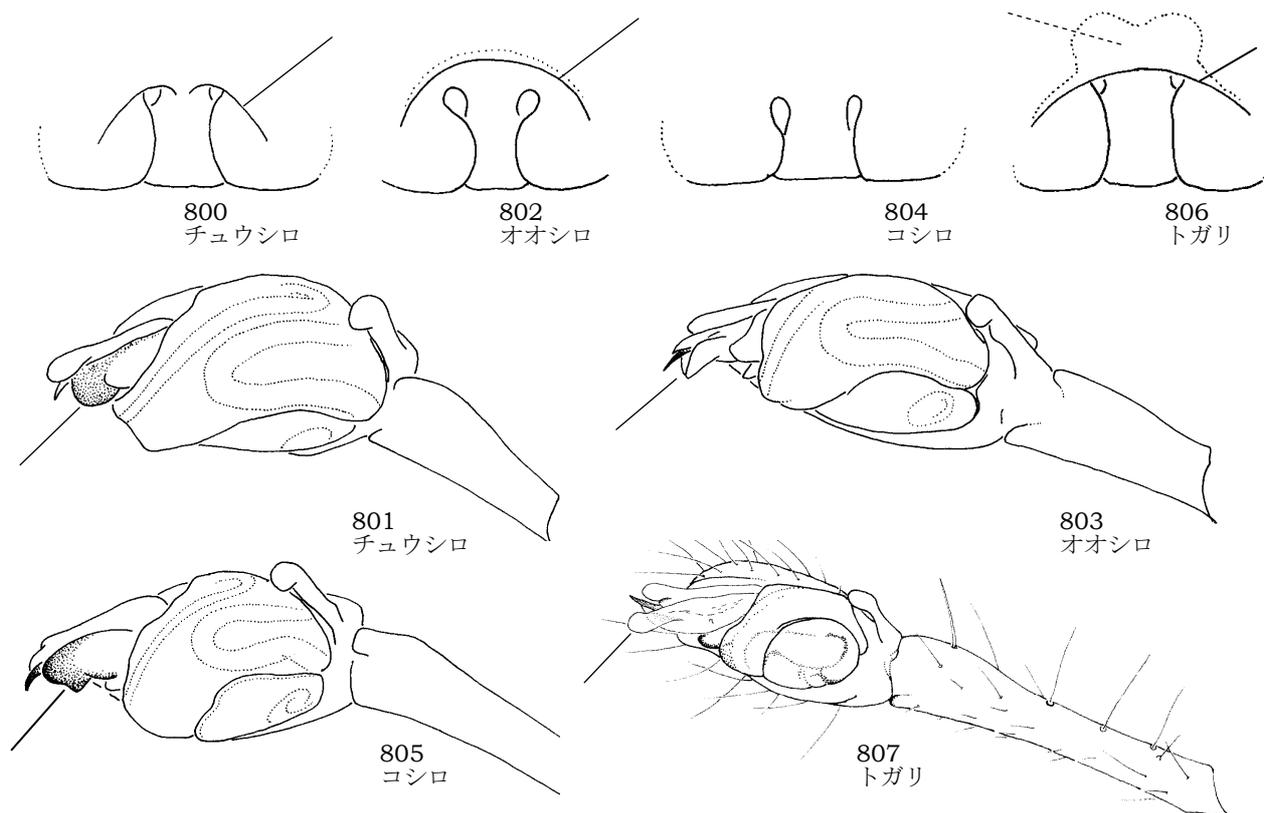


図 800-807. 800-801, チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda*; 802-803, オオシロカネグモ *Leucauge magnifica*; 804-805, コシロカネグモ *Leucauge subblanda*; 806-807, トガリシロカネグモ *Leucauge decorata*. 800, 802, 804, 806, 外雌器 epigynum; 801, 803, 805, 807, 雄左触肢 male left palp. (807, 谷川 1990 より)

は明褐色で側縁は暗色となる。腹部上面は銀色で黒色の縦斑が 3 本ある。近似種との見分け方はチュウガタシロカネグモの項目を参照。分布：日本（本州，四国，九州，薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島），台湾，韓国，中国。

コシロカネグモ

Leucauge subblanda Bösenberg & Strand 1906
(図 350-353, 804-805)

体長：雌 8.0~9.0mm, 雄 5.0~7.0mm. 背甲は明褐色で側縁は暗色。腹部上面は銀色で黒色の縦斑が 3 本ある。近似種との見分け方についてはチュウガタシロカネグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州，薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，大東諸島，八重山諸島），韓国，中国。

トガリシロカネグモ

Leucauge decorata (Blackwall 1864)
(図 354, 806-807)

体長：雌 6.5~10.5mm, 雄 3.5~4.0mm. 背甲は明褐色で側縁は暗色となる。腹部上面は銀色で 3 本の黒色の縦斑がある。腹部後端は後方にとがって

いるが，液浸標本では収縮して丸くなってしまう場合が多い。近似種との見分け方はチュウガタシロカネグモの項目を参照。分布：日本（西表島），旧世界の熱帯からオセアニアにかけて広く分布する。

チビシロカネグモ

Leucauge crucinota (Bösenberg & Strand 1906)
(図 355-358, 808-809)

体長：雌 3mm, 雄 2.0mm. 背甲は明褐色あるいは明緑褐色で側縁は暗色となる場合がある。腹部上面は銀色で後方には黒色の斑紋がある。本種は，体長が大変小さいことと色彩斑紋によって同属の他種から容易に区別できる。分布：日本（本州，四国，九州，薩南諸島，トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島）。

キララシロカネグモ

Leucauge subgemmea Bösenberg & Strand 1906
(図 359-363, 810-811)

体長：雌 6.0~7.0mm, 雄 4.0~5.0mm. 背甲は明褐色。腹部上面は金色で後端には黒色の斑紋がある。本種は金色の体色をしている点で同属の他種か

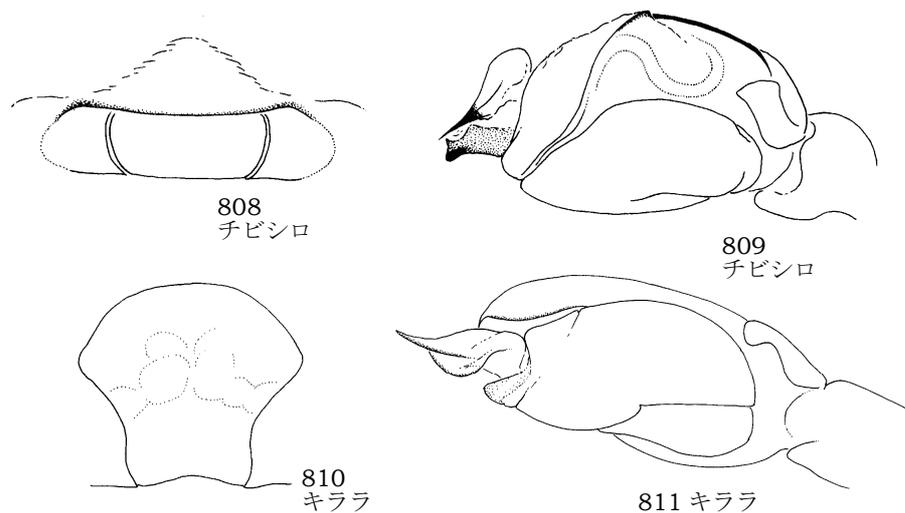


図 808-811. 808-809, チビシロカネグモ *Leucauge crucinota*; 810-811, キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea*. 808, 810, 外雌器 epigynum; 809, 811, 雄左触肢 male left palp.

ら容易に区別できる。キイロハラダカグモも体は金色であるが、キイロハラダカグモの腹部は上方にかなり盛り上がっている点で容易に区別できる。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），韓国，中国。

ヒメアシナガグモ属
Dyschiriognatha

頭胸部はやや長く，胸板は各歩脚の基節間を割って背甲とつながっている。腹部は上方から見て縦長の楕円形，気管気門は出糸突起と生殖器の中間にある。キチン化の進んだ外雌器は形成されない。

本属の系統的な位置については，今後の研究課題であるが，アシナガグモ属，アゴブトグモ属ならびに *Glenognatha* 属（日本には生息していない）などと近縁であると思われる。

世界では約 10 種が，エチオピア区，東洋区，旧北区，新熱帯区から記載されている。日本には次の 1 種のみが生息する。

ミナミヨツボシヒメアシナガグモ
Dyschiriognatha dentata Zhu & Wen 1978
(図 364-365, 812-814)

体長：雌 2.5~3.0mm，雄 2.5mm 前後。背甲は褐色あるいは暗褐色。腹部上面は銀斑を伴った褐色で，2~3 対の黒斑がある。本種はヨツボシヒメアシナガグモと似ており，雌では区別がやや難しいが雄では触肢の形態によって容易に見分けられる。ミナミヨツボシヒメアシナガグモでは触肢の盾板が大きくふくらんでおり（図 814 棒線部），指示器の先端近くに鋸歯状の構造がよく目立つ（図 814 破線部）。これに対してヨツボシヒメアシナガグモでは盾板の

ふくらみかたが弱い（図 817 棒線部）。雌雄とも色彩においては，ミナミヨツボシヒメアシナガグモでは背甲がほぼ一様な色彩であるのに対して，ヨツボシヒメアシナガグモでは赤褐色の地に正中部だけが黒褐色であることで目安をつけられる。分布：日本（薩南諸島，沖縄諸島，大東諸島，八重山諸島），パングラデッシュ，タイ，マレーシア，台湾，中国。

アゴブトグモ属
Pachygnatha

アゴブトグモ属は，*Glenognatha* 属（日本には生息していない）と姉妹群の関係にある。共有派生形質は出糸突起の中疣にヌビン（出糸管の痕跡であるこぶ）がないことであるが，この形質は微細なので電子顕微鏡でなくては確認することができない。

世界では約 35 種がエチオピア区，東洋区，旧北区，新北区から記載されている。日本には次の 3 種が生息する。

ヨツボシヒメアシナガグモ
Pachygnatha quadrimaculata (Bösenberg & Strand 1906)
(図 366-367, 815-817)

体長：雌 2.5~3.0mm 雄 2.0~2.5mm。背甲は赤褐色で頭部および胸部正中部は黒褐色。腹部上面は銀斑を伴った赤褐色で，正中部と側部は黄褐色，赤褐色の部分に 2~3 対の黒斑がある。ミナミヨツボシヒメアシナガグモとの見分け方はミナミヨツボシヒメアシナガグモの項目を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），韓国，中国。

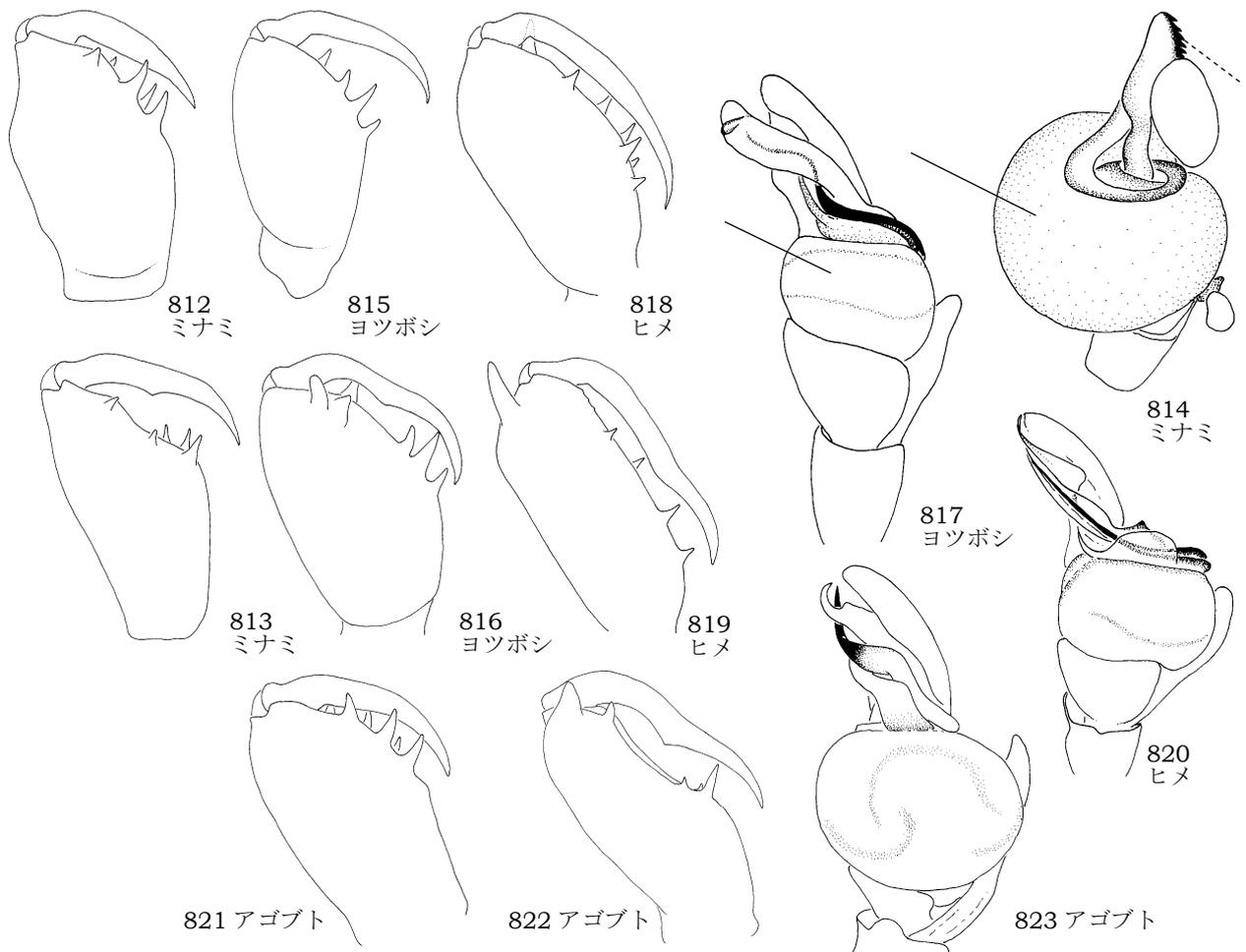


図 812-823. 812-814, ミナミヨツボシヒメアシナガグモ *Dyschiriognatha dentata*; 815-817, ヨツボシヒメアシナガグモ *Dyschiriognatha quadrimaculata*; 818-820, ヒメアシナガグモ *Dyschiriognatha tenera*; 821-823, アゴブトグモ *Pachygnatha clercki*. 812, 815, 818, 821, 雌左上顎上面 female left chelicera, upper; 813, 816, 819, 822, 雄左上顎上面 male left chelicera, upper; 814, 817, 820, 823, 雄左触肢 male left palp.

ヒメアシナガグモ

Pachygnatha tenera Karsch 1879

(図 368-369, 818-820)

体長：雌 2.5~3.0mm, 雄 2.0~2.5mm. 背甲は暗褐色. 腹部上面は褐色で, 銀斑と黒斑がある. 本種は色彩斑紋によって同属の他種から容易に見分けられる. 分布：日本 (本州, 四国, 九州), 韓国, 中国.

アゴブトグモ

Pachygnatha clercki Sundevall 1823

(図 370-371, 821-823)

体長：雌 5.0~6.0mm, 雄 5.0~6.0mm. 背甲は褐色で正中部と周辺部に暗褐色の斑紋がある. 腹部上面は明褐色で, 側方にはそれぞれ暗褐色の縦斑があり, その外側は明色となる. 本種は外形, 色彩, 斑紋によって他種から容易に見分けられる. 分布：日本 (北海道, 本州), 旧北区, 新北区に広く分布する.

アシナガグモ属

Tetragnatha

上顎が大きく, 前方に突出している. 腹部が細長く, 多数の銀色の小斑があり, 緑色を帯びるものもいる. 外雌器は形成されない. 雄触肢の移精針は指示器に包まれており, 盾は球状に膨らんでいる. 本属のクモ類は類似したものが多く, 同定には注意が必要である.

アシナガグモ属は *Glenognatha* 属とアゴブトグモ属からなる単系統群の姉妹群である. 共有派生形質は, 側眼が離れていること, 後側眼にタペータムがないことである.

世界中からおおよそ 300 種が記載されている. 日本に確実に生息するのは次の 21 種である.

以下の記述における体長は, 上顎の部分を含まない. また, 同定のキーとなる上顎の牙堤歯の状態は成体でないと認識できない.

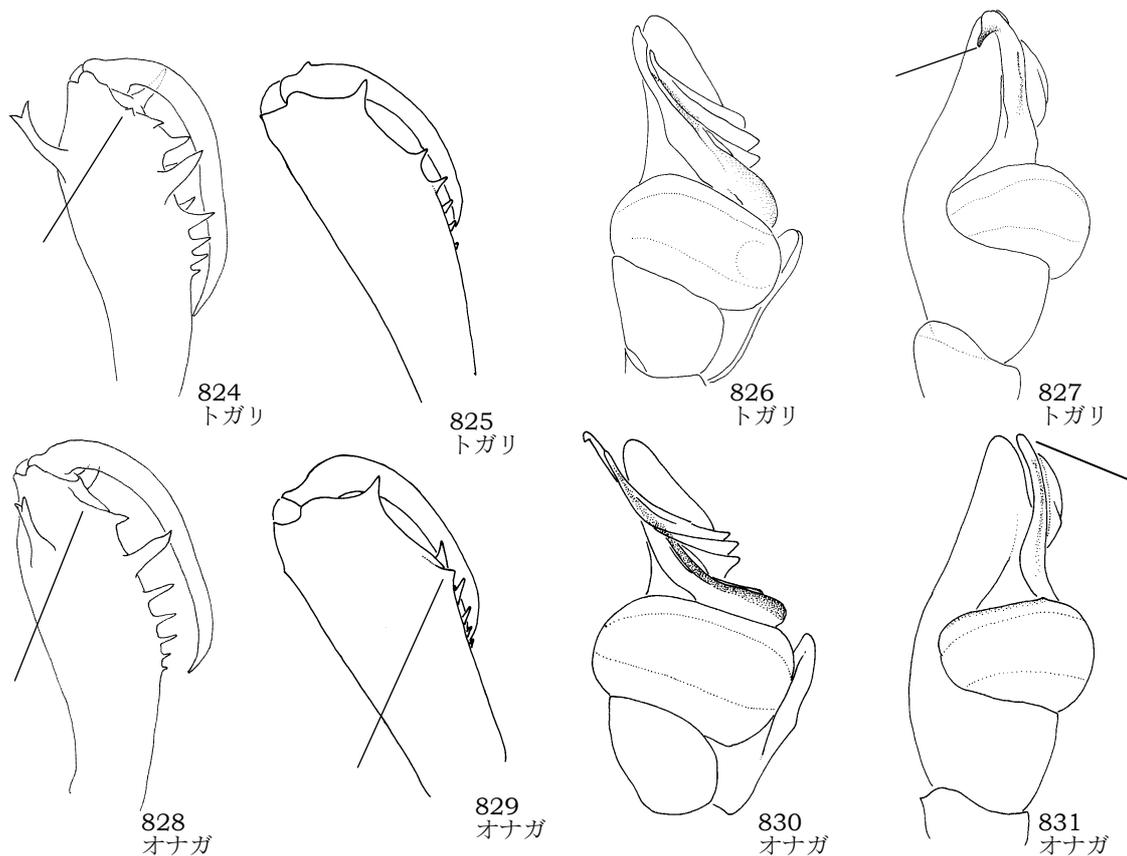


図 824-831. 824-827, トガリアシナガグモ *Tetragnatha caudicula*; 828-831; オナガアシナガグモ *Tetragnatha javana*. 824, 828, 雄左上顎上面 male left chelicera, upper; 825, 829, 雌左上顎上面 female left chelicera, lower; 826-827, 830-831, 雄左触肢 male left palp.

トガリアシナガグモ

Tetragnatha caudicula (Karsch 1879)

(図 372, 824-827)

体長：雌 8.0~15.0mm, 雄 6.0~11.0mm. 後眼列は前眼列よりも短い. 側眼間は中眼間よりも広い. 腹部後端は糸疣を越えて後方にとがる. 本種はオナガアシナガグモと大変よく似ていて区別はたいへん難しい. 多くの場合, トガリアシナガグモでは糸疣が腹部中央よりも後方にあり, オナガアシナガグモでは糸疣が腹部のほぼ中央にあることで見分けられるが, 糸疣の位置には個体によって変異が見られるので注意が必要である. トガリアシナガグモの雄触肢の指示器の先端にははっきりとした折り返しがあるのが認識できるが (図 827 棒線部), オナガアシナガグモではわずかに折り返してはいるもののさほどめだたない (図 831 棒線部). 雄の上顎を上から見たときの先端近くの牙堤歯の形状 (図 824, 828 棒線部) や, 雌の上顎を上から見たときの中央付近の突起 (図 829 棒線部) の有無によっても見分けられる. 分布：日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 韓国, 中国.

オナガアシナガグモ

Tetragnatha javana Thorell 1890

(図 373-376, 828-831)

体長：雌 7.5~12.0mm, 雄 6.5~11.0mm. 後眼列は前眼列よりも短い. 側眼間は中眼間よりも広い. 腹部後端は糸疣を越えて後方にとがる. 本種はトガリアシナガグモに似る. 両種の区別点はトガリアシナガグモの項目を参照. 分布：日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 八重山諸島), アフリカから日本まで広く分布する.

チョコアシナガグモ

Tetragnatha bituberculata L. Koch 1867

(図 377, 832-834)

体長：雌 7.0~8.0mm, 雄 7.0mm 前後. 後眼列は前眼列よりも長い. 側眼間は中眼間より狭い. 前中眼間は後中眼間よりも狭い. 腹部は中央付近で幅広く, 後方は先細りとなり, 後端はややとがって終わる. 腹部のもっとも幅広の部分は上方に膨らんでいる場合が多い. ただしこのふくらみは雄では見られず, 雌でも見られない場合がある. 雄触肢の側杯葉の先端は丸みを帯びている. 分布：日本 (西表島),

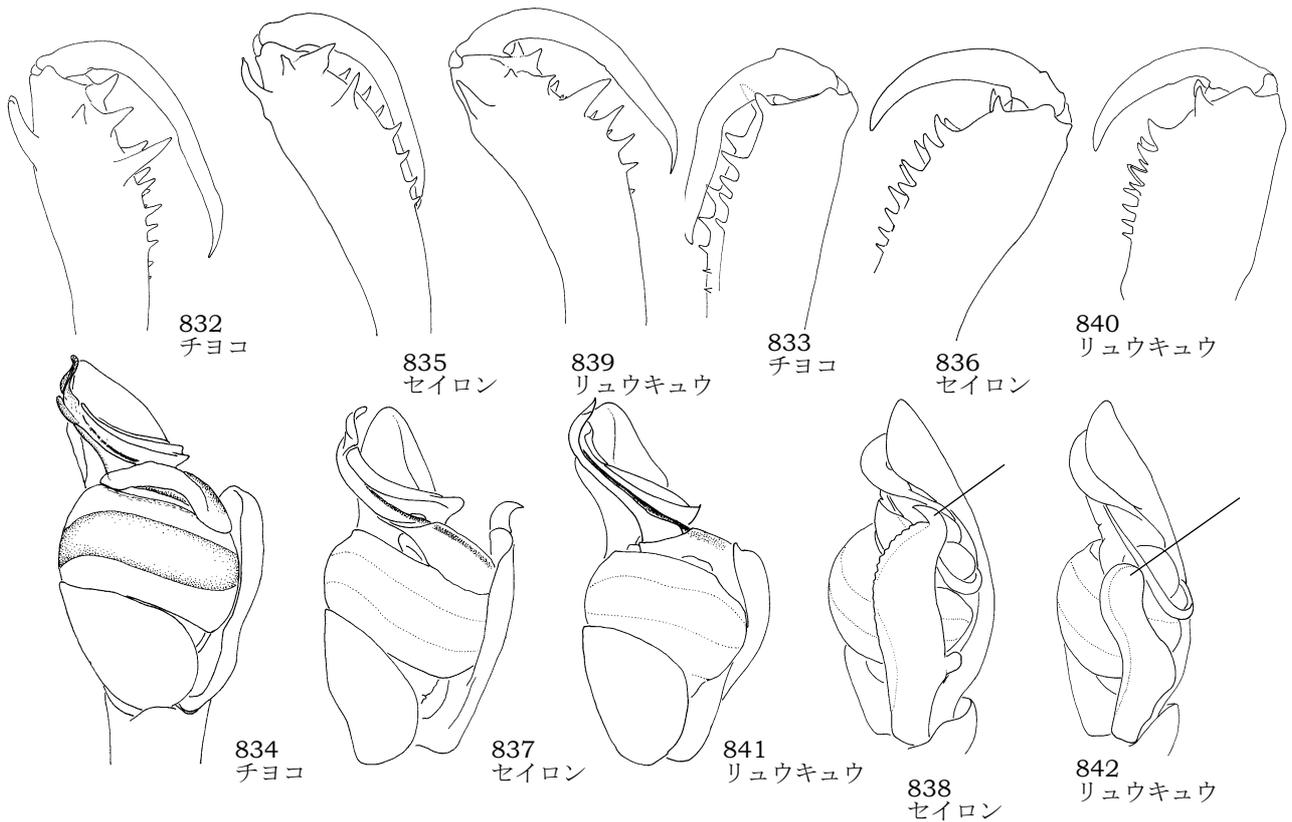


図 832-842. 832-834, チョコアシナガグモ *Tetragnatha bituberculata*; 835-838, セイロンアシナガグモ *Tetragnatha ceylonica*; 839-842, リュウキュウアシナガグモ *Tetragnatha makiharai*. 832, 835, 839, 雄左上顎上面 male left chelicera, upper; 833, 836, 840, 雌左上顎下面 female left chelicera, lower, 834, 837, 841, 838, 842, 雄左触肢 male left palp. (832-834, Tanikawa 1996 より)

オーストラリア, ニューギニア.

セイロンアシナガグモ

Tetragnatha ceylonica O. P.-Cambridge 1869
(図 378-380, 835-838)

体長: 雌 7.5~12.0mm, 雄 6.5~11.0mm. 後眼列は前眼列よりも長く, 側眼間は中眼間より狭い. 前中眼間は後中眼間よりも狭い. 本種はリュウキュウアシナガグモときわめてよく似る. 雄では本種の側杯葉の先端に鉤爪状の突起がある(図 838 棒線部)のに対して, リュウキュウアシナガグモの側杯葉の先端にはそのような突起はなく, 丸く終わる(図 842 棒線部)ことによって容易に見分けられる. しかし, 雌では両者は見分けられない. 分布: 日本(八重山諸島), ニューギニア, タイ, フィリピン, 台湾.

リュウキュウアシナガグモ

Tetragnatha makiharai Okuma 1977
(図 381-383, 839-842)

体長: 雌 6.0~6.5mm, 雄 6.5~8.5mm. 後眼列は前眼列よりも長い. 側眼間は中眼間より狭い. 前中眼間は後中眼間よりも狭い. 本種はセイロンアシナガグモときわめて似る. 両者の区別点はセイロン

アシナガグモの項目を参照. 分布: 日本(対馬, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島).

アシナガグモ

Tetragnatha praedonia L. Koch 1878
(図 384-385, 843-845)

体長: 雌 8.0~14.0mm, 雄 5.0~12.0mm. 後眼列は前眼列よりもわずかに長く, 側眼間は中眼間よりもやや狭い. 上顎の牙の基部には突起がある. 雌の上顎上面の前方に基部が大きく膨らんだ牙堤歯がある(図 844 棒線部)ことと, 雄触肢の指示器の先端の形態(図 845 棒線部)とが同定のポイントである. 分布: 日本(北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 宮古諸島, 八重山諸島), 台湾, 韓国, 中国.

シナノアシナガグモ

Tetragnatha shinanoensis Okuma & Chikuni
1978
(図 386, 846-848)

体長: 雌 6.0~7.5mm, 雄 5.0~6.0mm. 前眼列と後眼列の長さはほぼ等しく, ほとんど平行に配列している. 腹部腹面は全面黒褐色であり, 腹部側面

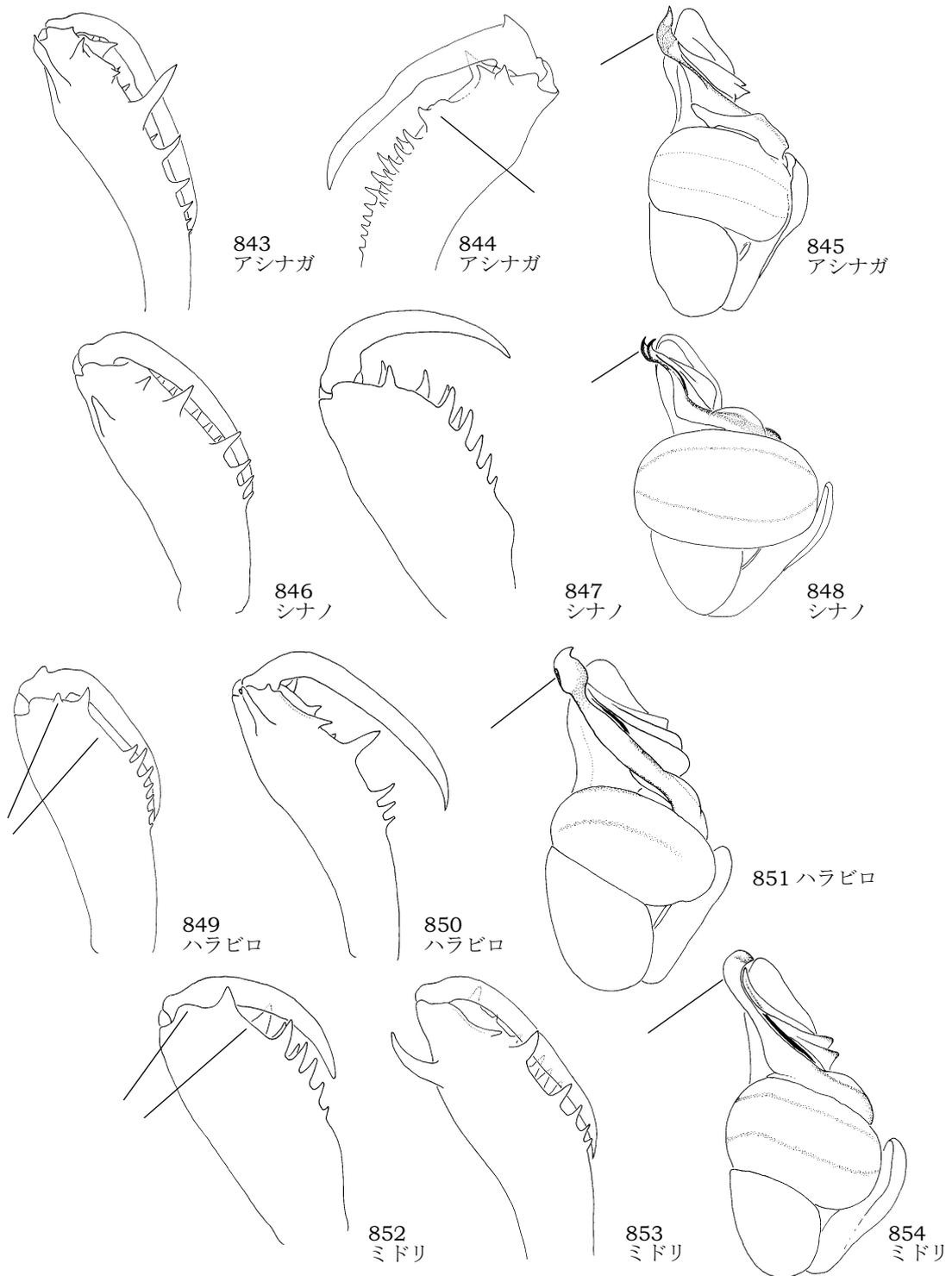


図 843-854. 843-845, アシナガグモ *Tetragnatha praedonia*; 846-848, シナノアシナガグモ *Tetragnatha shinanoensis*; 849-851, ハラビロアシナガグモ *Tetragnatha extensa*; 852-854, ミドリアシナガグモ *Tetragnatha pinicola*. 843, 846, 850, 853, 雄左上顎上面 male left chelicera, upper; 844, 雌左上顎下面 female left chelicera, lower; 847, 849, 852, 雌左上顎上面 same, upper; 845, 848, 851, 854, 雄左触肢 male left palp.

は鮮やかな銀色である。腹部の側面の鮮やかな色彩と、雄触肢の指示器先端が二分していること(図 848 棒線部)が同定のポイントである。分布：日本(本州, 九州)。

ハラビロアシナガグモ
Tetragnatha extensa (Linnaeus 1758)
(図 387-389, 849-851)

体長：雌 7.5~12.0mm, 雄 5.0~9.0mm. 前眼列と後眼列の長さはほぼ等しく、ほとんど平行に配

列する。本種はミドリアシナガグモに似る。本種の腹部背面後方には対になる黒点がないが、ミドリアシナガグモでは対になる黒点があることでおおよそ見分けられる。詳しくは雄触肢の指示器の先端の形態（図 851, 854 棒線部）と雌の上顎上面の牙堤歯の状態（図 849, 852 棒線部）とが同定のポイントとなる。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），旧北区，新北區に広く分布する。

ミドリアシナガグモ

Tetragnatha pinicola L. Koch 1870

(図 390, 852-854)

体長：雌 6.5~9.5mm, 雄 4.0~8.0mm. 前眼列と後眼列の長さはほぼ等しく、ほとんど平行に配列する。ハラビロアシナガグモとの区別点は前項を参照。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），旧北区に広く分布する。

タニカワアシナガグモ

Tetragnatha tanigawai Okuma 1988

(図 391-393, 855-856)

体長：雌 5.0~6.0mm, 雄 4.5~5.0mm. 生時の体色は金属光沢を伴った緑色で、液浸標本では黄褐色となる。腹部後端には 1 対の黒点がある。雄触肢の指示器（図 856 棒線部）は先のほうが曲がり、側面にはひだがなく、基部付近は曲線を描いて突出する（図 856 破線部）。雄上顎下面の先端付近に大きな歯があり、そのすぐ先にわずかに隔たって小さな歯がある（図 855 棒線部）。本種はエゾアシナガグモやウロコアシナガグモに似ており、雄では先に述べた点で見分けられるが、雌では腹部後端に 1 対の黒点がある以外はっきりとした差異がなく、識別困難である。分布：日本（トカラ列島，奄美諸島，沖縄諸島，八重山諸島）。

エゾアシナガグモ

Tetragnatha yesoensis S. Saito 1934

(図 394-395, 857-858)

体長：雌 5.5~7.0mm, 雄 4.0~7.5mm. 生時の体色は金属光沢を伴った緑色で、液浸標本では黄褐色となる。雄触肢の指示器（図 858 棒線部）は先のほうが曲がり、側面にはひだがない。雄上顎下面の先端のほうにはよく発達した大きな歯がある（図 857 棒線部）。雌での同定は困難である。分布：日本（北海道，本州，四国，九州），韓国。

ウロコアシナガグモ

Tetragnatha squamata Karsch 1879

(図 396-398, 859-860)

体長：雌 4.0~6.0mm, 雄 3.0~5.5mm. 生時の

体色は金属光沢を伴った緑色で、液浸標本では黄褐色となる。雄では腹部背面の前方と後方に赤色の斑紋があるが、液浸標本では退色する。雄触肢の指示器（図 860 棒線部）はまっすぐで、側面にはひだがない。雄上顎下面の先端付近に大きな歯があり（図 859 棒線部）、そのすぐ先にわずかに隔たって小さな歯がある。雌での同定は困難である。分布：日本（北海道，本州，四国，九州，沖縄諸島，宮古諸島，八重山諸島），台湾，韓国，中国。

シコクアシナガグモ

Tetragnatha vermiformis Emerton 1884

(図 399-400, 861-864)

体長：雌 6.5~10.5mm, 雄 5.0~9.5mm. 腹部背面はほぼ無地の黄緑色がかった銀色である。雄上顎の牙のほぼ中央に小突起があることと側杯葉（図 864）の形態が同定のポイントとなる。分布：日本（本州，四国，九州），南アフリカ，バングラデッシュ，インド，スリランカ，ビルマ（ミャンマー），タイ，マレーシア，中国，韓国，アメリカ合衆国，パナマ。

ヒルギアシナガグモ

Tetragnatha chauliodus (Thorell 1890)

(図 401-402, 865-867)

体長：雌 8.5~12.0mm, 雄 6.0~10.0mm. 前眼列と後眼列の長さはほぼ等しい。腹部はたいへん細長い。本種は、腹部が細長いことによって日本産の同属他種からは容易に見分けられる。分布：日本（八重山諸島），ビルマ（ミャンマー），タイ，マレーシア，シンガポール，ニューギニア，フィリピン，台湾。

キヌアシナガグモ

Tetragnatha lauta Yaginuma 1959

(図 403, 868-869)

体長：雌 4.5~6.0mm, 雄 3.5~4.5mm. 後眼列の長さは前眼列よりもわずかに短く、両側眼間は両中眼間よりも狭い。腹部上面は、正中部が暗褐色でその両側は金属光沢を伴う淡緑色、また、背甲も正中部が暗褐色、側部が金属光沢を伴った淡緑色である。日本産のアシナガグモ属で背甲に金属光沢があるのは本種だけである。また、本種は、縦糸が 4 本しかなく、ワク糸のない特徴的な網を張る。分布：日本（本州，四国，九州，奄美諸島，沖縄諸島），香港，台湾，韓国。

オオアシナガグモ

Tetragnatha mandibulata Walckenaer 1841

(図 404-405, 870-873)

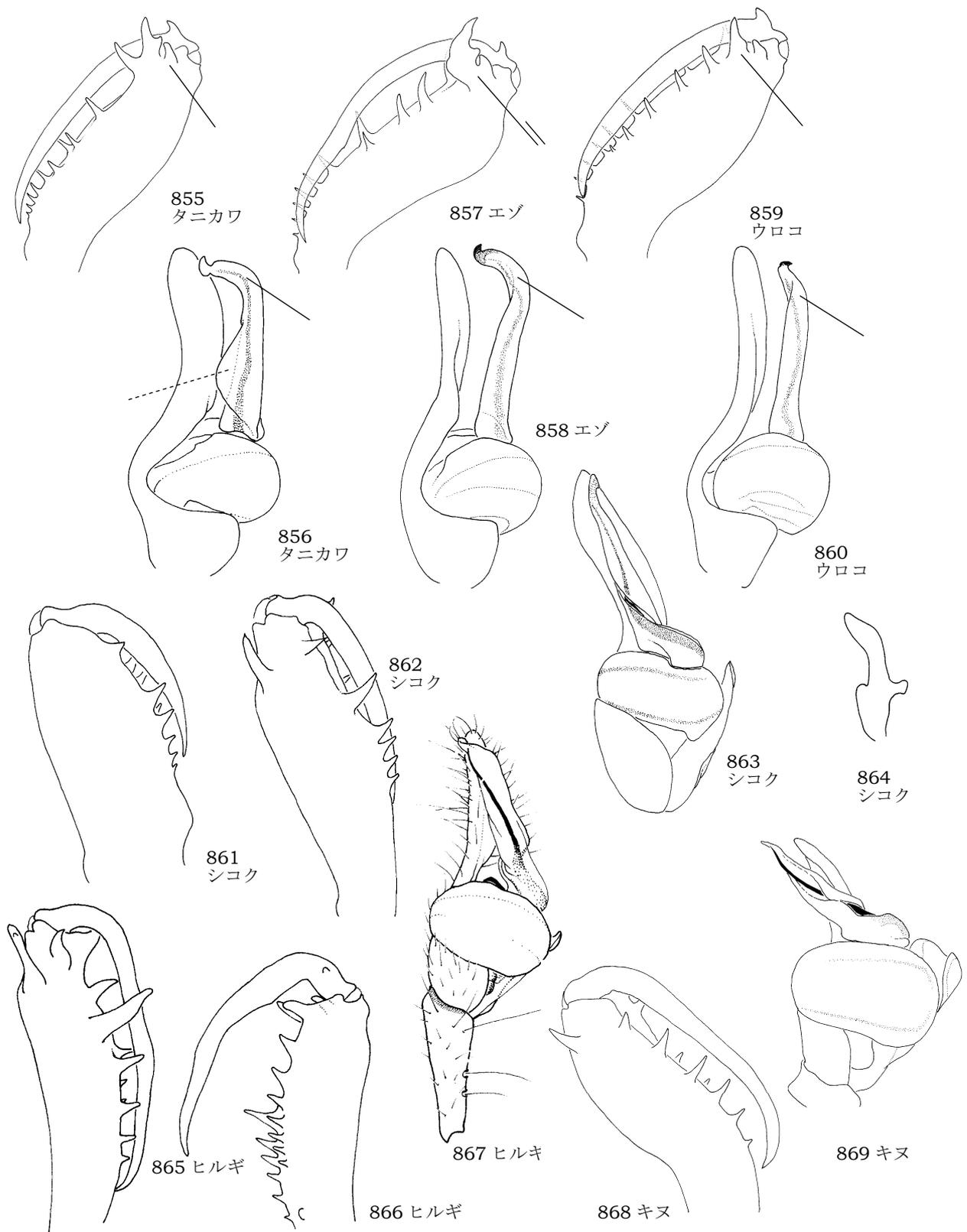


図 855-869. 855-856, タニカワアシナガグモ *Tetragnatha tanigawai*; 857-858, エゾアシナガグモ *Tetragnatha yesoensis*; 859-860, ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata*; 861-864, シコクアシナガグモ *Tetragnatha vermiformis*. 865-867, ヒルギアシナガグモ *Tetragnatha chauliodus*; 868-869, キヌアシナガグモ *Tetragnatha lautia*. 855, 857, 859, 雄左上顎下面 male chelicera, lower; 856, 858, 860, 863, 867, 869, 雄左触肢 male left palp. 861, 雌左上顎上面 female left chelicera, upper; 862, 865, 868, 雄左上顎上面 male left chelicera, upper; 864, 雄左触肢側杯葉 male left palpal paracymbium; 866, 雌左上顎下面 female left chelicera, lower. (865-866, 谷川 1990 より)

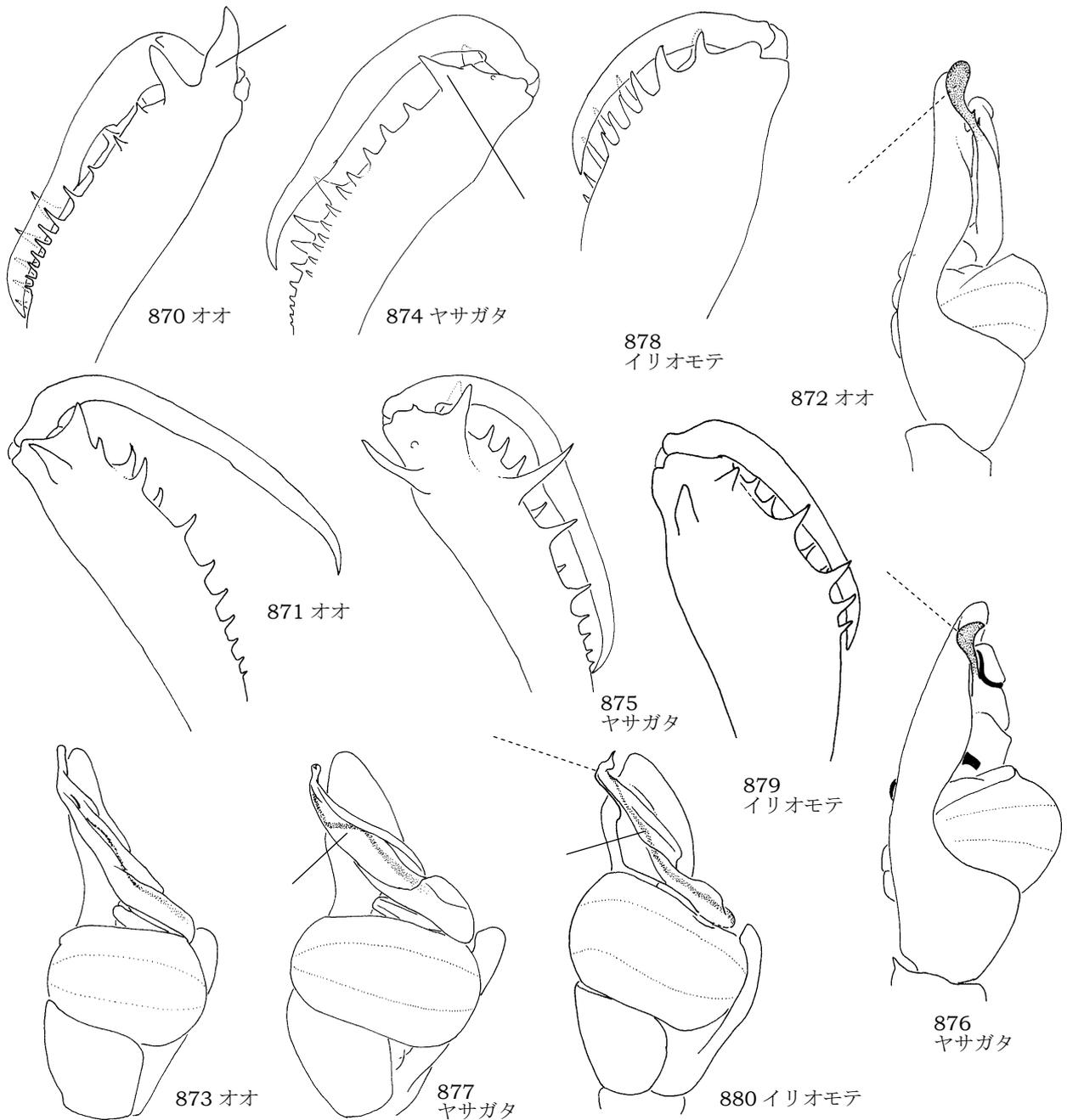


図 870-880. 870-873, オオアシナガグモ *Tetragnatha mandibulata*; 874-877, ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa*; 878-880, イリオモテアシナガグモ *Tetragnatha iriomotensis*. 870, 874, 878, 雌左上顎下面 female left chelicera, lower; 871, 875, 879, 雄左上顎上面 male left chelicera upper; 872-873, 876-877, 880, 雄左触肢 male left palp.

体長：雌 8.0~13.5mm, 雄 8.5~12.0mm. 前眼列と後眼列の長さはほぼ等しい。雌の上顎下面の先端に前方に向けて突出する大きな歯がある (図 870 棒線部)。雄触肢の指示器の先端はよくキチン化し濃色に着色しており平たく丸みを帯びる (図 872 破線部)。分布：日本 (奄美諸島, 大東諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島), 西アフリカ, ネパール, バングラデッシュ, タイ, マレーシア, インドネシア, フィリピン, 台湾, 中国, オーストラリア, ポリネシア。

ヤサガタアシナガグモ

Tetragnatha maxillosa Thorell 1895

(図 406-409, 874-877)

体長：雌 7.0~13.5mm, 雄 4.0~10.0mm. 腹部上面には対になる黒点がある。本種はイリオモテアシナガグモに似るが、次の特徴で区別できる。ヤサガタアシナガグモでは雌の上顎下面の先端に横向き大きな歯があるが (図 874 棒線部), イリオモテアシナガグモではそのような大きな歯はない。ヤサ

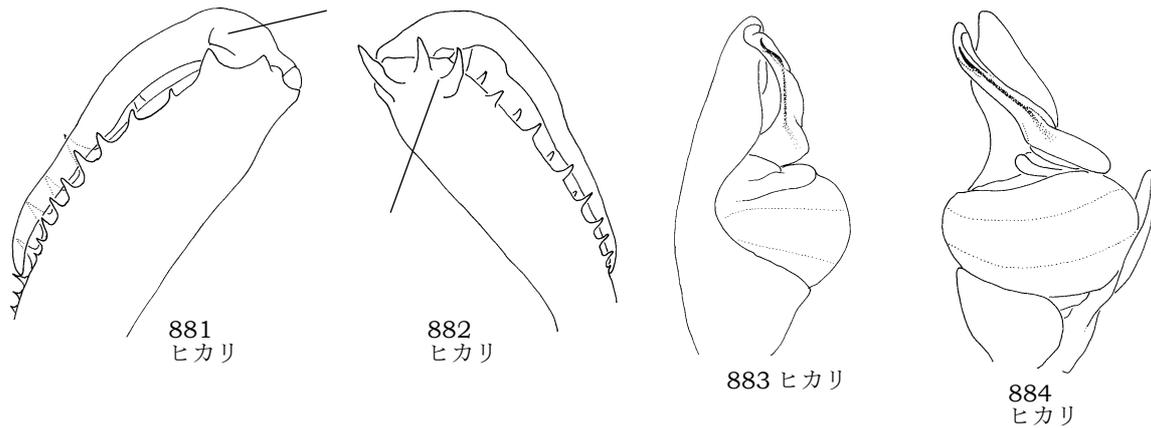


図 881-884. ヒカリアシナガグモ *Tetragnatha nitens*. 881, 雌左上顎下面 female left chelicera, lower ; 882, 雄左上顎上面 male left chelicera upper ; 883-884, 雄左触肢 male left palp.

ガタアシナガグモでは雄触肢の移精針がらせん状にうねるが (図 877 棒線部), イリオモテアシナガグモの移精針はあまり強く曲がらない (図 880 棒線部). また, ヤサガタアシナガグモの雄触肢の指示器の先端は着色しハゲタカの頭状をしているが (図 876 破線部), イリオモテアシナガグモではそのような形態はしていない (図 880 破線部). 分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州, 薩南諸島, トカラ列島, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 八重山諸島), アフリカから東アジア, ニューギニア.

イリオモテアシナガグモ

Tetragnatha iriomotensis Okuma 1991

(図 410-411, 878-880)

体長: 雌 8.0~8.5mm, 雄 6.5~7.0mm. 腹部上面に対になる黒点があり, 一見ヤサガタアシナガグモに似る. 両者の区別点はヤサガタアシナガグモの項目を参照. 分布: 日本 (奄美諸島, 沖縄諸島, 八重山諸島).

ヒカリアシナガグモ

Tetragnatha nitens (Audouin 1827)

(図 412-414, 881-884)

体長: 雌 8.5~12.0mm, 雄 7.5~11.0mm. 雌では上顎の牙の根元の下面に大きな歯状の突起があること (図 881 棒線部), 雄では上顎上面の先端付近

に特徴的な形の 2 つの牙堤歯があること (図 882 棒線部) が同定のポイントとなる. 分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島, 大東諸島, 八重山諸島), 世界中の熱帯, 亜熱帯地域.

アシナガグモ属のクモ類としては, 以上のほか小笠原諸島から次の 2 種が知られる.

オガサワラアシナガグモ

Tetragnatha boninensis Okuma 1981

体長: 雌 6.0~6.5mm, 雄 5.0~6.5mm. 後眼列は前眼列よりも長く, 側眼間は中眼間より狭い. 前中眼間は後中眼間よりも狭い. 雄触肢の側杯葉は全体的に矩形. 腹部は中央付近が幅広く, その部分は上方にも盛り上がる. 分布: 日本 (小笠原諸島).

トゲナガアシナガグモ

Tetragnatha laqueata L. Koch 1871

体長: 雌 6.0~6.5mm, 雄 5.0~6.5mm. 後眼列は前眼列よりも明らかに短く, 両側眼間は両中眼間よりも広い. 雌雄とも上顎の長さは背甲の長さよりも短い. 生時の体色は金属光沢を伴う緑色で, 液浸標本では黄褐色となる. 雄触肢の指示器の先端は二股に分かれており, 側杯葉の先端は丸みを帯びる. 雄上顎の牙には基部に小突起がある. 分布: 日本 (小笠原諸島), サモア諸島, ソシエテ諸島.

引用文献

References

- Hormiga, G., Eberhard, W. G. & Coddington, J. A. 1995. Web-construction behaviour in Australian *Phonognatha* and the phylogeny of nephiline and tetragnathid spiders (Araneae: Tetragnathidae). *Aust. J. Zool.*, 43:313–364.
- Kuntner, M. 2006. Phylogenetic systematics of the Gondwanan nephilid spider lineage Clitaetrinae (Araneae, Nephilidae). *Zool. Scripta*, 35:19–62.
- Scharff, N. & Coddington, J. A. 1997. A phylogenetic analysis of the orb-weaving spider family Araneidae (Arachnida, Araneae). *Zool. J. Kinn. Soc., London*, 120:355–434.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男 2006. 県別クモ類分布図 ver.2006b. 著者自刊 CD.
- Tanikawa, A. 1989. Japanese spiders of the genus *Larinia* Simon (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 38:31–47.
- 谷川明男. 1990. 日本新記録種 *Tetragnatha chauliodus* (Thorell, 1890) および *Leucauge decorara* (Blackwall, 1864) について. *Atypus*, 95:8–13.
- Tanikawa, A. 1991a. New record of *Arachnura melanura* Simon, 1867 (Araneae: Araneidae), from Japan, with the first description of the male. *Acta Arachnol.*, 40:11–15.
- Tanikawa, A. 1991b. A new species of the genus *Dolichognatha* (Araneae: Tetragnathidae) from Iriomotejima Island, Southwest Japan. *Acta Arachnol.*, 40:37–41.
- Tanikawa, A. 1992a. A revisional study of the Japanese spiders of the genus *Cyclosa* Menge (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 41:11–85.
- Tanikawa, A. 1992b. A revision of the Japanese spiders of the genus *Metleucauge* Levi, 1980 (Araneae: Tetragnathidae). *Acta Arachnol.*, 41:161–175.
- Tanikawa, A. 1992c. A description of the male of *Cyclosa onoi* Tanikawa, 1992 (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 23:199–202.
- Tanikawa, A. 1993. A new species of the genus *Meta* (Araneae: Tetragnathidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 42:97–101.
- Tanikawa, A. 1994a. A taxonomical study of the Japanese spider hitherto misidentified with *Argiope keyserlingi* (Karsch, 1878) or *A. aetherea* (Walckenaer, 1841). *Acta Arachnol.*, 43:33–36.
- Tanikawa, A. 1994b. A new species of the spider genus *Meta* C. L. Koch, 1836 (Araneae: Tetragnathidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 43:65–69.
- Tanikawa, A. 1994c. A new species of the spider genus *Aculepeira* (Araneae: Araneidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 43:179–182.
- Tanikawa, A. 1995a. A revision of the Japanese spiders of the genus *Araniella* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 44:51–60.
- Tanikawa, 1995b. A. Two new species of the spider genus *Diphya* (Araneae: Tetragnathidae) from Japan and Taiwan, with notes on the known species. *Acta Arachnol.*, 44:101–111.
- Tanikawa, A. 1996. New records of *Tetragnatha bituberculata* (Araneae: Tetragnathidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 45:151–155.
- Tanikawa, A. 1997a. A description of the male of *Cyclosa angusta* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 46:29–31.
- Tanikawa, A. 1997b. Japanese spiders of the genus *Ordgarius* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 46:101–110.
- Tanikawa, A. 1998. A revision of the Japanese spiders of the genus *Neoscona* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 47:133–168.
- Tanikawa, A. 1999. Japanese spiders of the genus *Eriovixia* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 48:41–48.
- Tanikawa, A. 2000a. Japanese spiders of the genus *Eriophora* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 49:17–28.
- Tanikawa, A. 2000b. Occurrence of *Larinia bonneti* (Araneae: Araneidae) in Japan. *Acta Arachnol.*, 49:205–207.
- Tanikawa, A. 2001a. *Okileucauge sasakii*, a new genus and species of spider from Okinawajima Island, southwest Japan (Araneae, Tetragnathidae). *J. Arachnol.* 29: 16–20.
- Tanikawa, A. 2001b. Twelve new species and one newly recorded species of the spider genus *Araneus* (Araneae: Araneidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 50:63–86.
- Tanikawa, A. 2002. Japanese spider of the genus *Zygiella* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 51:105–107.

- Tanikawa, A. 2004a. A description of the male of *Araneus ogatai* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 53:57–58.
- Tanikawa, A. 2004b. The first record of *Zygiella x-notata* (Araneae: Araneidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 53:61–62.
- Tanikawa, A. 2004c. Japanese spiders of the genus *Tylorida* (Araneae: Tetragnathidae). *Acta Arachnol.*, 53:151–154.
- Tanikawa 2006a. Rediscovery of *Cnodalia halpax* (Araneae: Araneidae) after an interval of 116 years. *Acta Arachnol.*, 55:21–22.
- Tanikawa, A. 2006b. Identity of a Japanese spider species recorded as “*Pasilobus bufoninus*” (Araneae: Araneidae), with a description of the male considering the sequence of mtDNA. *Acta Arachnol.*, 55:45–49.

和名索引
Index
[Japanese names]

ア

アオオニグモ	26, 84
アカアシオニグモ	22, 72
アカイトリノフンダマシ	9, 49
アカオニグモ	25, 82
アゴブトグモ	36, 104
アゴブトグモ属	103
アシナガグモ	37, 106
アシナガグモ属	104
アズミグモ属	96
アマミオニグモ	19, 68

イ

イエオニグモ	19, 68
イシサワオニグモ	26, 83
イセキグモ属	51
イリオモテアシナガグモ	40, 111
イリオモテオニグモ	28, 87

ウ

ウロコアシナガグモ	38, 108
-----------	---------

エ

エゾアシナガグモ	38, 108
----------	---------

オ

オオアシナガグモ	39, 108
オオクマギンメッキゴミグモ	64
オオクマヒメドヨウグモ	32, 96
オオクマヤミイロオニグモ	25, 82
オオジョロウグモ	31, 94
オオシロカネグモ	34, 101
オオスミコガネグモ	8, 47
オオドヨウグモ属	98
オオトリノフンダマシ	9, 48
オオハラダカグモ	34, 100
オガサワラアシナガグモ	111
オガサワラゴミグモ	15, 60
オガタオニグモ	28, 89
オナガアシナガグモ	37, 105
オニグモ	24, 78
オニグモ属	77
オノゴミグモ	13, 58
オヒキグモ属	42

カ

カギヅメカラスゴミグモ	15, 61
カタハリオニグモ属	65
カナエグモ属	42
カラオニグモ	27, 86
カラスゴミグモ	15, 60
カラフトオニグモ	17, 67

キ

キイロハラダカグモ	34, 100
キオヒキグモ	6, 42
キザハシオニグモ	23, 76
キジロオヒキグモ	6, 42
キジロゴミグモ	13, 58
キタグニオニグモ	25, 83
キタコガネグモダマシ	23, 74
キタドヨウグモ	33, 100
キタマメオニグモ	27, 87
キヌアシナガグモ	39, 108
キヌアミグモ	6, 42
キバナオニグモ	25, 81
キララシロカネグモ	35, 102
キレアミグモ属	54
キンカタハリオニグモ	17, 67
ギンナガゴミグモ	16, 64
ギンメッキゴミグモ	16, 64
キンヨウグモ	32, 96

ク

クマダギンナガゴミグモ	16, 64
-------------	--------

ケ

ゲホウグモ	30, 92
ゲホウグモ属	91

コ

コウモリオニグモ	13, 56
コオニグモモドキ	28, 89
コオニグモモドキ属	89
コガタコガネグモ	8, 47
コガネオニグモ	24, 78
コガネグモ	8, 46
コガネグモ属	44
コガネグモダマシ	22, 72
コガネグモダマシ属	72
コケオニグモ	24, 78

コゲチャオニグモ	21, 72
コシロカネグモ	35, 102
コブオニグモ属	76
ゴマジロオニグモ	28, 89
ゴマジロオニグモ属	89
コミオニグモ	28, 89
ゴミグモ	13, 56
ゴミグモ属	56

サ

サガオニグモ	17, 65
サカグチトリノフンダマシ	10, 50
サカグチトリノフンダマシ属	49
サキエダオニグモ	29, 91
ササキグモ	33, 100
ササキグモ属	100
サツマノミダマシ	20, 70
サンロウドヨウグモ	32, 97

シ

シコクアシナガグモ	39, 108
シナノアシナガグモ	38, 106
シマゴミグモ	13, 58
ジャノメグモ属	55
ショウジョウグモ属	53
ジョロウグモ	31, 94
ジョロウグモ属	94
シロオビトリノフンダマシ	9, 49
シロカネグモ属	100
シロゴミグモ	15, 61
シロスジショウジョウグモ	12, 54

ス

ズグロオニグモ	30, 93
ズグロオニグモ属	93
スズミグモ	6, 43
スズミグモ属	42
ズナガドヨウグモ	32, 96
ズナガドヨウグモ属	96

セ

セイロンアシナガグモ	37, 106
セキグチコガネグモダマシ	23, 74

タ

タイリクキレアミグモ	12, 55
タカネオニグモ属	74
タニカワアシナガグモ	38, 108
タニマノドヨウグモ	33, 99
ダンダラオニグモ	23, 76

チ

チクニドヨウグモ	33, 98
チビクロドヨウグモ	32, 97
チビシロカネグモ	35, 102
チブサトゲグモ	11, 52
チブサトゲグモ属	52
チュウガタコガネグモ	8, 46
チュウガタシロカネグモ	34, 101
チュウオニグモ	26, 84
チョコアシナガグモ	37, 105

ツ

ツキジグモ属	50
ツシマトリノフンダマシ	10, 50
ツツゲホウグモ	30, 91
ツノオニグモ	24, 78
ツメナガオニグモ	29, 89
ツメナガオニグモ属	89

ト

トガリアシナガグモ	36, 105
トガリオニグモ	29, 90
トガリオニグモ属	90
トガリシロカネグモ	35, 102
トガリハナオニグモ	17, 65
トゲグモ	11, 52
トゲグモ属	52
トゲゴミグモ	15, 61
トゲナガアシナガグモ	111
ドヨウオニグモ	19, 68
ドヨウグモ属	97
トリノフンダマシ	9, 48
トリノフンダマシ属	48

ナ

ナガコガネグモ	7, 45
ナガテオニグモ	12, 54
ナガテオニグモ属	54
ナガマルコガネグモ	7, 45
ナカムラオニグモ	13, 55
ナカムラオニグモ属	55

ニ

ニシキオニグモ	26, 83
ニワオニグモ	24, 80

ヌ

ヌサオニグモ	27, 86
--------------	--------

ネ

ネッタコガネグモダマシ	22, 73
-------------------	--------

ノ
ノルドマンオニグモ 25, 81

ハ
ハツリグモ 29, 90
ハツリグモ属 90
ハマゴミグモ 15, 61
ハラダカグモ属 100
ハラビロアシナガグモ 38, 107
ハラビロスズミグモ 7, 43
ハラビロミドリオニグモ 26, 83

ヒ
ヒカリアシナガグモ 40, 111
ビジョオニグモ 27, 85
ヒメアシナガグモ 36, 104
ヒメアシナガグモ属 103
ヒメオニグモ属 67
ヒメドヨウグモ属 96
ヒメマルゴミグモ 61
ヒルギアシナガグモ 39, 108

ヘ
ヘリジロオニグモ 19, 69

ホ
ホシスジオニグモ 18, 67
ホシマメオニグモ 28, 88
ボネコガネグモダマシ 23, 74

マ
マツダタカネオニグモ 23, 74
マメイタイセキグモ 10, 51
マメオニグモ 27, 86
マユミオニグモ 25, 81
マルコブオニグモ 23, 77
マルゴミグモ 15, 61
マルヅメオニグモ 26, 83

ミ
ミツカドゴミグモ 15, 61
ミドリアシナガグモ 38, 108
ミナミコガネグモダマシ 22, 74

ミナミノシマゴミグモ 14, 60
ミナミヨツボシヒメアシナガグモ 36, 103

ム
ムシバミコガネグモ 8, 45
ムツトゲイセキグモ 10, 51
ムツボシオニグモ 17, 65
ムツボシオニグモ属 64
ムネグロコガネグモダマシ 23, 74

メ
メガネドヨウグモ 33, 100

ヤ
ヤエンオニグモ 24, 78
ヤサガタアシナガグモ 39, 110
ヤスダオニグモ 21, 72
ヤスダヒメオニグモ 28, 88
ヤセゴミグモ 13, 58
ヤマオニグモ 24, 78
ヤマキレアミグモ 12, 55
ヤマキレアミグモ属 55
ヤマゴミグモ 13, 58
ヤマジドヨウグモ 33, 97
ヤマシロオニグモ 21, 70
ヤマトカナエグモ 6, 42
ヤマトゴミグモ 14, 60
ヤマトジャノメグモ 55
ヤミイロオニグモ 23, 77
ヤミイロオニグモ属 77
ヤンバルオニグモ 17, 67

ヨ
ヨツデゴミグモ 16, 64
ヨツボシショウジョウグモ 11, 53
ヨツボシヒメアシナガグモ 36, 103

リ
リュウキュウアシナガグモ 37, 106
リュウキュウオニグモ 27, 87

ワ
ワキグロサツマノミダマシ 20, 69
ワクドツキジグモ 10, 51

学名索引
Index
[Scientific names]

A

<i>Aculepeira</i>	74
<i>Aculepeira matsudae</i>	23, 74
<i>Acusilas</i>	90
<i>Acusilas coccineus</i>	29, 90
<i>Alenatea</i>	77
<i>Alenatea fuscocolorata</i>	23, 77
<i>Anepsion</i>	55
<i>Anepsion japonicum</i>	55
<i>Arachnura</i>	42
<i>Arachnura logio</i>	6, 42
<i>Arachnura melanura</i>	6, 42
<i>Araneus</i>	77
<i>Araneus acusisetus</i>	25, 82
<i>Araneus alsine</i>	24, 78
<i>Araneus amabilis</i>	26, 84
<i>Araneus borealis</i>	27, 87
<i>Araneus boreus</i>	25, 83
<i>Araneus diadematus</i>	24, 80
<i>Araneus ejusmodi</i>	27, 86
<i>Araneus hoshi</i>	28, 88
<i>Araneus iriomotensis</i>	28, 87
<i>Araneus ishisawai</i>	26, 83
<i>Araneus komi</i>	28, 89
<i>Araneus macacus</i>	24, 78
<i>Araneus marmoreus</i>	25, 81
<i>Araneus mayumiae</i>	25, 81
<i>Araneus mitificus</i>	27, 85
<i>Araneus nojimai</i>	27, 86
<i>Araneus nordmanni</i>	25, 81
<i>Araneus ogatai</i>	28, 89
<i>Araneus pentagrammicus</i>	26, 84
<i>Araneus pinguis</i>	25, 82
<i>Araneus rotundicornis</i>	23, 77
<i>Araneus ryukyuanus</i>	27, 87
<i>Araneus semilunaris</i>	26, 83
<i>Araneus seminiger</i>	24, 78
<i>Araneus stella</i>	24, 78
<i>Araneus tsurusakii</i>	27, 86
<i>Araneus uyemurai</i>	24, 78
<i>Araneus variegatus</i>	26, 83
<i>Araneus ventricosus</i>	24, 78
<i>Araneus viridiventris</i>	26, 83
<i>Araneus yasudai</i>	28, 88

<i>Araniella</i>	64
<i>Araniella displicata</i>	17, 65
<i>Araniella yaginumai</i>	17, 65
<i>Argiope</i>	44
<i>Argiope aemula</i>	7, 45
<i>Argiope aetheroides</i>	8, 45
<i>Argiope amoena</i>	8, 46
<i>Argiope boesenbergi</i>	8, 46
<i>Argiope bruennichi</i>	7, 45
<i>Argiope minuta</i>	8, 47
<i>Argiope ocula</i>	8, 47

C

<i>Chorizopes</i>	42
<i>Chorizopes nipponicus</i>	6, 42
<i>Cnodalia</i>	89
<i>Cnodalia harpax</i>	29, 89
<i>Cyclosa</i>	56
<i>Cyclosa alba</i>	15, 61
<i>Cyclosa angusta</i>	13, 58
<i>Cyclosa argenteoalba</i>	16, 64
<i>Cyclosa atrata</i>	15, 60
<i>Cyclosa confusa</i>	14, 60
<i>Cyclosa ginnaga</i>	16, 64
<i>Cyclosa hamulata</i>	15, 61
<i>Cyclosa japonica</i>	14, 60
<i>Cyclosa kumadai</i>	16, 64
<i>Cyclosa laticauda</i>	13, 58
<i>Cyclosa maritima</i>	15, 61
<i>Cyclosa monticola</i>	13, 58
<i>Cyclosa mulmeinensis</i>	15, 61
<i>Cyclosa norihisai</i>	15, 60
<i>Cyclosa octotuberculata</i>	13, 56
<i>Cyclosa okumae</i>	64
<i>Cyclosa omonaga</i>	13, 58
<i>Cyclosa onoi</i>	13, 58
<i>Cyclosa psylla</i>	61
<i>Cyclosa sachikoe</i>	15, 61
<i>Cyclosa sedeculata</i>	16, 64
<i>Cyclosa vallata</i>	15, 61
<i>Cyrtarachne</i>	48
<i>Cyrtarachne bufo</i>	9, 48
<i>Cyrtarachne inaequalis</i>	9, 48
<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i>	9, 49
<i>Cyrtarachne yunoharuensis</i>	9, 49

<i>Cyrtophora</i>	42
<i>Cyrtophora exanthematica</i>	6, 42
<i>Cyrtophora moluccensis</i>	6, 43
<i>Cyrtophora unicolor</i>	7, 43

D

<i>Diphya</i>	96
<i>Diphya okumae</i>	32, 96
<i>Dolichognatha</i>	96
<i>Dolichognatha umbrophila</i>	32, 96
<i>Dyschiriognatha</i>	103
<i>Dyschiriognatha dentata</i>	36, 103

E

<i>Eriophora</i>	65
<i>Eriophora astridae</i>	17, 65
<i>Eriophora aurea</i>	17, 67
<i>Eriophora sachalinensis</i>	17, 67
<i>Eriophora yanbaruensis</i>	17, 67
<i>Eriovixia</i>	90
<i>Eriovixia pseudocentrodes</i>	29, 90
<i>Eriovixia sakiedaorum</i>	29, 91

G

<i>Gasteracantha</i>	52
<i>Gasteracantha kuhli</i>	11, 52
<i>Gibbaranea</i>	76
<i>Gibbaranea abscissa</i>	23, 76
<i>Gibbaranea bituberculata</i>	23, 76

H

<i>Hypsosinga</i>	53
<i>Hypsosinga pygmaea</i>	11, 53
<i>Hypsosinga sanguinea</i>	12, 54

L

<i>Larinia</i>	72
<i>Larinia argiopiformis</i>	22, 72
<i>Larinia bonneti</i>	23, 74
<i>Larinia fusiformis</i>	22, 73
<i>Larinia jeskovi</i>	23, 74
<i>Larinia onoi</i>	23, 74
<i>Larinia phthisica</i>	22, 74
<i>Larinia sekiguchii</i>	23, 74
<i>Larinioides</i>	55
<i>Larinioides cornutus</i>	13, 55
<i>Larinioides patagiatus</i>	13, 56
<i>Leucauge</i>	100
<i>Leucauge blanda</i>	34, 101
<i>Leucauge crucinota</i>	35, 102

<i>Leucauge decorata</i>	35, 102
<i>Leucauge magnifica</i>	34, 101
<i>Leucauge subblanda</i>	35, 102
<i>Leucauge subgemmea</i>	35, 102

M

<i>Mangora</i>	89
<i>Mangora herbeoides</i>	28, 89
<i>Menosira</i>	96
<i>Menosira ornata</i>	32, 96
<i>Meta</i>	97
<i>Meta japonica</i>	32, 97
<i>Meta nigridorsalis</i>	32, 97
<i>Meta reticuloides</i>	33, 97
<i>Metleucauge</i>	98
<i>Metleucauge chikunii</i>	33, 98
<i>Metleucauge kompirensis</i>	33, 99
<i>Metleucauge yaginumai</i>	33, 100
<i>Metleucauge yunohamensis</i>	33, 100

N

<i>Neoscona</i>	67
<i>Neoscona adianta</i>	19, 68
<i>Neoscona amamiensis</i>	19, 68
<i>Neoscona melloteei</i>	20, 69
<i>Neoscona multiplicans</i>	21, 72
<i>Neoscona nautica</i>	19, 68
<i>Neoscona punctigera</i>	21, 72
<i>Neoscona scylla</i>	21, 70
<i>Neoscona scylloides</i>	20, 70
<i>Neoscona subpullata</i>	19, 69
<i>Neoscona theisi</i>	18, 67
<i>Neoscona vigilans</i>	22, 72
<i>Nephila</i>	94
<i>Nephila clavata</i>	31, 94
<i>Nephila pilipes</i>	31, 94

O

<i>Okileucauge</i>	100
<i>Okileucauge sasakii</i>	33, 100
<i>Ordgarius</i>	51
<i>Ordgarius hobsoni</i>	10, 51
<i>Ordgarius sexspinosus</i>	10, 51

P

<i>Pachygnatha</i>	103
<i>Pachygnatha clercki</i>	36, 104
<i>Pachygnatha quadrimaculata</i>	36, 103
<i>Pachygnatha tenera</i>	36, 104
<i>Paraplectana</i>	49

<i>Paraplectana sakaguchii</i>	10, 50
<i>Paraplectana tsushimensis</i>	10, 50
<i>Parazygiella</i>	55
<i>Parazygiella dispar</i>	12, 55
<i>Pasilobus</i>	50
<i>Pasilobus hupingensis</i>	10, 51
<i>Poltyis</i>	91
<i>Poltyis columnaris</i>	30, 91
<i>Poltyis illepidus</i>	30, 92
<i>Pronoides</i>	89
<i>Pronoides brunneus</i>	28, 89

S

<i>Singa</i>	54
<i>Singa hamata</i>	12, 54

T

<i>Tetragnatha</i>	104
<i>Tetragnatha bituberculata</i>	37, 105
<i>Tetragnatha boninensis</i>	111
<i>Tetragnatha caudicula</i>	36, 105
<i>Tetragnatha ceylonica</i>	37, 106
<i>Tetragnatha chauliodus</i>	39, 108
<i>Tetragnatha extensa</i>	38, 107
<i>Tetragnatha iriomotensis</i>	40, 111
<i>Tetragnatha javana</i>	37, 105

<i>Tetragnatha laqueata</i>	111
<i>Tetragnatha lauta</i>	39, 108
<i>Tetragnatha makiharai</i>	37, 106
<i>Tetragnatha mandibulata</i>	39, 108
<i>Tetragnatha maxillosa</i>	39, 110
<i>Tetragnatha nitens</i>	40, 111
<i>Tetragnatha pinicola</i>	38, 108
<i>Tetragnatha praedonia</i>	37, 106
<i>Tetragnatha shinanoensis</i>	38, 106
<i>Tetragnatha squamata</i>	38, 108
<i>Tetragnatha tanigawai</i>	38, 108
<i>Tetragnatha vermiformis</i>	39, 108
<i>Tetragnatha yesoensis</i>	38, 108
<i>Thelacantha</i>	52
<i>Thelacantha brevispina</i>	11, 52
<i>Tylorida</i>	100
<i>Tylorida striata</i>	34, 100
<i>Tylorida ventralis</i>	34, 100

Y

<i>Yaginumia</i>	93
<i>Yaginumia sia</i>	30, 93

Z

<i>Zygiella</i>	54
<i>Zygiella x-notata</i>	12, 55

謝 辞

Acknowledgments

この小冊子は私がこれまでに行ってきた研究の成果をまとめたもので、学位論文の一部をなすものです。学位取得にあたり、お忙しい中、ご指導、ご審査くださった京都大学の疋田 努先生、立命館大学の吉田 真先生、九州大学の荒谷邦雄先生、追手門学院大学の加村隆英先生、西川喜朗先生に厚くお礼申し上げます。

私がこれまでクモの研究をしていく間には、たいへん多くの方々にご教示やご助力をいただきました。ここに感謝の意を表明いたします。あまりに多くの方々のお世話になっていますので、お名前を挙げ忘れてしまっている方がおられるかもしれません。たいへんな失礼をお許しください。

私をクモの道へ導いてくださったのは、筑波大学名誉教授の関口晃一先生です。実は、私は大学に入学するまでは、クモが一番嫌いな生物でした。子供のころ、身の回りにうじゃうじゃいた黄色と黒のはでな模様をしたコガネグモや、真黒で毛むくじゃらな（そう見えたのです）オニグモは、私にとっては気持ち悪いだけの恐怖の生物でした。大学に入学して、最初の野外実習で関口先生と野外を歩き、オナガグモを見たことが私のクモ観を決定的に変えました。[クモって面白いな]と思うようになったのです。そして結局は、子供のころに最も嫌いであったコガネグモやオニグモの仲間を専門に研究するようになりました。

関口先生のご紹介で、大学周辺で採集した標本の同定を確認してくださったのが故八木沼健夫先生です。180 本もの標本瓶を抱えた初対面の学生に対して、先生はいやな顔ひとつせず、丁寧に應對していただきました。その時の経験から、私も、自分のところに若い人が来た時には、できるだけのことをしてあげようと思っています。八木沼先生には、その後もいろいろなご教示を頂きました。

高等学校の教員になった頃、一緒に生物部の顧問となった植村明也さんと田副幸子さんとは、[アホゼミ]と呼んでいた勉強会をやり、就職してからも生物の勉強・研究を続けようという気持ちを新たにしました。また、生物部の活動の一環で、日常的に学校周辺の自然観察を行い、自然観察の楽しさ面白さを再認識しました。そのころ、植村さんに誘われて初めて訪れた西表島は、私にとって衝撃の地：宝の山で、その後の私の研究の主たるフィールドになりました。西表島を皮切りにして、沖縄の各地を巡るようになってからは、佐々木健志さんに沖縄のフィールドに関していろいろと教えていただきました。

生物部の生徒たちと一緒に学校周辺のクモを採集するうちに、同定することのできない標本がたまってきました。そのころ種名を教えていただいたのが熊田憲一さん、新海栄一さんです。熊田さんは、私がそれまでに知らなかったビーティングという採集法を教えてください、そのおかげで標本採集効率は飛躍的に向上しました。また、クモの標本のスケッチのコツを教えてくださいましたのも熊田さんでした。そして新海栄一さんは、日本にもまだまだたくさんの新種のクモがいることを教えてくださいました。そしてついに私はクモの分類の研究を専門とするようになったのです。

分類の研究を始めた私に、分類研究の方法や論文の書き方などを手取り足取り丁寧に教えてくださいましたのが国立科学博物館の小野展嗣さんです。それ以来、私はクモの分類研究の面白さに魅せられ、もやは抜け出すことのできない楽しい泥沼に足を踏み入れたのです。

高校に就職したころに出会った池田博明さんや新海 明さんとは、アマチュアの研究者という同じ立場であったこともあって、常にいろいろなことを話し合い、多岐にわたる知識をもらいました。新海さんは、私にさまざまな刺激を与え、学位の取得や日本産クモ目録の作成、県別クモ類分布図の作成など、それまでに自分では考えてもいなかったことを[やろう]と思わせてくれました。私にとって新海 明さんは[二酸化マンガン]です。

私の分類研究が軌道に乗ってきたころ、新海さん池田さんたちが加藤輝代子さんのお宅で行っていた東京クモゼミに参加し始め、そこで出会ったのが東京大学の宮下 直さんです。宮下さんには科学的思考について改めて教えられ、私が分類学の方法論について考える上で大きな影響を受けました。結局、現在、私は、研究生として宮下さんの研究室に所属しています。その研究室内では、宮下さんのみならず、多くの学生さんたちから日々新鮮な刺激を受けております。とくに馬場 G.友希さんにはフィールド活動のお手伝いをさせていただいたり、データの解析法などいろいろなことを教わったりしています。

学位取得にあたっては、新海 明さんや宮下 直さん、立命館大学の吉田 真さんにお世話をいただきました。

本冊子を発行するにあたっては、馬場 G.友希さん、新海 明さんにご校閲をいただきました。また、田中一裕さん、井原 庸さん、加村隆英さんに不定期出版物編集委員をお引き受けいただき、鶴崎展巨さん、加村隆英さんにご査読いただきました。鶴崎さん加村さんには、学会誌へ投稿した論文原稿のレフェリーとしても、陰でたいへんお世話になっているものと思います。

分類学の研究には多数の標本を必要としますが、これを自分ひとりの力で収集するのは不可能です。私のこれまでの研究活動において、多くの方々から多大なご協力をいただきました。また、文中にお名前のない方からもいろいろとご教示いただきました。以下に、ご協力くださった方々、ご教示くださった方々のお名前をあいさつお順に挙げさせていただきます。失礼ながら敬称は省略させていただきました。

飯島寿子	池田勇介	井原 庸	上野妙子	大川秀治	大熊千代子	緒方清人
奥村賢一	小倉純一	金野 晋	萱島 泉	木村知之	木村正明	桑江 司
小林 K.頼太	斎藤 博	佐藤和昭	佐藤邦人	貞元巳良	島田 I.展人	杉本雅志
杉山時雄	鈴木 洋	高井俊行	高木 B.俊	高田 D.まゆら	田中穂積	田中徳久
田村常雄	千国安之輔	照屋健太	中平 清	長崎 D.緑子	長島 充	野嶋宏一
初芝伸吾	林 俊夫	伴 満	平松毅久	福島彬人	藤澤庸助	堀由起子
松田まゆみ	松本誠治	森美也子	安田明雄	保田信紀	山川 守	山野井 T.貴浩
八幡明彦	吉田 哉	亘 D.悠哉				

張 永浩	卓 逸民	尹 長民	朱 民生
------	------	------	------

Lennart Cederholm	Valerie T. Davies	Giuliano Doria
Jason A. Dunlop	Henrik Enghoff	Manfred Grasshoff
Mike Gray	P. J. van Helsdingen	Paul Hillyard
Thomas G. T. Jaenson	Peter Jäger	Torbjörn Kronestedt
Herbert W. Levi	Erik J. van Nieurkerken	James P. O'Connor
Norman I. Platnick	Gisela Rack	Robert J. Raven
Christine Rollard	Nikolaj Scharff	F. R. Wanless

ありがとうございました。

I wish to express my heartfelt thanks for your kind help.